

植物

植物概論

概要

植物に関しては、福岡県 RDB2001 では維管束植物（種子植物とシダ植物）だけを対象としていたが、今回の見直しでは維管束植物のほか、環境省のレッドデータブックで対象としている蘚苔類、藻類、地衣類、菌類を選定の対象とした。

福岡県の維管束植物相については、中島一男「福岡県植物目録」（1952）、福岡県高等学校生物研究会編「福岡県植物誌」（1975）および福岡植物研究会による「福岡県植物目録」第1巻（1988）・第2巻（1993）が出版されたが、それ以降福岡県の植物相の全容に関する新たな出版物は刊行されていない。福岡植物研究会による「福岡県植物目録」は標本に基づく詳細な分布状況が記録されており、シダ植物、裸子植物および被子植物の一部については希少性の評価も含め、福岡県内の各種の分布生育状況が判断できる。しかしながら、被子植物の多くの種については、そもそも福岡県にどの程度分布していたものかという情報が十分でない。この状況は10年前からほとんど変化していない。

福岡県 RDB2001 刊行後、熊谷信孝「貫・福智山地の自然と植物」（2002）・「英彦山・犬ヶ岳山地の自然と植物」（2010）が刊行され、この地域の植物の記録が充実した。また、ダム事業に関する環境アセスメントや市町村が実施した自然環境調査により、福岡県 RDB2001 掲載種の生育記録が各地から報告されている。しかし、現状では福岡県の網羅的な植物目録は作成できていない。このため、RDB の調査対象種は、福岡県 RDB2001 の掲載種と、上記の出版物の掲載種のうち環境省のレッドリスト掲載種、その他分科会委員が選定したものとした。

今回の RDB 改訂にあたっては、特にこの10年間に大きな変化があったと考えられる「山地におけるシカをはじめとする動物の増加の影響」「ため池の管理状況の変化による水生植物への影響」をとらえることを中心に現地調査を実施した。また、文献資料等の調査により、各種の最近の変化傾向を把握し、カテゴリーの再評価を実施した。新たな情報が得られなかった種については、原則として福岡県 RDB2001 のカテゴリーを変更しなかった。

蘚苔類、藻類、地衣類、菌類については、福岡県 RDB2001 では取り扱っていなかったため、まず福岡県内の現状を把握する必要がある。しかし、維管束植物と比べても研究者が少なく、情報の蓄積も少なかった。蘚苔類、藻類、地衣類については前掲の福岡県高等学校生物研究会編「福岡県植物誌」（1975）に目録が掲載されている。また、地衣類では、柏谷ら「英彦山及びその周辺地域の地衣類」（1998）に大分県と福岡県にまたがる地域の地衣類リストが掲載されている。一方、菌類については、本郷次雄監修・熊本きのこ会「熊本のきのこ」（1992）に福岡県の情報が一部掲載されているが、それ以外は報文を2〜3報確認しただけであった。これらの分類群については、環境省のレッドリスト掲載種のうち福岡県内に分布すると考えられるもののほか、福岡県内で特に重要と考えられる種を、それぞれの専門家の意見を踏まえて選定することとした。

調査体制は、維管束植物については、分科会委員の矢原、真鍋、福原、三島が、海草類・藻類については川口が担当した。いずれも分科会委員以外の専門家（大学院生を含む）の協力を得て調査を実施した。また、蘚苔類については、兵庫県立大学（人と自然の博物館）の秋山弘之氏と広島大学の山口富美夫氏に、地衣類については佐賀大学の宮脇博巳氏に、菌類については大分県農林水産研究指導センターの村上康明氏に調査および原稿執筆を依頼した。蘚苔類は、山口氏が古処山地と英彦山地の現地調査を実施し、その結果を踏まえてカテゴリー選定と原稿の執筆を行った。地衣類は国立科学博物館の大村嘉人氏の協力を得て、宮脇氏がカテゴリー選定と原稿の執筆を行った。菌類は、九州各地の菌類に詳しい方々への聞き取りを踏まえ、村上氏がカテゴリー選定と原稿の執筆を行った。

今回の RDB 改訂で各カテゴリーに選定した種数の一覧表を表 植物-1 に、維管束植物の RDB2001 からのカテゴリー新旧対応表を表 植物-2 に示した。

選定基準

維管束植物では、対象種が多いため調査に限界があり、情報が得られないものが多かった。カテゴリーの判定にあたっては、確認されている株数や確認地点数を踏まえて可能な限り定量的な評価を行った。しかし、前回のレッドデータブック以降の新たな情報が得られなかったものは基本的に前回の評価を変更しないこととした。また、維管束植物以外では、環境省のレッドリストを参考にして、県内の情報が少ない場合は環境省リストに準じた評価とした。

表 植物-1 選定種数

	絶滅（野生絶滅）	絶滅危惧IA類	絶滅危惧IB類	絶滅危惧II類	準絶滅危惧	情報不足
植物（維管束植物）	37（2）	278	131	98	39	21
植物（その他）	地衣類 1	絶滅危惧I類 蘇苔類 2 藻類 3 地衣類 3		蘇苔類 4 藻類 4	蘇苔類 7 藻類 3 地衣類 1 菌類 1	蘇苔類 2 藻類 1 地衣類 2 菌類 5

希少植物の生育環境

希少な植物が多く生息している環境として、福岡県内では、以下の環境が挙げられる。

(1) 山地の落葉広葉樹林

犬ヶ岳～英彦山、釈迦岳～御前岳、脊振山地、井原山～雷山などの山地上部（主に標高 800m 以上）には、ブナを伴う落葉広葉樹林が見られる。これらの落葉広葉樹林には、冷温帯性の希少植物が数多く生育している。また、それぞれの山系にのみ生育する希少種がある。犬ヶ岳～英彦山は、冷温帯性の希少植物が最も多い地域であり、ワチガイソウ・クロフネサイシン・ウンゼンマンネングサ・クロクモソウなどはこの地域にのみ生育する。しかしながら、犬ヶ岳～英彦山では、近年シカの増加が著しく、希少植物を含む林床植生はほとんど消失してしまった。このため、犬ヶ岳で発見・記載されたツツイイワヘゴは絶滅し、ユキザサ・オオキヌタソウなどの多くの絶滅危惧種が、絶滅寸前の状態にある。植生防護柵による対策を緊急に実施する必要がある。釈迦岳～御前岳には、ハリモミ、エンシュウツリフネなどが生育する。この山系にもシカが進入しているので、林床植生と希少植物の保全対策を早急に行う必要がある。脊振山地、井原山～雷山は東西に連続しており、植物相も類似している。アカソ・クサコアカソ・ウンゼンカンアオイなどは共通して見られるが、オニコナスビ・バイケイソウなどは脊振山地だけに、ヤマブキソウ・ツクシトウヒレンなどは井原山～雷山だけに見られる。これらの山系にはシカが生息していないので、林床植生が豊かであるが、ラン科植物、ツクシマムシグサなどは減少している。減少している種はインターネットの通販などで販売されているため、商業目的の採集が減少を促進している可能性がある。

(2) 常緑広葉樹林

低地の常緑広葉樹林は古くから人間によって利用されてきたため、成熟した常緑広葉樹林は古い社寺林などの限られた場所のみに残されている。トキワガキ・キシウナキリスゲなどはこのような場所に限って見られる。沖ノ島には原生的な常緑広葉樹林が残されており、ヒゼンマユミ・イソヤマアオキ・ミヤコジマツツラフジ・オオタニワタリなどの絶滅危惧種が生育して

いる。しかし、沖ノ島でも環境は変化しており、オオユリワサビは絶滅し、タチバナ・リュウキュウミヤマシキミは今回の調査では発見できなかった。常緑広葉樹林内の溪流沿いには、アオグキイヌワラビ・タカサゴシダ・ムラサキベニシダ・ハウノカワシダなどの絶滅危惧種のシダ植物が見られる。また、常緑広葉樹林の林床はもともとラン科植物が多い環境だったが、園芸用の採取によって減少し、エビネ・キエビネ・ナツエビネ・ナギランなど多くの種が絶滅危惧種となっている。また、キンラン・ギンランなどは、里山の明るい常緑広葉樹二次林の遷移が進み、林床が暗くなったために減少している。一方で、絶滅したと考えられていたハツシマランが県内数地点で再発見され、ベニシュスランなどが新たに発見された。また、暗い林床に生える腐生ラン（ムヨウラン類、マヤラン、タシロランなど）が、最近各地で確認されている。これらの林床性のランについては、常緑広葉樹二次林の遷移とともに、回復している可能性がある。

(3) 草地・草原

萱場の減少や、里山の手入れ不足による明るい草地・林縁の減少とともに、ツチグリ・イヌハギ・マキエハギ・シバハギ・ミシマサイコ・リンドウ・フナバラソウ・スズサイコ・オキナグサ・オケラなど、多くの草地・草原性の植物が絶滅危惧種となっている。また、山地草原の消失とともに、ホソバシロスミレ・キュウシュウコゴメグサ・マツムシソウは絶滅した。

(4) 湿地・小川・ため池

最も消失・劣化が著しい生息環境であり、これらの環境に生育する植物の多くは、絶滅危惧種となっている。ハンノキが優先する低地の湿地林はほぼ消失し、ハンノキは単木的にわずかに残るだけとなっている。サワギキョウが優先する低湿地もほぼ消失し、サワシロギク・サギソウなどかつては各地に見られた植物が絶滅寸前状態となっている。また、ため池の三面護岸工事、高水位管理、池干し中止などにより、水位変動のあるため池の水辺に生育していたサイコクヌカボ・ヤナギヌカボ・コイヌガラシ・イヌセンブリ・ミゾコウジュ・ミズネコノオ・ホソバニガナ・ホシクサ類などが絶滅危惧種となっている。小川・水路も三面護岸工事が進み、土手に生えるミズタカモジ、水路に生えるミクリ類などが絶滅危惧種となっている。ため池や小川・水路に生育する沈水植物では、オニバス・タヌキモ・ミカワタヌキモ・ノタヌキモ、ヒメバイカモ・タチモ・ガシャモクなど多くの種が絶滅危惧種となっている。また、かつては水田に広く見られたミズオオバコ・イトトリゲモなどが、水田耕作法の変化に伴い、絶滅危惧種となっている。

(5) 海岸植生

ゲンカイミミナグサ・エゾオオバコ・トウオオバコ・コナミキなどの礫浜の植物、カワラサイコ・クサスギカズラ・ハマタマボウキ・ハマニンニクなどの砂浜の植物、イソホウキギ・シチメンソウ・ヒロハマツナ・フクド・ウラギク・シバナなどの干潟の植物が、人間による海岸の利用の拡大とともに減少し、絶滅危惧種となっている。ゲンカイイワレンゲ・イワレンゲ・ダルマガクなどの岩場の植物にも絶滅危惧種が見られるが、礫浜・砂浜・干潟の植物に比べれば生育地の状態が安定している。

(6) 石灰岩地

平尾台・香春岳・古処山・井原山（水無）などの石灰岩地には、独特の植生が発達し、ミヤコ

ミズ・キビノクロウメモドキ・チョウジガマズミ・イワツクバネウツギ・オニシバリなど、石灰岩地にのみ生育する絶滅危惧種が見られる。このうち、わが国では古処山だけに生育していたオオベニウツギは、今回の調査では発見できず、絶滅したものと考えられる。古処山ではシカが増えており、その影響も考えられるが、原因は特定できない。香春岳では石灰岩の採掘が進行しており、イチョウシダは消失するものと思われる。ただし、イチョウシダについては、田川市の石灰岩地で生育を確認した。他の石灰岩地では、生育環境は比較的安定しているが、個体数が少ない絶滅危惧種に関しては、継続したモニタリングが必要である。平尾台のカルスト台地には広い面積にわたって草原的環境が維持され、ムラサキ・ヒナノキンチャク・ゴマノハグサ・カセンソウ・ヒメヒゴタイ・コキンバイザサ・ヒオウギ・ノヒメユリ・ツレサギソウ・ハシナガヤマサギソウなど、草原性絶滅危惧種のホットスポットとなっている。

保全対策

今回の改訂では維管束植物では 606 種がリストに掲載され、掲載種数は前回よりも 26 種増加した。新たに掲載した種が 54 種あるほか、RDB2001 からカテゴリーを高いものに変更した種が 17 種、情報不足からカテゴリー評価を行ったものが 98 種あり、この 10 年間においても全般的には生物の絶滅の危険性は増大していると言える。

この 10 年間で増加した植物へのリスクとしてシカによる食害が挙げられる。英彦山地および古処山地ではシカの増加が林床の植物に壊滅的な打撃を与えている。国立公園等の自然保護区において特にシカが増加しており、林床の植物が全くない場所もある。既に確認できなくなっている希少植物については、最近まで生育していた生育地を囲うシカよけフェンスを早急に設置し、埋土種子等からの再生を急ぐ必要がある。

参考資料

- (1) 福岡県自然環境課, 2001. 福岡県の希少野生生物—福岡県レッドデータブック 2001—.
- (2) 熊谷信孝, 2010. 英彦山・犬ヶ岳山地の自然と植物
- (3) 熊谷信孝, 2002. 貫・福智山地の自然と植物
- (4) 福岡植物研究会, 1993. 福岡県植物目録 第 2 巻.
- (5) 福岡植物研究会, 1988. 福岡県植物目録 第 1 巻.
- (6) 福岡県高等学校生物研究会編, 1975. 福岡県植物誌.
- (7) 中島一男, 1952. 福岡県植物目録.

維管束植物の各種の記載では、福岡県 RDB2001 の記載を引用する場合は[1]と表示して文献名を省略した。

表 植物-2 維管束植物の新旧対照表

	福岡県用第2961の категория								
	絶滅	野生絶滅	絶滅危機I類	絶滅危機II類	準絶滅危類	準絶滅危類	情報不足	ランク外	
	絶滅 21種		オオアカウキクサ				ツタンアキツルイネコ ホノバヒメノオ	カザグルマ	
	野生絶滅	1種						トバダアキメ	
	絶滅危機IA類	ヒロハノエビモ ダイサギソウ ハツシマラン	112種	キビヒトリズカ シモツケソウ オオキヌタソウ	イソヤマアオキ タチバナ リュウキウミヤマシキミ スズムシバナ ナバナ オオモミジガサ テバコモミジガサ タマガワホトトギス		マンネンシギ ハマハナキスリ ウスバヘビノネコサ フモトシケンダ オオヒメワラビモドキ タチハコバ フシダロセンノウ ウンジョウメクサ オオヤマハコバ カラマツソウ ヒメツルアズキ ヒメノボタン ウシタキノウ ハナヒビキ ツクシゼリ シラネセンキュウ リュウキウロコギク トキワカモメヅル ヤマドリ スズコウジュ ミヤマナミキ キウキウシユウゴメダサ カワラハハコ クワニンジン オオハシメチ サワシロギク モリアザミ アキノハハコガサ チヨウセンヤクマニガナ ヒナヒゴタイ ミヤコバシ キビシロタンボボ キスダ コキンバイササ	タカトウダイ サクラスミレ ハマウツボ キヨスミウツボ ムサシモ アキノウスレギサ ナベワリ オオミドリ クダマラン ユロシユラン ベニシユラン クモイジガサ ハシナガキマサキソウ マイサギソウ	
	絶滅危機II類	シチメンソウ	ホソノカワシダ オオイブヒトデ コタメ ヒロハマツナ アゼオトギリ ギンハクハクソウ エンシユウツリフネソウ マルバノホトシ カワツルモ ウスギワニグチソウ	81種	ヒノキシダ ウラベク ツクシトウヒレン シバナ		ホソバシロガマ ツツホシダ イヌブナ イヌナズナ キハギ アオカズラ ヤマモリ ウメガサソウ シタキノウ スズメハコバ タヌキモ	ミヤマヨメナ シバハギ クサシギカズラ カノコユリ キツネノカミソリ キンバイザサ ヒメコカガサ アワガサ シズイ アキザキヤツシロラン	ミズワラビ ヒメコウホネ シバハギ コガネビ クマヤマガミ ホソキキカシゲサ カラタチハナ モウコタンボボ キジカシ ユキザサ シガハチソウ ジンハイソウ
	絶滅危機II類			オオタニワタリ オオバアサガラ イワツクハネウツギ セキノウモ ヒメコウガイゼキショウ ユガマ	13種	コシノヤマタイムン ガサ	ミドリワラビ イヨタジヤク コガネシダ ミヤマイボタ オグルマ	ワサビ ミズマツバ ゴマノハグサ ヒナノウスツボ オオヒナノウスツボ アマナ ハマタマボウキ ウツシマムシグサ ギンラン アケボノシユスラン ムカゴソウ クモキリソウ クワイラン	
	準絶滅危類		クサコアカソ ワカバアオイ	アサソ マルバニッコイ タンナトリカブト リュウキンカ サザンカ バイカウツギ ホソバナコバイモ	1種	ヒノキ ノヤナギ	ネズミサシ ヒメタデ ナガバノウナギツカミ ウナギツカミ シマヒメタデ ネノリタデ オオネバリタデ マダイオウ オオヤマフスマ ウレシシカンアオイ ミノコウジュ ウミヒルモ エビアマモ		
	情報不足						1種		
	ランク外	ヒトツバシケンダ	アカメクジャク ガンドシダ ツクシワラビ インバモ アイノヒルムシロ イワキアブラガヤ	ニセオドリコカグマ シンケンウツボシ ツルノバ	コウラカナワラビ セツリワラビ ハマセンダン	イワシダ ハンリドロコ	ヒュウガシダ ツシマンネンダサ ヨブレネコノメ スナヒキノウ ヒメノオ アノコギリソウ シオン	サンインギク ヤナギタンボボ ハゲヌカボ マンゴドジョウツナギ セイタカスズムシソウ スズムシソウ	

全国のカテゴリ

ヒカゲノカスラ科	ヒモラン	絶滅
<i>Huperzia sieboldii</i> (Miq.) Holub		2001:絶滅, 環境省:絶滅危惧 IB 類
選定理由	1952年の文献記録(旧宝珠山村)があるのみで標本も保存されておらず、現存する可能性はない。[1]	
ホウライシダ科	クジャクシダ	絶滅
<i>Adiantum pedatum</i> L.		2001:絶滅, 環境省:—
選定理由	八女市旧星野村に知られていた九州唯一の自生地は、道路の拡張工事で消失した。[1]	
シシラン科	タキミシダ	絶滅
<i>Antrophyum obovatum</i> Baker		2001:絶滅, 環境省:絶滅危惧 IB 類
選定理由	最後に確認された宮若市旧若宮町の自生地は、森林伐採で消失した。[1]	
オンダ科	ミヤジマシダ	絶滅
<i>Cyrtomium balansae</i> (H.Christ) C.Chr.		2001:絶滅, 環境省:—
選定理由	八女市旧立花町にあった唯一の自生地は常緑樹林伐採のため消失した。[1]	
ヒメシダ科	ハイミミガタシダ	絶滅
<i>Thelypteris aurita</i> (Hook.) Ching		2001:絶滅, 環境省:絶滅
選定理由	1972年に八女市旧立花町で発見されたが、1995年に消失が確認された。[1]	
イワデンド科	イヌイワデンド	絶滅
<i>Woodsia subintermedia</i> Tzvelev		2001:絶滅, 環境省:—
選定理由	築上町旧築城町に約 10 個体の生育が知られていたが、1994年には消滅していた。岩場の乾燥化が、絶滅の原因と推定される。[1]	
アカウキクサ科	オオアカウキクサ	絶滅
<i>Azolla japonica</i> (Franch. et Sav.) Franch. et Sav. ex Nakai		2001:絶滅危惧 IA 類, 環境省:絶滅危惧 II 類
選定理由	大木町に生育していたが、2001年版の時点で消失しており、その後も確認されていない。福岡市、糸島市などで最近発見されているのは、近縁な外来種である。	
キンポウゲ科	カザグルマ	絶滅
<i>Clematis patens</i> C.Morren et Decne.		2001:—, 環境省:準絶滅危惧
選定理由	1968年に英彦山で撮影された写真がある。今はスギ木立となっており絶滅した。(熊谷, 2010)	
キンポウゲ科	ノカラマツ	絶滅
<i>Thalictrum simplex</i> L. var. <i>brevipes</i> H.Hara		2001:絶滅, 環境省:準絶滅危惧
選定理由	那珂川町九千部山、新宮町相島の2カ所で採集された記録があるのみで、その後の記録産地での再確認はなく、絶滅したのと考えざるを得ない。[1]	
アブラナ科	オオユリワサビ	絶滅
<i>Eutrema okinosimense</i> Taken.		2001:絶滅, 環境省:—
選定理由	沖ノ島では1963年以降再確認されていない[1]。沖ノ島が基準標本産地であるが、2000年に北陸地方でユリワサビとされていたものの中にオオユリワサビが含まれていたことが発表され、四国から東北地方に分布している。	

バラ科	ズミ	絶滅
<i>Malus toringo</i> (Siebold) Siebold ex de Vriese		2001:絶滅, 環境省:—
選定理由	北九州市門司区戸上山(1929年採集), うきは市杷木町針目山(1980年採集)の2カ所が記録産地であるが, ともに採集者により絶滅が確認されている。土地開発と森林伐採が絶滅の原因である[1]。	
バラ科	ツクシアキツルイチゴ	絶滅
<i>Rubus hatsushimae</i> Koidz.		2001:情報不足, 環境省:絶滅
選定理由	2001年版に情報不足種としてリストされている。環境省レッドリスト(2007)で絶滅種とされた。	
ハマビシ科	ハマビシ	絶滅
<i>Tribulus terrestris</i> L.		2001:絶滅, 環境省:絶滅危惧IB類
選定理由	福岡市西区能古島(1989年採集), 宗像市玄海町(1933年, 1965年採集)は海浜の開発で絶滅。能古島では1994年には絶滅していた。本県ではもともと希少の植物であった[1]。	
ヒシ科	ヒメビシ	絶滅
<i>Trapa incisa</i> Siebold et Zucc.		2001:絶滅, 環境省:絶滅危惧II類
選定理由	1983~1989年まで, 北九州市若松半島西部で, 主に農業用水路の3カ所にはかの水草にまじって生育していた。水路の改修, 暗渠化, 造成工事などの際に消滅したと考えられる[1]。	
サクラソウ科	サクラソウ	絶滅
<i>Primula sieboldii</i> E.Morren		2001:絶滅, 環境省:準絶滅危惧
選定理由	古い文献記録(旧甘木市, 旧宝珠山村)があるだけで, 1950年代以後の再確認はなく, 絶滅したものと推定される。[1]	
ミツガシワ科	ミツガシワ	絶滅
<i>Menyanthes trifoliata</i> L.		2001:絶滅, 環境省:—
選定理由	古い標本記録(春日市)があるが, 現在は見られない。[1]	
ミツガシワ科	ヒメシロアサザ	絶滅
<i>Nymphoides coreana</i> (H.Lév.) H.Hara		2001:絶滅, 環境省:絶滅危惧II類
選定理由	福岡市東区の海岸砂丘内のほとんど干上がった小さい池で, 1975年に発見されたのが唯一の採集記録である。同所ではその後の再確認がなく絶滅したという。絶滅の原因は不明。[1] 他の場所で再発見の可能性がある。	
ゴマノハグサ科	ホソバママコナ	絶滅
<i>Melampyrum setaceum</i> (Maxim. ex Palib.) Nakai		2001:絶滅, 環境省:絶滅危惧IB類
選定理由	記録のうち2カ所は産地不詳。近年採集された3カ所では再確認はできず, 絶滅したと推定される。1カ所では工事に伴い自生地が削り取られたのが, 絶滅の原因である。[1] 他の場所で再発見の可能性はある。	
ゴマノハグサ科	ホソバヒメトラノオ	絶滅
<i>Pseudolysimachion linariifolium</i> (Pall. ex Link) Holub		2001:情報不足, 環境省:—
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)に「三国山に分布」とあるが, 標本は現存せず, 以降も確認されたことがない。	
マツムシソウ科	マツムシソウ	絶滅
<i>Scabiosa japonica</i> Miq.		2001:絶滅, 環境省:—
選定理由	県内5カ所に文献・標本記録があるが, これら全ての自生地で現存しないので, 絶滅したと考えられる。[1]	

キキョウ科	タチミソカクシ	絶滅
<i>Lobelia chevalieri</i> Danguy		2001:絶滅, 環境省:絶滅危惧 IA 類
選定理由	現在の西鉄春日原駅付近に自生地があったが宅地開発で消滅した。筑後市赤坂の具体的な産地は不詳であるが、その付近では再確認がなく絶滅したと考えられる。本県では極めて稀で、日本における北限であった。[1]	
キク科	フジハカマ	絶滅
<i>Eupatorium japonicum</i> Thunb.		2001:絶滅, 環境省:準絶滅危惧
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)に記録された福岡市中央区大濠公園が唯一の記録産地である。その後の確認記録はなく、絶滅したと考えられる。[1]	
オモダカ科	マルバオモダカ	絶滅
<i>Caldesia parnassifolia</i> (Bassi. ex L.) Parl.		2001:絶滅, 環境省:絶滅危惧 II 類
選定理由	1983 年には上毛町(旧大平村)の山間部の貧栄養の小さなため池に浮葉を浮かべて生育していたが、現在は確認されていない。[1]	
トチカガミ科	スブタ	絶滅
<i>Blyxa echinosperma</i> (C.B.Clarke) Hook.f.		2001:絶滅, 環境省:絶滅危惧 II 類
選定理由	筑後市羽犬塚(1929)の標本産地がある。また、1960 年代には久留米市高良台に自生が見られた。しかし、いずれの場所でも再確認がなく絶滅したと思われる。除草剤、農薬の多用、圃場整備が絶滅の要因と考えられる。[1]	
トチカガミ科	コウガイモ	絶滅
<i>Vallisneria denseserrulata</i> (Makino) Makino		2001:絶滅, 環境省:一
選定理由	1987 年、旧玄海町(宗像市)の牟田池で自生が確認された。これが県内唯一の生育地であったが、1990 年以降の調査では確認されていない。九州ではほかに鹿児島県の記録がある。[1]	
イネ科	ツクシガヤ	絶滅
<i>Chikusichloa aquatica</i> Koidz.		2001:絶滅, 環境省:絶滅危惧 IB 類
選定理由	八女市と筑後市に記録されているが、いずれの場所でも確認できなかった。護岸工事や農地改良事業により生育場所が消失したため絶滅したと思われる。[1]	
イネ科	ハマムギ	絶滅
<i>Elymus dahuricus</i> Turcz. ex Griseb.		2001:絶滅, 環境省:一
選定理由	福津市(旧津屋崎町)、新宮町などで記録があった。生育環境が消滅したのが要因と考えられる。[1]	
イネ科	オニカモシ	絶滅
<i>Elymus tsukushiensis</i> Honda var. <i>tsukushiensis</i>		2001:絶滅, 環境省:絶滅危惧 IA 類
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)には「福岡(箱崎・西公園)・玄界島」と記録されている。恐らく自生地の人工的改変の影響を受けて消滅したのであろう。[1]	
イネ科	ウンヌケ	絶滅
<i>Eulalia speciosa</i> (Debeaux) Kuntze		2001:絶滅, 環境省:準絶滅危惧
選定理由	京都大学、首都大学東京牧野標本館に久留米市、広川町、添田町の標本がある。しかし、『福岡県植物目録』(1952)にも、『福岡県植物誌』(1975)にも記載がなく、以後の採集記録もない。[1]	
カヤツリグサ科	ヌマクロボスゲ	絶滅
<i>Carex meyeriana</i> Kunth		2001:絶滅, 環境省:絶滅危惧 II 類
選定理由	広川町の自生地では 1975 年の時点で確認されていない。久留米市高良台の自生地では、2001 年の時点で確認されていない。[1]	

カヤツリグサ科		ムギガラガヤツリ	絶滅
<i>Cyperus unioloides</i> R.Br.		2001:絶滅, 環境省:絶滅危惧 IA 類	
選定理由	6 カ所の標本記録(福岡市城南区, 篠栗町, 久留米市, 広川町, 旧新吉富村)があるが, 全ての場所で現存が確認されていない。[1]		
カヤツリグサ科		ミスミイ	絶滅
<i>Eleocharis acutangula</i> (Roxb.) Schult.		2001:絶滅, 環境省:絶滅危惧 IB 類	
選定理由	4 カ所に標本記録(福岡市, 春日市, 北九州市, 旧新吉富村)があるが, 全ての場所で現存が確認されていない。ため池の管理放棄によるほかの植物の侵入や水位の上昇が消滅の原因と考えられる。[1]		
カヤツリグサ科		チャボイ	絶滅
<i>Eleocharis parvula</i> (Roem. et Schult.) Link ex Bluff, Nees et Schauer		2001:絶滅, 環境省:絶滅危惧 II 類	
選定理由	福岡市西区今津で 1934 年と 1936 年の 2 回採集されただけである。その後の確認記録がなく, 今回の調査でも発見できなかった。		
カヤツリグサ科		ミクリガヤ	絶滅
<i>Rhynchospora malasica</i> C.B.Clarke		2001:絶滅, 環境省:絶滅危惧 IB 類	
選定理由	標本の全てが 1939 年以前に採集されたもの(福岡市, 久留米市ほか)であり, その後の確認記録がない。		
カヤツリグサ科		カガンラ	絶滅
<i>Scleria caricina</i> (R.Br.) Benth.		2001:絶滅, 環境省:絶滅危惧 II 類	
選定理由	標本の全てが 1935 年以前に採集されたもの(福岡市, 春日市)であり, その後の確認記録がない。		
カヤツリグサ科		ミカワシンジュガヤ	絶滅
<i>Scleria mikawana</i> Makino		2001:絶滅, 環境省:絶滅危惧 II 類	
選定理由	採集された標本のほとんどが 1939 年以前に採集されたもの(福岡市, 久留米市, 広川町)で, その後は全く再確認されていないので, 本県では絶滅したものと考えられる。[1]		
ラン科		キリシマエビネ	絶滅
<i>Calanthe aristulifera</i> Rehb.f.		2001:絶滅, 環境省:絶滅危惧 IB 類	
選定理由	1933 年に福岡市で採集された標本が残されている。その後の確認記録がなく, 本県では絶滅したものと考えられる。[1]		
キンポウゲ科		ヒメハイカモ	野生絶滅
<i>Ranunculus trichophyllus</i> Chaix var. <i>kazusensis</i> (Makino) Wiegleb		2001:野生絶滅, 環境省:絶滅危惧 IB 類	
選定理由	1991 年北九州市登尾下池で約 20 株が確認された。本種は清流中に生育していることが多いが, ここではため池で生育していた。池の改修工事が行われ, 1994 年以降は確認されていない。栽培下で系統保存されている。[1]		
アヤメ科		トバタアヤメ	野生絶滅
<i>Iris sanguinea</i> Hornem. var. <i>tobataensis</i> S.Akiyama et Iwashina		2001:—, 環境省:—	
選定理由	明治時代まで北九州市内に自生していたが, 現在では園芸目的で栽培されるのみである。2009 年に新変種として記載された。		

ヒカゲノカズラ科		スギラン	絶滅危惧 IA 類
		<i>Huperzia cryptomerina</i> (Maxim.) Dixit	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	2カ所では森林伐採により消滅している。添田町で1975年に採集されたのが県内最後の記録である[1]。現状は不明であるが、現存する可能性がある。		
危機要因	森林伐採, 産地局限		
分布情報	添田町, 八女市(旧星野村, 旧矢部村), 豊前市(全て現状不明)		
種の概要	樹上に着生する常緑の多年草		
特記事項	特になし		

ヒカゲノカズラ科		マンネンスギ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Lycopodium dendroideum</i> Michx.	2001: 情報不足, 環境省: ー
選定理由	県内では3カ所から報告されているが、糸島市羽金山では、自生地にススキなどが密生し、本種は消失した。他の2カ所で現存するかどうかは不明である。		
危機要因	産地局限, 遷移進行		
分布情報	築上町(旧椎田町), 八女市(旧矢部村)(以上現状不明), 糸島市(消滅)		
種の概要	地上生の小型常緑多年草		
特記事項	特になし		

ミスニラ科		シナミスニラ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Isoetes sinensis</i> T.C.Palmer var. <i>sinensis</i>	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	自生地が限られており、ため池の工事、水位管理などのために減少している。		
危機要因	ため池改修		
分布情報	豊前市, 上毛町(旧大平村, 旧新吉富村), 北九州市		
種の概要	沈水性で夏緑性の小型多年草		
特記事項	特になし		

ミスニラ科		オオバシナミスニラ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Isoetes sinensis</i> T.C.Palmer var. <i>coreana</i> (Y.H.Chung et H.K.Choi) M.Takamiya, Mitsu.Watan. et K.Ono	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 IB 類
選定理由	自生地が限られており、ため池の工事、水位管理などのために減少している。		
危機要因	ため池改修		
分布情報	行橋市		
種の概要	沈水性で夏緑性の小型多年草		
特記事項	特になし		

ハナヤスリ科		ハマハナヤスリ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Ophioglossum thermale</i> Kom. var. <i>thermale</i>	2001: 情報不足, 環境省: ー
選定理由	生育地が局限されており、最近の確認記録がない。		
危機要因	湿地開発, 草地開発		
分布情報	築上町(旧椎田町), 福岡市		
種の概要	日当たりのよい砂地や草地に生える夏緑性の小型多年草		
特記事項	特になし		

コケシノブ科		コケシノブ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Hymenophyllum wrightii</i> Bosch	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -
選定理由	自生地が局限されており, 1975 年以後確認されていないが, 精査すれば再発見の可能性はある。		
危機要因	産地局限		
分布情報	添田町		
種の概要	岩や樹幹に着生する小型の多年草		
特記事項	特になし		

コバノイシカグマ科		オウレンシダ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Dennstaedtia wilfordii</i> (T.Moore) H.Christ ex C.Chr.	2001: 絶滅危惧 IA 類 (オウレンシダ), 環境省: -
選定理由	生育地が限定され, 個体数は減少傾向にある。		
危機要因	産地局限		
分布情報	嘉麻市(旧嘉穂町)		
種の概要	落葉性の多年草		
特記事項	筑後川県立自然公園指定植物		

コバノイシカグマ科		オドリコカグマ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Microlepia izupeninsulae</i> Sa.Kurata	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -
選定理由	県内 4 カ所で自生地が知られているが, 個体数は 50 未満である。		
危機要因	産地局限, 森林伐採		
分布情報	筑紫野市, 福岡市		
種の概要	山地林下の溪流の近くに見られる常緑の多年草		
特記事項	特になし		

ホウライシダ科		ハコネシダ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Adiantum monochlamys</i> D.C.Eaton	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -
選定理由	県内 5 カ所に記録があるが, 最近では確認されていない。もともと個体数が少なく, 絶滅した可能性もある。		
危機要因	産地局限		
分布情報	添田町, 八女市(旧矢部村), 築上町(旧築城町), 豊前市(全て現状不明)		
種の概要	岩壁に着生する多年草		
特記事項	特になし		

ホウライシダ科		エビガラシダ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Cheilanthes chusana</i> Hook.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	県内 1 カ所に自生地が知られているだけであり, 個体数は 250 個体未満で, 減少傾向にある。今回の調査では自生地を訪問していないが, 2005 年時点まで生育が確認されており, 現存していると考えられる。		
危機要因	道路工事		
分布情報	八女市(旧黒木町)		
種の概要	石垣や崖に生える小型の多年草		
特記事項	特になし		

シシラン科		ナカミシシラン	絶滅危惧 IA 類
<i>Haplopteris fudzinoi</i> (Makino) E.H.Crane		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -	
選定理由	県内 5 地点で確認されているだけである。森林伐採により減少し、現存個体数は 50 未満と考えられる。		
危機要因	森林伐採, 産地局限		
分布情報	福岡市早良区, 朝倉市(旧甘木市), 添田町, 八女市(旧矢部村)		
種の概要	ブナなどの大木や岩に着生する多年草		
特記事項	特になし		
イノモトソウ科		キドイノモトソウ	絶滅危惧 IA 類
<i>Pteris kidoi</i> Sa.Kurata		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類	
選定理由	県内 5 カ所の石灰岩地に分布が局限されており、現存個体は 50 未満と推定される。		
危機要因	石灰採掘, 産地局限		
分布情報	北九州市小倉南区, 香春町, 田川市, 苅田町		
種の概要	石灰岩の岩上に生える多年草		
特記事項	特になし		
イノモトソウ科		アイコハチジョウシダ	絶滅危惧 IA 類
<i>Pteris laurisilvicola</i> Sa.Kurata		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -	
選定理由	筑紫野市の 1 地点にだけ知られ、個体数は 50 個体未満である[1]。今回の調査では自生地を確認していない。		
危機要因	産地局限		
分布情報	筑紫野市, 久留米市(絶滅)		
種の概要	常緑林内谷部の湿った場所に生える多年草		
特記事項	特になし		
チャセンシダ科		コタニワタリ	絶滅危惧 IA 類
<i>Asplenium scolopendrium</i> L.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -	
選定理由	生育地が 1 カ所に限定されており、個体数も少ない。		
危機要因	産地局限		
分布情報	北九州市		
種の概要	石灰岩地のドリーネなど、冷涼な岩場に生える多年草		
特記事項	北九州国定公園指定植物		
チャセンシダ科		トキワシダ	絶滅危惧 IA 類
<i>Asplenium yoshinagae</i> Makino		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -	
選定理由	県内 4 カ所に生育していたが、2 カ所では採取によって絶滅し、2 カ所では現状不明である。		
危機要因	園芸採取		
分布情報	宇美町, 太宰府市, 八女市(旧星野村, 旧矢部村)(現状不明)		
種の概要	湿った岩に生える多年草		
特記事項	特になし		

オンダ科		ハガクレカナワラビ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Arachniodes yasu-inouei</i> Sa.Kurata	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー
選定理由	八女市(旧立花町)に唯一の自生地があったが, 最近では確認されていない。		
危機要因	産地局限		
分布情報	八女市(旧立花町)		
種の概要	常緑林内に生える多年草		
特記事項	特になし		
オンダ科		メヤブソテツ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Cyrtomium caryotideum</i> (Wall. ex Hook. et Grev.) C.Presl	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー
選定理由	生育地は1カ所に限定されており, 個体数は約 20 株である[1]。他に 2 カ所の生育地があったが絶滅した。		
危機要因	産地局限		
分布情報	福岡市早良区		
種の概要	常緑林内に生える多年草		
特記事項	筑後川県立自然公園指定植物		
オンダ科		ナチクジャク	絶滅危惧 IA 類
		<i>Dryopteris decipiens</i> (Hook.) Kuntze	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー
選定理由	県内に 7 カ所の標本産地があるが, 今回の調査では確認できなかった。2001 年の時点では, 赤池町, 添田町の 2 カ所で, 13 個体が確認されていた[1]。		
危機要因	産地局限		
分布情報	福岡市城南区, 宮若市(旧宮田町), 嘉穂町, 赤池町, 添田町, みやこ町(旧犀川町)		
種の概要	常緑林内に生える多年草		
特記事項	特になし		
オンダ科		タカサゴシダ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Dryopteris formosana</i> (H.Christ) C.Chr.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー
選定理由	福岡市の 1 カ所だけに生育し, 個体数は 50 株未満である。		
危機要因	産地局限		
分布情報	福岡市早良区		
種の概要	常緑林内に生える多年草		
特記事項	特になし		
オンダ科		ツクシオオクジャク	絶滅危惧 IA 類
		<i>Dryopteris handeliana</i> C.Chr.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー
選定理由	2001 年の時点では, 宮若市(旧若宮町)犬鳴山で 15 個体が確認されていたが, 現状不明である。豊前市犬ヶ岳, 添田町英彦山では, シカの摂食によって消失した。		
危機要因	シカ増加		
分布情報	宮若市(旧若宮町)(現状不明), 添田町(絶滅), 八女市(旧矢部村)(現状不明), みやこ町(旧犀川町)(現状不明), 豊前市(絶滅)		
種の概要	林床に生える多年草		
特記事項	特になし		

オシダ科	ワカナシダ	絶滅危惧 IA 類
<i>Dryopteris kuratae</i> Nakaike, nom. nud.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -
選定理由	県内に7カ所の標本産地があるが、最近では確認されていない。もともと個体数が少ないことに加え、豊前市などではシカの摂食によって自生地のシダ群落全体が消失している。	
危機要因	産地局限, シカ増加	
分布情報	那珂川町, 北九州市小倉南区, 筑紫野市, 朝倉市(旧甘木市), 八女市(旧立花町), 豊前市	
種の概要	林床に生える多年草	
特記事項	特になし	

オシダ科	ムラサキベニシダ	絶滅危惧 IA 類
<i>Dryopteris labordei</i> (H.Christ) C.Chr. var. <i>purpurascens</i> (H.Itô) Seriz.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	県内3カ所の標本が残されているが、1978年以降確認されていない。	
危機要因	産地局限	
分布情報	福岡市早良区, 飯塚市(旧筑穂町), 八女市(旧黒木町)	
種の概要	常緑林内に生える多年草	
特記事項	特になし	

オシダ科	ミヤマイタチシダ	絶滅危惧 IA 類
<i>Dryopteris sabae</i> (Franch. et Sav.) C.Chr.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -
選定理由	糸島市に九州唯一の自生地がある。かつては30株ほど点在していたが、2001年の時点で1株に減少しており、今回の調査では確認できなかった。	
危機要因	産地局限	
分布情報	糸島市(旧前原市)	
種の概要	落葉林内に生える多年草	
特記事項	特になし	

オシダ科	ツツイワヘゴ	絶滅危惧 IA 類
<i>Dryopteris tsutsuiana</i> Sa.Kurata		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 IA 類
選定理由	築上町(旧築城町), 豊前市の2カ所に知られていたが、林道工事によって減少したあと、シカの食害によって消失した。	
危機要因	産地局限, シカ増加	
分布情報	築上町(旧築城町), 豊前市	
種の概要	落葉林内に生える多年草	
特記事項	特になし	

オシダ科	ホソバナライシダ	絶滅危惧 IA 類
<i>Leptorumohra miqueliana</i> (Maxim.) H.Itô		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -
選定理由	糸島市が唯一の標本産地だが、2001年版の調査と今回の調査のいずれにおいても確認できなかった。更に精査すれば、現存する可能性はある。	
危機要因	森林伐採	
分布情報	糸島市(旧前原市)	
種の概要	林内に生える多年草	
特記事項	特になし	

オシダ科		ヒロハナライシダ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Leptorumohra sinomiqueliana</i> (Ching) Tagawa	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -
選定理由	添田町, 豊前市に生育地が知られていたが, 2001 年版の調査と今回の調査のいずれにおいても確認できなかった。いずれの生育地においてもシカの食害によって林床植生の消失が進んでいる。更に精査すれば, 現存する可能性はある。		
危機要因	産地局限, シカ増加		
分布情報	添田町, 豊前市		
種の概要	落葉林内に生える多年草		
特記事項	特になし		
ヒメング科		ミゾシダモドキ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Thelypteris omeiensis</i> (Baker) Ching	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -
選定理由	生育地が局限されており, 個体数は約 30 個体である[1]。添田町の 1 カ所に生育している。今回の調査では確認できなかったが, 現存していると考えられる。		
危機要因	産地局限		
分布情報	添田町		
種の概要	溪流沿いの湿った岩上に生える多年草		
特記事項	特になし		
イワデング科		サキモリイヌワラビ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Athyrium oblitescens</i> Sa.Kurata	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -
選定理由	県内 3 カ所に少数個体の生育が知られていたが, 最近では確認されていない。		
危機要因	産地局限		
分布情報	那珂川町, 糸島市(旧志摩町), 北九州市八幡東区		
種の概要	溪流沿いの湿った林床に生える多年草		
特記事項	特になし		
イワデング科		サカバサトメシダ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Athyrium palustre</i> Seriz.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 IB 類
選定理由	産地が 1 地点に局限され, 個体数は 50 未満である。那珂川町の自生地では 1970 年代までは 500 株程度見られたが, 小流沿いに林道が開設されたためにほとんどが消滅した[1]。		
危機要因	道路工事		
分布情報	那珂川町		
種の概要	湿地に生える多年草		
特記事項	特になし		
イワデング科		トゲヤマイヌワラビ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Athyrium spinescens</i> Sa.Kurata	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -
選定理由	福岡市早良区の山地に自生地が 1 カ所あり, 谷の源流部の陰湿な落葉林内に小株が点在するが, 現存するのは 10 株以内である[1]。		
危機要因	産地局限		
分布情報	福岡市早良区		
種の概要	落葉林内に生える多年草		
特記事項	特になし		

イワデンド科		ホウライイヌワラビ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Athyrium subrigescens</i> (Hayata) Hayata ex H.Itô	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 IB 類
選定理由	生育地が 1 カ所に局限され, 個体数は約 50 個体である[1]。今回の見直しでは, 生育地を調査していない。		
危機要因	産地局限, 遷移進行		
分布情報	福岡市早良区		
種の概要	常緑林内に生える多年草		
特記事項	特になし		

イワデンド科		ウスバヘビノネゴザ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Athyrium tashiroi</i> Tagawa	2001: 情報不足, 環境省: ー
選定理由	糸島市雷山の自生地では, 林床が暗くなり, 個体数が大きく減少した。現在の生育個体数は 50 未満である。		
危機要因	遷移進行		
分布情報	糸島市		
種の概要	落葉林内に生える多年草		
特記事項	特になし		

イワデンド科		アオグキイヌワラビ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Athyrium viridescens</i> Sa.Kurata	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー
選定理由	生育地が局限され, 個体数は 50 未満である。2001 年版の調査では, 3 カ所で 28 個体が確認されたにだけである [1]。今回の調査では生育地を確認できなかった。		
危機要因	産地局限		
分布情報	福岡市早良区, 北九州市小倉南区		
種の概要	溪流沿いの湿った林床に生える多年草		
特記事項	特になし		

イワデンド科		フモシケシダ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Deparia pseudoconilii</i> (Seriz.) Seriz.	2001: 情報不足, 環境省: ー
選定理由	生育地が局限され, 個体数も少ない。1970 年代に採集されて以後, 最近では確認されていない。		
危機要因	産地局限		
分布情報	八女市(旧矢部村)		
種の概要	林内の湿った場所に生える多年草		
特記事項	特になし		

イワデンド科		オオヒメワラビモドキ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Deparia unifurcata</i> (Baker) M.Kato	2001: 情報不足, 環境省: ー
選定理由	生育地が限定されており, 個体数も少ない。県内数カ所で標本が採集されているが, 最近では確認されていない。		
危機要因	産地局限		
分布情報	添田町, 八女市(旧矢部村, 旧星野村)		
種の概要	溪流沿いの湿った場所に生える多年草		
特記事項	特になし		

イワデング科		オオハミヤマノコギリシダ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Diplazium hayatamae</i> N.Ohta et M.Takamiya	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー
選定理由	那珂川町に唯一の自生地があり, 山地の林道沿いの崖地やスギ林内に 100 株ほど現存している[1]。その後の生育状況は確認されていない。		
危機要因	産地局限		
分布情報	那珂川町		
種の概要	1999 年に新種として記載されたシダ		
特記事項	特になし		
イワデング科		コクモウクジャク	絶滅危惧 IA 類
		<i>Diplazium virescens</i> Kunze var. <i>virescens</i>	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー
選定理由	1カ所の生育地に約10株が生育していた。しかし, 生育地の森林が伐採され, 2001年版の調査では確認できなかった[1]。今回の見直しでは, 生育地を調査していない。		
危機要因	産地局限, 森林伐採		
分布情報	宮若市(旧宮田町)		
種の概要	常緑林やスギ植林の林床に生える多年草		
特記事項	特になし		
イワデング科		キンモウワラビ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Hypodematium crenatum</i> (Forssk.) Kuhn subsp. <i>fauriei</i> (Kodama) K.Iwats.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	香春町の2カ所に少数個体が生育しているだけである。一ノ岳の生育地は, 採石により絶滅する可能性が高い。		
危機要因	石灰採掘, 産地局限		
分布情報	香春町		
種の概要	石灰岩の岩上に生える多年草		
特記事項	北九州国定公園指定植物		
イワデング科		ヌリワラビ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Rhachidosorus mesosorus</i> (Makino) Ching	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー
選定理由	八女市(旧星野村), 豊前市に少数個体の生育が知られていたが, 最近では確認されていない。		
危機要因	産地局限, シカ増加		
分布情報	八女市(旧星野村), 豊前市		
種の概要	林内に生える多年草		
特記事項	特になし		
イワデング科		イワデング	絶滅危惧 IA 類
		<i>Woodsia polystichoides</i> D.C.Eaton	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー
選定理由	県内 2カ所の標本産地のうち, 添田町では消滅した。糸島市(旧前原市)には少数個体が現存する可能性があるが, 1990年代以後再確認されていない。		
危機要因	産地局限		
分布情報	糸島市(旧前原市), 添田町, 豊前市(標本なし)		
種の概要	岩上に着生する多年草		
特記事項	特になし		

ウラボン科		ツクシノキシノブ	絶滅危惧 IA 類
<i>Lepisorus tosaensis</i> (Makino) H.Itô		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー	
選定理由	県内唯一の標本産地では、林道沿いの岩上に少数の株が見られたが、1990 年代以後確認されていない。周辺地域に現存する可能性がある。		
危機要因	産地局限, 植生変化		
分布情報	八女市(旧立花町)		
種の概要	溪流沿いの樹木や岩に着生する小型の多年草		
特記事項	特になし		
ウラボン科		コウラボン	絶滅危惧 IA 類
<i>Lepisorus uchiyamae</i> (Makino) H.Itô		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー	
選定理由	宮若市(旧宮田町)で 1963 年に採集された標本 2 点が残されているが、その後は再確認されていない。大分県, 山口県では現存しており、福岡県でも再発見の可能性がある。		
危機要因	産地局限		
分布情報	宮若市(旧宮田町)		
種の概要	岩の割れ目に生える小型の多年草		
特記事項	特になし		
ヒメウラボン科		オオクボンダ	絶滅危惧 IA 類
<i>Micropolypodium okuboi</i> (Yatabe) Hayata		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー	
選定理由	1936 年に釈迦岳で採集された標本があるが、その後は再確認されていない。アクセスの困難な岩場に現存する可能性がある。		
危機要因	産地局限		
分布情報	八女市(旧矢部村)		
種の概要	樹木や岩に着生する小型の多年草		
特記事項	特になし		
デンジソウ科		ナンゴクデンジソウ	絶滅危惧 IA 類
<i>Marsilea crenata</i> C.Presl		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 IB 類	
選定理由	福岡市西区に小規模の生育地が残されているだけである。糸島市(旧志摩町), 新宮町の生育地では消失し、福岡市西区でも生育地の多くは失われた。		
危機要因	湿地開発, 植生変化		
分布情報	福岡市西区, 糸島市(旧志摩町, 絶滅), 新宮町(絶滅)		
種の概要	水田, ハス田などに生える多年草		
特記事項	特になし		
デンジソウ科		デンジソウ	絶滅危惧 IA 類
<i>Marsilea quadrifolia</i> L.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類	
選定理由	2001 年版によれば、田川市に唯一の現存自生地があり、休耕田に点在していた[1]。このほか、県内 10 カ所以上の記録がある。また、最近、遠賀川で生育地が報告された。しかし、今回の見直しでは、遠賀川での生育状況に関する詳しい情報が得られなかった。		
危機要因	湿地開発, 水路改修, 植生変化		
分布情報	田川市, 遠賀川		
種の概要	水田や湿地に生育する多年草		
特記事項	特になし		

サンショウモ科		サンショウモ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Salvinia natans</i> (L.) All.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	県内に 6 カ所の標本産地があるが, 2001 年版の時点で再確認できず[1], 今回の見直しでもこれらの自生地での生育情報が得られなかった。最近, 宗像市で新たに自生が確認されたが, 生育地が限定されている。		
危機要因	その他 (圃場整備), 農薬使用		
分布情報	宗像市, 福岡市西区, 古賀市, 北九州市八幡西区, 宮若市(旧宮田町), 筑後市		
種の概要	水田, 池, クリークなどに生える浮葉植物		
特記事項	特になし		
アカウキクサ科		アカウキクサ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Azolla imbricata</i> (Roxb. ex Griff.) Nakai	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	2001 年版ではかつては県内の広範囲に分布し福津市の 1 カ所に残存とされていたが, その後確認されていない。外来種のアゾラが拡大しており, 自生種の確認が困難になっている。		
危機要因	その他 (圃場整備), 農薬使用		
分布情報	福津市(旧福岡町)		
種の概要	水田・ため池などに生える浮葉性の一年草		
特記事項	特になし		
マツ科		ハリモミ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Picea torano</i> (Siebold ex K. Koch) Koehne	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: —
選定理由	県内では御前岳だけに見られる。約 1,050~1,150m の針葉樹・広葉樹混交林内にまばらに生育している。個体数は減少しており, 稚樹は少ない[1]。		
危機要因	産地局限		
分布情報	八女市(旧矢部村)		
種の概要	山地に生える常緑針葉高木		
特記事項	特になし		
マツ科		ゴヨウマツ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Pinus parviflora</i> Siebold et Zucc. var. <i>parviflora</i>	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: —
選定理由	県内では御前岳・鷹ノ巣山など限られた地域に見られ, 個体数はわずかである。台風被害, 盆栽用の稚樹採取などのため, 個体数は減少している[1]。		
危機要因	産地局限, 園芸採取		
分布情報	添田町, 八女市(旧矢部村)		
種の概要	山地に生える常緑針葉高木		
特記事項	別名ヒメコマツ		
ヒノキ科		ハイビャクシン	絶滅危惧 IA 類
		<i>Juniperus chinensis</i> L. var. <i>procumbens</i> Siebold ex Endl.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: —
選定理由	沖ノ島が唯一の自生地。最近の調査では確認できず, 絶滅あるいは絶滅寸前の状態にあると考えられる。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	沖ノ島		
種の概要	海岸の岩上に生える常緑針葉低木		
特記事項	玄海国定公園指定植物		

イチイ科

イチイ

絶滅危惧 IA 類

Taxus cuspidata Siebold et Zucc.

2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 一

選定理由	英彦山に見られる。表参道周辺の標高 1,000m 以上に出現するが, 1991 年の台風による倒木により, 個体数が現状。自生記録のある犬ヶ岳の現状は不明。[1]
危機要因	産地局限, 自然災害
分布情報	英彦山, 犬ヶ岳
種の概要	山地に生える常緑高木
特記事項	特になし

ヤナギ科

サイコクキツネヤナギ

絶滅危惧 IA 類

Salix vulpina Andersson subsp. *alopochroa* (Kimura) H. Ohashi et Yonek.

2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 一

選定理由	唯一, 北九州市小倉南区の奥畑池周囲の林縁に見られる。[1]
危機要因	産地局限
分布情報	北九州市小倉南区
種の概要	落葉低木
特記事項	特になし

カバノキ科

ヤシャブシ

絶滅危惧 IA 類

Alnus firma Siebold et Zucc.

2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 一

選定理由	英彦山や犬ヶ岳などに極めて稀に見られる。標高 700m 以上の岩崖上や露岩の多い尾根部で確認されている。[1]
危機要因	産地局限
分布情報	英彦山, 犬ヶ岳
種の概要	産地に生える落葉小高木
特記事項	特になし

カバノキ科

ツノハシバミ

絶滅危惧 IA 類

Corylus sieboldiana Blume

2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 一

選定理由	古処山のみで自生, 落葉林の林縁から林内にかけて生育しているが個体数は少ない。稜線縦走路の整備によって刈られた個体もあり, 萌芽再生している場合が多いが, 成木にまで達していない。[1]
危機要因	産地局限
分布情報	古処山
種の概要	山地に生える落葉低木
特記事項	特になし

イラクサ科

タチゲヒカゲミズ

絶滅危惧 IA 類

Parietaria micrantha Ledeb. var. *coreana* (Nakai) H. Hara

2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類

選定理由	英彦山地だけに見られ, 凝灰角礫岩からなる浅い岩窟下に生育している。もともと希少であり, 自生地が 2 カ所知られているが, 1 カ所は 1991 年の台風により乾燥がひどくなり危機的状況にある。[1]
危機要因	産地局限, 自然災害
分布情報	英彦山地
種の概要	山地に生える草本
特記事項	特になし

ヤドリギ科		マツグミ	絶滅危惧 IA 類
<i>Taxillus kaempferi</i> (DC.) Danser		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 一	
選定理由	もともと希少であり、県内では英彦山地に生育。1991 年の台風により多くのモミヤツガが倒れたため、マツグミも多くが失われた。[1]		
危機要因	産地局限, 自然災害		
分布情報	英彦山地		
種の概要	モミヤツガに着生する半寄生の常緑小低木		
特記事項	特になし		
タデ科		ヤナギヌカボ	絶滅危惧 IA 類
<i>Persicaria foliosa</i> (H.Lindb.) Kitag. var. <i>paludicola</i> (Makino) H.Hara		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類	
選定理由	宗像市, 北九州市八幡西区, 岡垣町, 宮若市(旧若宮町), 広川町, 筑後市に7カ所の記載および標本産地があるが、近年の調査で確認されているのは1カ所の2株だけで、6カ所は再確認はされておらず、現状不明である。生育環境はため池の水辺や岸上で、池の改修後の水位の上昇が悪影響を与えていると推測される。[1]		
危機要因	ため池改修, その他(水位上昇)		
分布情報	宗像市, 北九州市八幡西区, 岡垣町, 宮若市(旧若宮町), 広川町, 筑後市(現状不明)		
種の概要	湿地に生える一年草		
特記事項	特になし		
タデ科		サデクサ	絶滅危惧 IA 類
<i>Persicaria maackiana</i> (Regel) Nakai		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 一	
選定理由	久留米市, 大木町の2カ所の記録および標本産地があるが、近年の調査では再確認はされておらず、現状不明。大木町ではかつてはクリークの岸に自生していたが、クリークおよび農地の改良事業で消滅したという。[1]		
危機要因	産地局限, 水路改修		
分布情報	久留米市, 大木町		
種の概要	湿地に生える一年草		
特記事項	特になし		
タデ科		ヌカボタデ	絶滅危惧 IA 類
<i>Persicaria taquetii</i> (H.Lév.) Koidz.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類	
選定理由	標本産地である上毛町(旧新吉富村, 旧大平村)に現存する。川原およびため池の岸上の土手草地に少数見られる。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	上毛町(旧新吉富村, 旧大平村)		
種の概要	湿地に生える一年草		
特記事項	特になし		
ナデシコ科		タチハコベ	絶滅危惧 IA 類
<i>Moeblingia trinervia</i> (L.) Clairv.		2001: 情報不足, 環境省: 絶滅危惧 II 類	
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)には福岡(屋形原), 秋月, 高良山, 『福岡県植物誌』(1975)には北九州市(平尾台), 福岡市, 高良山が記録されているが、その後生育が確認されていない。最近, 宗像市で報告された。生育地・個体数が限定されている。		
危機要因	産地局限		
分布情報	北九州市(平尾台), 宗像市, 福岡市, 久留米市(高良山), 朝倉市(秋月)		
種の概要	林縁に生える一年草		
特記事項	特になし		

ナデシコ科		フングロセンノウ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Silene miqelianiana</i> (Rohrb.) H.Ohashi et H.Nakai	2001: 情報不足, 環境省: ー
選定理由	求菩提山(福岡植物研究会, 1993), 小石原と英彦山の間(中島, 1952), 香春岳・英彦山(福岡県高等学校生物研究部会, 1975)に生育記録がある。2010 年現在, 求菩提山の自生地では, シカの被食圧の増大などによって絶滅した可能性が高く, 開花個体数は 50 未満と推測される。		
危機要因	シカ増加, 産地局限		
分布情報	求菩提山, 英彦山, 香春岳		
種の概要	冷温帯林の林床や林縁に生育する多年草		
特記事項	特になし		

ナデシコ科		ウシオツメクサ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Spergularia marina</i> (L.) Griseb.	2001: 情報不足, 環境省: ー
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)には福岡市・大牟田市の記録が引用されているが, その後は生育が確認されていない。これらの生育地では塩湿地が失われており, 絶滅した可能性が高い。最近, 遠賀川河口域で生育が確認されたが, 生育地・個体数は限定されている。		
危機要因	海岸開発		
分布情報	遠賀川, 福岡市(今津), 大牟田市		
種の概要	塩湿地に生える一年草		
特記事項	特になし		

ナデシコ科		オオヤマハコベ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Stellaria monosperma</i> Buch.-Ham. ex D.Don var. <i>japonica</i> Maxim.	2001: 情報不足, 環境省: ー
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)には 4 カ所の自生地が報告されており, 『福岡県植物誌』(1975)にはこのうち釈迦岳が記録されている。しかし, その後, 生育地が確認されていない。残存しているとしても, 生育地・個体数は限定されていると考えられる。		
危機要因	産地局限		
分布情報	英彦山, 古処山, 熊渡山, 釈迦岳		
種の概要	冷温帯林に生育する多年草		
特記事項	特になし		

モクレン科		オオヤマレンゲ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Magnolia sieboldii</i> K.Koch subsp. <i>japonica</i> K.Ueda	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー
選定理由	英彦山地の稜線部にごく稀に生える落葉低木で, 高さは 4m ぐらいまでになる。もともと希少であり, 園芸目的の採取により減少したと思われる。[1]		
危機要因	園芸採取		
分布情報	英彦山地		
種の概要	温帯域の尾根や岩場に生える落葉低木		
特記事項	特になし		

キンポウゲ科		ハナカスラ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Aconitum ciliare</i> DC.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 IB 類
選定理由	岡垣町に唯一の自生地があり, 囲いの中で保護されている。1930 年代にはこの山地の山麓の各所に群落を作っていたという。減少の要因は, 園芸用の採取と自生地周辺の常緑樹の生長による日照不足と推定される。日本の北限。[1]		
危機要因	園芸採取, 遷移進行		
分布情報	岡垣町		
種の概要	林縁に生えるつる性多年草		
特記事項	特になし		

キンポウゲ科		コウライブシ	絶滅危惧 IA 類
<i>Aconitum jaluense</i> Kom. subsp. <i>Jaluense</i>		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 IA 類	
選定理由	宗像市(旧大島村)と古処山の 2 カ所の標本記録があるのみで、再採集、再確認されておらず、現状は全く不明。『福岡県植物目録』(1952)には本種は記録されていない。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	宗像市(旧大島村), 古処山		
種の概要	林縁に生える多年草		
特記事項	特になし		

キンポウゲ科		トリガタハンショウツル	絶滅危惧 IA 類
<i>Clematis tosaensis</i> Makino		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー	
選定理由	みやこ町(旧犀川町), 豊前市に 3 カ所の標本産地があるが、その後は再確認はされておらず、現状不明。山地の林道沿い、山道沿いの林縁に自生し、以前確認された個体数は 10 株以内であった。本県ではもともと自生地も個体数も少数で、現状は不明であるが、現存する可能性が高い。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	みやこ町(旧犀川町), 豊前市		
種の概要	温帯林の林縁に生えるつる性の多年草		
特記事項	特になし		

キンポウゲ科		ミスミノウ	絶滅危惧 IA 類
<i>Hepatica nobilis</i> Schreb. var. <i>japonica</i> Nakai		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 準絶滅危惧	
選定理由	筑豊東地区、北筑後地区の山間部の溪流沿いの岩壁や土質の斜面などに極めて稀に見られる。いずれも自生地面積は小さく、個体数も数十株程度と少ない。園芸用に採取される植物であり、現状のままでは、県内では絶滅する危険性がある。[1]		
危機要因	園芸採取		
分布情報	筑豊東地区、北筑後地区		
種の概要	山地の日陰に生える多年草		
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物		

キンポウゲ科		カラマツソウ	絶滅危惧 IA 類
<i>Thalictrum aquilegifolium</i> L. var. <i>intermedium</i> Nakai		2001: 情報不足, 環境省: ー	
選定理由	『福岡県植物誌』(1975)には 2 カ所の自生地が記録されているが、その後生育地が確認されていない。残存しているとしても、生育地・個体数は限定されていると考えられる。		
危機要因	産地局限		
分布情報	香春岳, 福智山		
種の概要	明るい草地に生える多年草		
特記事項	特になし		

キンポウゲ科		ミヤマカラマツ	絶滅危惧 IA 類
<i>Thalictrum tuberiferum</i> Maxim.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー	
選定理由	英彦山地の湿気の多い岩場に自生しているが、数本立ちの株が 1 株あるだけである。本種は亜高山帯に多く見られるものであり、本県では極めて稀である。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	英彦山地		
種の概要	岩場に生える多年草		
特記事項	特になし		

ツツラフジ科		イノヤマアオキ	絶滅危惧 IA 類
<i>Cocculus laurifolius</i> DC.		2001: 絶滅危惧 II 類, 環境省: 一	
選定理由	沖ノ島二ノ岳と三ノ岳の鞍部で 1930 年代に報告されたが、その後の数回の調査で確認されず、2010 年の調査で再発見された。人為的な危機要因はないと考えられるが、個体数は少ない。		
危機要因	産地局限, 自然災害		
分布情報	宗像市(沖ノ島)		
種の概要	沿海地の照葉樹林内に生える常緑低木		
特記事項	北限自生地である。別名コウシュウウヤク		
センリョウ科		キビトリシスカ	絶滅危惧 IA 類
<i>Chloranthus fortunei</i> (A. Gray) Solms-Laub.		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類	
選定理由	これまで生育記録のある場所(標本産地を含む)6カ所のうち、4カ所で現存が確認されていた[1]が、その後、2カ所で絶滅し、残りの2地点でも生育が確認されていない。		
危機要因	遷移進行		
分布情報	福岡市西区, 宗像市(旧玄海町), 福津市(旧津屋崎町), 岡垣町, 北九州市八幡東区(現状不明)		
種の概要	常緑広葉樹二次林の林縁やヒノキ林内, 伐採跡地などに生育する多年草		
特記事項	特になし		
ウマノスズクサ科		ミヤコアオイ	絶滅危惧 IA 類
<i>Asarum asperum</i> F.Maek.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 一	
選定理由	東峰村(旧小石原村), 朝倉市(旧甘木市)に自生地がある。稜線部の長さ 50m くらいの範囲に約 30 株生育している。東峰村(旧宝珠山村)の標本(1931 年)があるが、その後確認されていない。もともと希少であり、園芸目的の採取により減少した[1]。今回の調査で東峰村で生育を確認したが個体数はごく少ない。		
危機要因	園芸採取		
分布情報	東峰村, 朝倉市(旧甘木市)		
種の概要	山地林下に生育する多年草		
特記事項	特になし		
オトギリソウ科		トモエソウ	絶滅危惧 IA 類
<i>Hypericum ascyron</i> L. subsp. <i>ascyron</i> var. <i>ascyron</i>		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 一	
選定理由	福岡市早良区, 糸島市(旧前原市), 宗像市, 北九州市小倉南区, 香春町, 豊前市に 9カ所の記録および標本産地があるが、現存するのは福岡市, 糸島市(旧前原市)の2カ所だけである[1]。今回の調査では糸島市で林道沿いに自生しているのを確認した。		
危機要因	園芸採取		
分布情報	福岡市, 糸島市(旧前原市)		
種の概要	山地に生える多年草		
特記事項	特になし		
ケシ科		ヤマブキソウ	絶滅危惧 IA 類
<i>Hylomecon japonica</i> (Thunb.) Prantl et Kündig		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 一	
選定理由	糸島市(旧前原市)の山地の溪流沿いの落葉林内のみ現存し、確認個体は5株である。以前は20株ほど点在していたが、掘り取った跡もあるので園芸用採取が減少の原因の一つと推測される。糸島市(旧前原市)の自生地は日本における西限である。[1]		
危機要因	園芸採取		
分布情報	糸島市(旧前原市)		
種の概要	樹林内に生える多年草		
特記事項	特になし		

ベンケイソウ科

チャボツメレンゲ

絶滅危惧 IA 類

Meterostachys sikokianus (Makino) Nakai

2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類

選定理由	筑紫野市, 八女市(旧黒木町)の2カ所に生育地がある。岩上の割れ目やくぼみなどわずかに腐植土の堆積した所に自生する。道路工事などにより自生地が開発されることが減少の要因となる。[1]
危機要因	道路工事
分布情報	筑紫野市, 八女市(旧黒木町)
種の概要	山地の岩上に生える多年生多肉植物
特記事項	矢部川県立自然公園指定植物

ベンケイソウ科

イワレンゲ

絶滅危惧 IA 類

Orostachys malacophylla (Pall.) Fisch. var. *iwarenge* (Makino) H.Ohba

2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類

選定理由	玄界灘の島や沿岸に分布し, 現存が再確認されたのは4カ所だけで, 成株の個体数は100株以内である。しかも古い家屋の屋根に着生しているので, 解体とともに消滅という深刻な状況にある。移植保存しなければ絶滅する。日本固有種。[1]
危機要因	産地局限
分布情報	玄界灘の島や沿岸
種の概要	沿海地の岩上や屋根上に生える多年生多肉植物
特記事項	特になし

ベンケイソウ科

ツメレンゲ

絶滅危惧 IA 類

Orostachys japonica (Maxim.) A.Berger

2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 準絶滅危惧

選定理由	英彦山地の数カ所で生育が確認されているが個体数は非常に少ない。福智山地や貫山地の石灰岩地でも生育記録があるが未確認である。園芸目的の採取で減少した。[1]
危機要因	産地局限, 園芸採取
分布情報	英彦山地
種の概要	岩上や屋根上に生える多年生多肉植物
特記事項	玄海, 北九州, 耶馬日田英彦山国定公園指定植物

ユキノシタ科

バイカアマチャ

絶滅危惧 IA 類

Platycrater arguta Siebold et Zucc.

2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: —

選定理由	上毛町(旧大平村)に唯一の標本産地があるが再確認はされておらず, 現状は不明。『福岡県植物目録』(1952)に記録された犬ヶ岳については, ほかの文献からの引用で再確認もされていないので, 現存する可能性は低いと推定される。[1]
危機要因	産地局限
分布情報	上毛町(旧大平村)
種の概要	山地林下に生育する落葉低木
特記事項	特になし

ユキノシタ科

ヤシャビシャク

絶滅危惧 IA 類

Ribes ambiguum Maxim.

2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 準絶滅危惧

選定理由	上部山地の主にブナに着生している。もともと個体数の少ない植物であるが, 英彦山地では1991年の台風19号により多くのブナが失われたために, 本種も減少した。御前岳や古処山の記録があるが未確認である。[1]
危機要因	産地局限, 自然災害
分布情報	英彦山地上部
種の概要	樹上に着生する落葉低木
特記事項	矢部川県立自然公園指定植物

ユキノシタ科		ヤブサンザシ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Ribes fasciculatum</i> Siebold et Zucc.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー
選定理由	北九州市小倉南区, 岡垣町に 2 カ所の標本産地があるが現状不明, 現存する可能性は高い。現存といっても各々 1 株で, 岡垣町では周囲の常緑樹の繁茂によって樹勢が衰えているという。本県ではもともと自生地も個体数も極めて少数であった。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	北九州市小倉南区, 岡垣町		
種の概要	中間温帯域の山野に生える落葉低木		
特記事項	特になし		

ユキノシタ科		ナメラダイヤモンドソウ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Saxifraga fortunei</i> Hook.f. var. <i>suwoensis</i> Nakai	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー
選定理由	北九州市小倉南区に唯一の自生地があり, 山地の溪流沿いの岩上に着生しているが, 現存個体は 10 株以内である。発見当時は数十株が現存していたが, 園芸用採取が繰り返された結果, 大幅に減少している。自生地には人が近付きやすいので, 本県では絶滅寸前と言ってもよい。		
危機要因	産地局限, 園芸採取		
分布情報	北九州市小倉南区		
種の概要	溪流沿いの岩上に生える多年草		
特記事項	特になし		

ユキノシタ科		センダイソウ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Saxifraga sendaica</i> Maxim.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	もともと産地・個体数が局限されていた。最近ではシカ摂食によって減少し, 現在の自生地は 1 カ所だけである。		
危機要因	産地局限, シカ増加		
分布情報	県内(詳細分布情報不詳)		
種の概要	湿った岩上に生える多年草		
特記事項	特になし		

バラ科		アスキナシ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Aria alnifolia</i> (Siebold et Zucc.) Decne.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー
選定理由	釈迦岳から御前岳の上部に残された夏緑樹林内に極めて稀に見られる。森林伐採により自生地が限られており, 個体数もわずかである。[1]		
危機要因	産地局限, 森林伐採		
分布情報	釈迦岳から御前岳の上部		
種の概要	山地に生える落葉高木		
特記事項	特になし		

バラ科		シモツケソウ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Filipendula multijuga</i> Maxim.	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: ー
選定理由	県内唯一の自生地では, シカの被食圧の増大によって個体数が減少し, 開花個体数は 50 未満の可能性が高い。		
危機要因	シカ増加, 産地局限		
分布情報	添田町		
種の概要	山地の草原などに自生する多年草。県内では, 冷温帯林の攪乱跡地にも生育している(熊谷, 2010)。		
特記事項	特になし		

マメ科		ユクノキ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Cladrastis sikokiana</i> (Makino) Makino	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -
選定理由	英彦山地の上部夏緑樹林帯で、単生のもとと大小数本の幹が株立ちになっているものがある。もともと希少で、森林の伐採により減少した。[1]		
危機要因	産地局限、森林伐採		
分布情報	英彦山地		
種の概要	山地林内に生育する落葉高木		
特記事項	特になし		
マメ科		ヒメノハギ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Codariocalyx microphyllus</i> (Thunb.) H.Ohashi	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -
選定理由	上毛町(旧大平村)の1カ所が標本産地である。文献では平尾台、福智山、宝満山、八女市(旧立花町)の記録地がある。日当たりのよい里山の草地(ため池の土手)に稀に生育する。草原の遷移阻止のための人為的管理が必要。		
危機要因	遷移進行		
分布情報	上毛町(旧大平村)		
種の概要	明るい草地に生える多年草		
特記事項	特になし		
マメ科		ミヤマトベラ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Euchresta japonica</i> Hook.f. ex Maxim.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -
選定理由	県内では北筑後地区の1カ所でのみ現存が確認されている。溪流沿いに残された自然林の林床に生育しているが、個体数は10株未満である。香春岳の産地は石灰岩採掘のため消滅。蔵持山については確認できず、消滅した可能性が大きい。[1]		
危機要因	産地局限、石灰採掘		
分布情報	北筑後地区		
種の概要	照葉樹林内に生える常緑小低木		
特記事項	特になし		
マメ科		ヒメツルアスキ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Vigna minima</i> (Roxb.) Ohwi et H.Ohashi var. <i>minima</i>	2001: 情報不足, 環境省: 絶滅危惧 IA 類
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)では志賀島、樋井川(タイプ標本産地)が記録されているが、その後生育地が確認されていない。本種が生育できるような路傍の草地が消失しており、絶滅した可能性がある。		
危機要因	道路工事		
分布情報	福岡市(志賀島、樋井川)		
種の概要	路傍に生える多年草		
特記事項	特になし		
アマ科		マツバニンジン	絶滅危惧 IA 類
		<i>Linum stelleroides</i> Planch.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 IA 類
選定理由	元来稀な植物で、これまで生育地が数カ所知られているだけである。比較的多数の個体が現存している生育地もあるが、現状が不明の生育地がほとんどである[1]。		
危機要因	遷移進行		
分布情報	北九州市		
種の概要	二次草原内で高茎草本の生育量が比較的小さい地点などに生育する多年草		
特記事項	特になし		

トウダイグサ科

タカトウダイ

絶滅危惧 IA 類

Euphorbia lasiocaula Boiss.

2001: 一, 環境省: 一

選定理由	経読岳や宗像市で生育が記録されている(福岡県高等学校生物研究部会, 1975)。近年は、シカの被食圧を強く受けており、開花個体数は 50 未満の可能性が高い。犬ヶ岳(鶯谷)では絶滅したと考えられる。
危機要因	シカ増加
分布情報	英彦山地, 宗像市, 犬ヶ岳(絶滅)
種の概要	日当りの良い草原や、森林と草原の境界などに生育する多年草
特記事項	特になし

ミカン科

タチバナ

絶滅危惧 IA 類

Citrus tachibana (Makino) Tanaka

2001: 絶滅危惧 II 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類

選定理由	既知の自生地は 2 カ所しかない[1]。沖ノ島では 2010 年の調査でも生育が確認できなかった。北九州市の自生地での現状は不明である。
危機要因	産地局限
分布情報	宗像市(沖ノ島), 北九州市(白島)
種の概要	沿海地に生育する常緑小高木
特記事項	特になし

ミカン科

リュウキュウミヤマシキミ

絶滅危惧 IA 類

Skimmia japonica Thunb. var. *lutchuensis* (Nakai) Hatus. ex T.Yamaz.

2001: 絶滅危惧 II 類, 環境省: 一

選定理由	唯一の自生地とされている沖ノ島では、2010 年の調査においても生育が確認できなかった。
危機要因	産地局限
分布情報	宗像市(沖ノ島)
種の概要	沿海地に生育する常緑小高木
特記事項	特になし

ヒメハギ科

ヒナノキンチャク

絶滅危惧 IA 類

Polygala tatarinowii Regel

2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 IB 類

選定理由	北九州地区の二次草原に生育記録があるだけの極めて稀な植物である[1]。当該地では、2010 年の調査の際に生育が確認されたが、個体数は多くない。
危機要因	産地局限
分布情報	北九州市
種の概要	県内では二次草原の道端に生育する一年草。草原内でも草丈が低く、日当りの良い場所に生育地が限られるようである。
特記事項	北九州国定公園指定植物

カエデ科

メクスリノキ

絶滅危惧 IA 類

Acer maximowiczianum Miq.

2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 一

選定理由	上部夏緑樹林帯の林内にごく稀。確認されたのは 2 本の低木だけである。犬ヶ岳, 御前岳などの記録があるが未確認。薬用のための採取により減少した。[1]
危機要因	薬用採取
分布情報	犬ヶ岳, 御前岳
種の概要	山地に生える落葉高木
特記事項	特になし

カエデ科		テツカエデ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Acer nipponicum</i> H.Hara subsp. <i>Nipponicum</i> var. <i>nipponicum</i>	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -
選定理由	犬ヶ岳や古処山の上部夏緑樹林内にごく稀。日本固有種。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	犬ヶ岳, 英彦山		
種の概要	山地に生える落葉高木		
特記事項	特になし		
ブドウ科		ウドカズラ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Ampelopsis cantoniensis</i> (Hook. et Arn.) Planch. var. <i>leeoides</i> (Maxim.) F.Y.Lu	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -
選定理由	飯塚市(旧筑穂町)内住峽に見られ、渓谷沿いに数個体が見られるのみであるが、高さ10mを超えて覆っている個体もあり、生育状況はほぼ良好である[1]。他に嘉麻市(旧山田市)にも生育している。		
危機要因	産地局限		
分布情報	飯塚市, 嘉麻市		
種の概要	つる性落葉木本		
特記事項	特になし		
スミレ科		サクラスミレ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Viola hirtipes</i> S.Moore	2001: -, 環境省: -
選定理由	『福岡県植物誌』(1975)では英彦山に記録があるが、近年は見出されていない。英彦山ではシカの増加によって多くの草本植物が減少しており、本種も絶滅した可能性がある。		
危機要因	シカ増加		
分布情報	英彦山地		
種の概要	草地生のスミレ。葉は長卵形で立ち上がり、基部は心形で、葉柄に翼はない。花柄や葉柄には開出毛が生える、距は無毛。花弁は紫色、花の喉部は狭く、側弁が有毛で柱頭が隠れている。		
特記事項	特になし		
スミレ科		ホソバシロスミレ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Viola patrinii</i> DC. ex Ging. var. <i>angustifolia</i> Regel	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	唯一の標本産地で、近年確認されていない。自生地の草原は遷移が進行しており、小型の本種が生育できる環境が失われている。		
危機要因	遷移進行		
分布情報	福岡市早良区		
種の概要	山地の草原に生える小型の多年草		
特記事項	特になし		
スミレ科		アケボノスミレ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Viola rossii</i> Hemsl.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -
選定理由	北九州市門司区, 添田町に2カ所の標本産地があり、門司区の山地には数十株現存するが、添田町では現状不明である。門司区の自生地では園芸用採取で個体数が減少した上に、常緑樹の生長繁茂により暗くなり、開花する個体は稀で未開花が多い。常緑樹の間伐が必要である。[1]		
危機要因	産地局限, 園芸採取, 遷移進行		
分布情報	北九州市門司区, 添田町		
種の概要	山地に生える多年草		
特記事項	特になし		

ミソハギ科		ミスギナ	絶滅危惧 IA 類
<i>Rotala hippuris</i> Makino		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 IB 類	
選定理由	限られた丘陵地や山間部の谷地の貧〜中栄養植物が多く見られる環境に生育する。ため池の荒廃, 改修工事, 水質汚濁により減少。環境悪化で生育地や個体数は急激に減少している。全国的に希少な日本固有種。		
危機要因	ため池改修, 水質汚濁		
分布情報	北九州市, 上毛町(旧新吉富村, 旧大平村)		
種の概要	池や湿地に生える多年草		
特記事項	特になし		
ミソハギ科		ミスキカシグサ	絶滅危惧 IA 類
<i>Rotala rosea</i> (Poir.) C.D.K.Cook		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類	
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)には「池満辺水湿地水田, 稍普通」と記録されているだけで, 産地は記録されていない。1985年に糸島市(旧二丈町)で採集された標本があるのみで, 現状は不明である。[1]		
危機要因	ため池改修, その他(圃場整備)		
分布情報	糸島市(旧二丈町)		
種の概要	水田や湿地に生える抽水性草本		
特記事項	特になし		
ノボタン科		ヒメノボタン	絶滅危惧 IA 類
<i>Osbeckia chinensis</i> L.		2001: 情報不足, 環境省: 絶滅危惧 II 類	
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)では4カ所の自生地が記録されている。しかし, 比較的花が目立つ植物であるにもかかわらず, その後生育地が確認されていない。本県では絶滅した可能性がある。		
危機要因	遷移進行		
分布情報	筑前町(旧夜須町), 久留米市(湯納楚), 広川町(中広川, 上広川)		
種の概要	明るい草地に生える多年草		
特記事項	特になし		
アカハナ科		ウシタキノウ	絶滅危惧 IA 類
<i>Circaea cordata</i> Royle		2001: 情報不足, 環境省: 一	
選定理由	『福岡県植物誌』(1975)では平尾台・福智山が記録されている。今回の調査では自生地を確認できなかった。観察記録の多い平尾台で最近発見されておらず, 残存しているとしても生育地・個体数は局限されていると考えられる。		
危機要因	産地局限		
分布情報	平尾台, 福智山		
種の概要	林縁に生える多年草		
特記事項	特になし		
アリノトウグサ科		タチモ	絶滅危惧 IA 類
<i>Myriophyllum ussuriense</i> (Regel) Maxim.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 準絶滅危惧	
選定理由	県内では1〜2カ所のみ現存するが, 護岸工事による流入土砂の堆積, ため池の荒廃により絶滅が危惧される。開発に際しては, 本種の生活環, 繁殖方法などの特性を十分配慮した対応が必要である。九州では本県のみにも生育する。[1]		
危機要因	ため池改修, 管理放棄		
分布情報	県内(詳細分布情報不詳)		
種の概要	植物相豊かな海岸, 丘陵地の中栄養のため池に生育する沈水性および抽水性の草本		
特記事項	特になし		

セリ科		ハナヒゼリ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Angelica inaequalis</i> Maxim.	2001: 情報不足, 環境省: ー
選定理由	渓谷沿いに生育するセリ科で、『福岡県植物誌』(1975)では犬ヶ岳・釈迦岳の記録があるが、近年は確認されていない。		
危機要因	河川開発, シカ増加, 産地局限		
分布情報	犬ヶ岳, 釈迦岳		
種の概要	中型で細めの茎を持つシシウド属の多年草。葉柄は細い鞘状で、葉身は2~3回三出複葉。8~9月に開花。花序は複散形花序で、散形花序の柄や小花柄はまばらで不同長。数個の細い小総苞片がある。		
特記事項	矢部川県立自然公園指定植物		
セリ科		ツクシゼリ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Angelica longiradiata</i> (Maxim.) Kitag.	2001: 情報不足, 環境省: ー
選定理由	山地の草原・岩地に生育するセリ科で、『福岡県植物誌』(1975)では古処山の記録があるが、近年は確認されていない。		
危機要因	植生変化, シカ増加, 産地局限		
分布情報	古処山		
種の概要	シシウド属の多年草。茎は低く、葉も横に広がり、葉身は2~3回三出複葉で小葉や小葉の裂片は深く密に切れ込む。		
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物		
セリ科		シラネセンキュウ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Angelica polymorpha</i> Maxim.	2001: 情報不足, 環境省: ー
選定理由	渓谷沿いに生育するセリ科で、『福岡県植物誌』(1975)では釈迦岳の記録がある。シカ食害の影響に留意する必要がある。		
危機要因	植生変化, シカ増加, 産地局限		
分布情報	釈迦岳		
種の概要	中型で細めの茎を持つシシウド属の多年草。葉柄は袋状で、葉身は3~4回三出複葉。秋に開花。		
特記事項	矢部川県立自然公園指定植物		
イチヤクソウ科		マルハノイチヤクソウ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Pyrola nephrophylla</i> (Andres) Andres	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー
選定理由	かつて福智山地, 英彦山地, 三郡山地, 脊振山地で生育が記録されているが、福智山地, 英彦山地での既知産地では絶滅し、三郡山地, 脊振山地での生育は未確認である。現存個体数は極めて少ない。園芸目的の採取により減少。[1]		
危機要因	園芸採取		
分布情報	三郡山地, 脊振山地		
種の概要	深山林下に生える多年草		
特記事項	北九州, 耶馬日田英彦山国定公園指定植物		
ツツジ科		ホツツジ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Elliottia paniculata</i> (Siebold et Zucc.) Hook.f.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー
選定理由	英彦山地の夏緑樹林帯の陰しい岩場にのみ生育。園芸目的の採取や自然災害により減少した。[1]		
危機要因	産地局限, 園芸採取		
分布情報	英彦山地		
種の概要	岩がちの山地に生える落葉小低木		
特記事項	特になし		

ツツジ科		ヒカゲツツジ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Rhododendron keiskei</i> Miq.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー
選定理由	英彦山地に自生地がある。人の手の届く範囲では採られてしまい、崖の中途にわずか残るだけである。園芸目的の採取や自然災害により減少した。[1]		
危機要因	園芸採取, 自然災害		
分布情報	英彦山地		
種の概要	直射の当たらない崖の壁面に生える常緑低木		
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物		
ツツジ科		ミヤマキリシマ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Rhododendron kiusianum</i> Makino	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー
選定理由	県内では釈迦岳が唯一の自生地、岩崖上に生育する。自生地が限られ、個体数も少ないうえに、園芸用に採取される植物でもあるので、現状のままでは、県内では絶滅する危険性がある。[1]		
危機要因	産地局限, 園芸採取		
分布情報	釈迦岳		
種の概要	山地上部に生える半落葉低木		
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物		
ツツジ科		キシツツジ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Rhododendron ripense</i> Makino	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー
選定理由	上毛町(旧大平村)に唯一の自生地が発見された。生育環境は川岸の岩上で、現存するのは 13 株である。災害防止のために川岸がコンクリート護岸化されると、本種は消滅することになるので、配慮が求められる。園芸用採取の懸念もあるので、産地情報の秘匿も必要。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	上毛町(旧大平村)		
種の概要	川岸の岩上に生える半落葉低木。日本固有種。		
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物		
ツツジ科		ハイカツツジ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Rhododendron semibarbatum</i> Maxim.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー
選定理由	英彦山地の岩上に生育するツツジでごく稀。園芸目的の採取により減少した。[1]		
危機要因	産地局限, 園芸採取		
分布情報	英彦山地		
種の概要	山地林縁に生える落葉低木		
特記事項	特になし		
サクラソウ科		リュウキュウコザクラ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Androsace umbellata</i> (Lour.) Merr.	2001: 情報不足, 環境省: ー
選定理由	既知の生育地は 1 か所である。現存する開花個体数は 50 未満であるが、個体数の変動は比較的小さい。		
危機要因	産地局限		
分布情報	北九州市小倉南区		
種の概要	草丈の低い一年草で、県内では田園地帯の道沿いにある草地に生育している。この生育地では、定期的な草刈りが行われているため、高茎草本の繁茂などは抑制されている。		
特記事項	玄海国定公園指定植物		

サクラソウ科		サワラノオ	絶滅危惧 IA 類
<i>Lysimachia leucantha</i> Miq.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 IB 類	
選定理由	2001 年当時, 生育が確認された既知の自生地はなく[1], その後も確実な生育情報は認められていない。このため, 既知の自生地では絶滅したと考えられる。他の場所で再発見の可能性はある。		
危機要因	湿地開発		
分布情報	春日市, 四王寺山, 筑紫野市, 遠賀川, 香春町, 筑前町(旧三輪町), 花立山, 八女市(全て消失)		
種の概要	湿地に生える多年草		
特記事項	特になし		
サクラソウ科		モロコシソウ	絶滅危惧 IA 類
<i>Lysimachia sikokiana</i> Miq.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー	
選定理由	香春岳で生育が確認されている。平尾台の報告もあるが現状不明。ごく稀な植物で現存個体数は非常に少ない。本県では内陸の石灰岩地の照葉樹林下にあつて, 分布上でも注目される植物である。園芸目的の採取, 森林伐採, 石灰岩の採掘が主な減少の要因である。[1]		
危機要因	産地局限, 園芸採取		
分布情報	香春岳		
種の概要	暖地の海の近くの林内に生える多年草		
特記事項	北九州国定公園指定植物		
カキノキ科		リュウキュウマメガキ	絶滅危惧 IA 類
<i>Diospyros japonica</i> Siebold et Zucc.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー	
選定理由	県内では低山地から山地にかけての林内や林縁などに稀に出現する。単独で生育している場合もあり, いずれの自生地も個体数は少ない。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	みやこ町(旧犀川町)		
種の概要	山地に生える落葉高木		
特記事項	特になし		
モクセイ科		ヤナギイボタ	絶滅危惧 IA 類
<i>Ligustrum salicinum</i> Nakai		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー	
選定理由	英彦山地や古処山地の日当りの良い林縁部に生える落葉の低木ないし亜高木であるが, 自生地も個体数も少ない。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	朝倉市(旧甘木市), 添田町		
種の概要	冷温帯林の林縁に生える落葉低木		
特記事項	特になし		
モクセイ科		ハシドイ	絶滅危惧 IA 類
<i>Syringa reticulata</i> (Blume) H.Hara		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー	
選定理由	県内では古処山地のみに自生し, 落葉林の林縁から林内にかけて生育している。胸高直径は最大のもので 20cm, 主幹が枯れて萌芽が成長している個体も数本見られる。全体の個体数は少なく, 開花個体もわずかである。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	嘉麻市(旧嘉穂町)		
種の概要	山地に生える落葉小高木		
特記事項	筑後川県立自然公園指定植物		

リンドウ科		コケリンドウ	絶滅危惧 IA 類
<i>Gentiana squarrosa</i> Ledeb.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー	
選定理由	県内では生育地が 1 カ所しか知られていない極めて稀な植物である。近年, 当該地では生育環境の保全に配慮がなされているものの, 現存個体数は少ない。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	北九州市小倉北区		
種の概要	高さ 3~10cm 程度の小形の二年草		
特記事項	特になし		
ミツガシワ科		アサザ	絶滅危惧 IA 類
<i>Nymphoides peltata</i> (S.G.Gmel.) Kuntze		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 準絶滅危惧	
選定理由	水域の開発によって減少傾向にあり, 県内 5 カ所の産地のうち 2 カ所では消失した。消失した産地では, 自生の株の系統保存が行われており, 復元の取り組みが今後の課題である。[1] 2010 年現在, 筑後川流域の自生地では, 1 つのジェネット(遺伝子型)の株のみ生育し, 種子生産が見られない。		
危機要因	河川開発, ため池改修, 水質汚濁		
分布情報	北九州市門司区, 福岡市西区, 遠賀川, 柳川市, 筑後市		
種の概要	浮葉性の多年草		
特記事項	特になし		
キョウチクトウ科		チョウジソウ	絶滅危惧 IA 類
<i>Amsonia elliptica</i> (Thunb.) Roem. et Schult.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 準絶滅危惧	
選定理由	宮若市(旧宮田町)に唯一の自生地がある。生育環境は池の岸上の林縁で, 2001 年時点で確認された現存個体は 1 株だけであった。[1] 今回の調査では自生地を確認していない。		
危機要因	産地局限, 遷移進行		
分布情報	宮若市(旧宮田町)		
種の概要	湿地に生える多年草		
特記事項	特になし		
ガガイモ科		トキワカモメツル	絶滅危惧 IA 類
<i>Tylophora japonica</i> Miq.		2001: 情報不足, 環境省: ー	
選定理由	1974 年に三池山で記録されて以後, 再確認されていない。		
危機要因	産地局限		
分布情報	大牟田市		
種の概要	常緑林内に生えるつる性の多年草。		
特記事項	特になし		
ガガイモ科		ロクオンソウ	絶滅危惧 IA 類
<i>Vincetoxicum amplexicaule</i> Siebold et Zucc.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類	
選定理由	福智山地の山麓部で見られる。ため池の土手などに生える多年草で, 産地はごく限られている。もともと希少。周囲の植物が高性になると本種の生育に影響を与えるので, 草刈りが必要である。[1]		
危機要因	産地局限, 管理放棄, 遷移進行		
分布情報	北九州市八幡西区, 福智町(旧赤池町), 飯塚市(旧穂波町)		
種の概要	ため池の土手などに生える多年草		
特記事項	特になし		

ガガイモ科		タチカモメヅル	絶滅危惧 IA 類
<i>Vincetoxicum glabrum</i> (Nakai) Kitag.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー	
選定理由	やや湿った草地に見られた。近年, 上毛町(旧大平村)の池尻の湿地で, 花が黄緑色のアオタチカモメヅルとともに本種を確認した。乾田化, ため池の管理放棄, 埋立により減少している。日本固有種。[1]		
危機要因	管理放棄, 乾田化		
分布情報	築上町(旧椎田町), 上毛町(旧新吉富村, 旧大平村)		
種の概要	やや湿った草地に生える多年草		
特記事項	特になし		
アカネ科		オオキヌタソウ	絶滅危惧 IA 類
<i>Rubia chinensis</i> Regel et Maack f. <i>mitis</i> (Miq.) Kitag.		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: ー	
選定理由	生育地が少ないうえ, 森林伐採によって個体数が減少していた[1]。近年は, シカの被食圧を強く受けているため, 開花個体数は 50 未満である。		
危機要因	シカ増加		
分布情報	英彦山地, 釈迦岳山地		
種の概要	県内では冷温帯林の林床などに生育する多年草。		
特記事項	特になし		
クマツヅラ科		カリガネソウ	絶滅危惧 IA 類
<i>Caryopteris divaricata</i> Maxim.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー	
選定理由	潜在的な分布範囲は広いが, 県内では産地および個体数のごく限られた植物である。古処山の記録[1]があるが未確認である。		
危機要因	産地局限, 園芸採取		
分布情報	豊前市, 飯塚市(旧筑穂町), 八女市(旧黒木町)		
種の概要	暖温帯林から冷温帯林の林内や林縁に生育する多年草。葉や茎に強い臭気がある。		
特記事項	筑後川県立自然公園指定植物		
シソ科		ヤマジソ	絶滅危惧 IA 類
<i>Mosla japonica</i> (Benth. ex Oliv.) Maxim.		2001: 情報不足, 環境省: 準絶滅危惧	
選定理由	福智山に生育記録があるものの(吉岡, 1964), 1950 年代からやや稀な植物とされている(中島, 1952)。2001 年当時の生育状況は不明であったが[1], 近年, 平尾台で確認されている。		
危機要因	管理放棄, 遷移進行		
分布情報	北九州市小倉南区		
種の概要	日当りのよい丘陵地の草原などに生育する一年草。		
特記事項	特になし		
シソ科		スズコウジュ	絶滅危惧 IA 類
<i>Perillula reptans</i> Maxim.		2001: 情報不足, 環境省: ー	
選定理由	『福岡県植物誌』(1975)では香春岳・英彦山・脊振山が記録されているが, その後の確認情報がない。		
危機要因	遷移進行		
分布情報	香春岳・英彦山・脊振山(現状不明)		
種の概要	落葉林内の溪流に沿った湿った場所に生える多年草		
特記事項	特になし		

シソ科	ミスネコノオ	絶滅危惧 IA 類
<i>Pogostemon stellatus</i> (Lour.) Kuntze		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	1994 年度まで確認されたが, 2001 年当時, 過去の記録地での確認はできていない。乾田化に伴うため池の荒廃や農薬, 除草剤の多用により消滅し, 県内では絶滅寸前の状態である。[1]	
危機要因	ため池改修, 管理放棄, 乾田化	
分布情報	上毛町(旧大平村), 築上町(旧築城町), 宮若市(旧宮田町)(消滅)	
種の概要	県内では, 秋季の水落としにより出現する池尻の水湿地などに生育する一年草[1]	
特記事項	特になし	

シソ科	ミストラノオ	絶滅危惧 IA 類
<i>Pogostemon yatabeanus</i> (Makino) Press		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	植物相豊かな環境に生育する稀な種である。わずかな環境の改変で消滅する危険性は高い。ため池の荒廃, 護岸工事, 水質汚濁により絶滅が危惧される。[1]	
危機要因	ため池改修, 水質汚濁	
分布情報	北九州市, 行橋市, みやこ町(旧豊津町)	
種の概要	県内では, 丘陵地のため池, 放棄水田などに生育する多年草[1]	
特記事項	特になし	

シソ科	コナミキ	絶滅危惧 IA 類
<i>Scutellaria guilielmii</i> A.Gray		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	自然海岸の消失により全国的に希少になっている。行橋市では, 道路工事によって自生環境が損なわれ, 現状不明である。北九州市では無人島に生育している。	
危機要因	海岸開発	
分布情報	北九州市, 行橋市(現状不明), 北筑後地域	
種の概要	海浜生の小形の多年草	
特記事項	特になし	

シソ科	ヤマタツナミノウ	絶滅危惧 IA 類
<i>Scutellaria pekinensis</i> Maxim. var. <i>transitra</i> (Makino) H.Hara		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: —
選定理由	香春岳と旧大島村にごく稀に生育する。『福岡県植物目録』(1952)には英彦山, 古処山, 宝珠山が, 『福岡県植物誌』(1975)には英彦山が記載されているが, 近年, 確認されていない。もともと希少な植物で, 香春岳では石灰岩の採掘により絶滅することが懸念される。[1]	
危機要因	遷移進行	
分布情報	香春町, 宗像市(旧大島村)	
種の概要	木陰に生える多年草	
特記事項	特になし	

シソ科	ミヤマナミキ	絶滅危惧 IA 類
<i>Scutellaria shikokiana</i> Makino		2001: 情報不足, 環境省: —
選定理由	『福岡県植物誌』(1975)では英彦山・若杉山・古処山・釈迦岳・障子岳に記録されているが, 英彦山以外では現状不明であり, 英彦山でも稀である。	
危機要因	森林伐採, シカ増加	
分布情報	添田町	
種の概要	冷温帯林の林床など落葉林内に生える多年草	
特記事項	特になし	

シソ科		ナミキソウ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Scutellaria strigillosa</i> Hemsl.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー
選定理由	北九州市若松区や行橋市の海岸では砂浜にやや普通に見られたが, 近年の海浜開発でほぼ絶滅した。陸から隔離された島で, 約 40 年前のままの海浜が残され, 本種を含む希少な海浜植物が多く生育している場所がある。[1]		
危機要因	海岸開発		
分布情報	北九州市小倉南区		
種の概要	沿海地に生育する多年草		
特記事項	特になし		
シソ科		イヌコマ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Stachys aspera</i> Michx. var. <i>hispidula</i> (Regel) Vorosch.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー
選定理由	護岸工事, 宅地開発, ため池の荒廃により近年急激に減少している種である。生育地での個体数は少ない。日本固有種。[1]		
危機要因	ため池改修, 湿地開発		
分布情報	北九州市八幡西区		
種の概要	ため池や水路の土手などの日当たりの良い湿った草地に生育する多年草		
特記事項	特になし		
シソ科		エソニガクサ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Teucrium veronicoides</i> Maxim.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 IA 類
選定理由	北九州地区の石灰岩地に生育記録があるだけの極めて稀な植物である。当該地では, 近年も本種を見かけたとの情報があるが, 1971 年以降に採集記録はなく, 現存の生育状況は不明瞭である。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	北九州市小倉南区		
種の概要	林縁部などに生育する多年草		
特記事項	特になし		
ナス科		アオホオスキ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Physaliastrum japonicum</i> (Franch. et Sav.) Honda	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	英彦山地の夏緑樹林帯に生育するごく稀な多年草。御前岳の記録があるが未確認である。保全対策を検討するには, まず生育条件の把握が必要である。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	添田町, みやこ町(旧犀川町)		
種の概要	夏緑樹林帯のやや湿り気のある林下や林縁に生育するごく稀な多年草		
特記事項	特になし		
ナス科		ヤマホオスキ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Physalis chamaesarachoides</i> Makino	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 IB 類
選定理由	福智山地や貫山地などの標高 500m ぐらいまでの照葉樹林帯のやや湿った林縁部や樹下に生える多年草であるが, 個体数はごく少ない。人為による採取や森林伐採により減少した。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	北九州市小倉南区, 八幡西区, 田川市, 香春町, 福智町(旧方城町)		
種の概要	やや湿った林縁部や樹下に生える多年草		
特記事項	北九州国定公園指定植物		

ナス科		マルバハダカホオズキ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Tubocapsicum anomalum</i> (Franch. et Sav.) Makino var. <i>obtusum</i> Makino	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 一
選定理由	宗像市(旧玄海町)に 2 カ所の標本産地があるが, 2 カ所とも現存は再確認はされておらず, 現状不明である。1 カ所では発見者により絶滅が確認されているが, その原因は不明である。生育地は海岸近くの礫地や島で, 本県ではもともと自生地も個体数も少数であった。日本の固有変種。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	宗像市(旧玄海町)		
種の概要	海岸近くのやや湿った林縁に生育する多年草。ハダカホオズキの変種で葉が厚い。		
特記事項	特になし		
ゴマノハグサ科		ゴマクサ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Centranthera cochinchinensis</i> (Lour.) Merr. subsp. <i>lutea</i> (H.Hara) T.Yamaz.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	やや湿った日当たりの良い草原やため池周辺の斜面に点々と生育する。ため池周辺の荒廃や湿生草原の遷移により減少している。県内では 2 カ所の生育を確認したが, すでに 1 カ所は高茎草本に変わり消滅した。残りの 1 カ所も個体数が少なく絶滅寸前である。[1]		
危機要因	ため池改修, 遷移進行		
分布情報	行橋市(消滅), 上毛町(旧大平村)		
種の概要	湿った草原に生える一年草		
特記事項	特になし		
ゴマノハグサ科		マルハノサワトウガラシ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Deinostema adenocaulum</i> (Maxim.) T.Yamaz.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	生育記録のあった北九州市の水田では, 近年, 生育が確認されておらず, 絶滅したものと考えられる。行橋市, 新吉富村の限られた山間の中栄養の湿地に生育していた[1]が, 今回の調査では再確認できなかった。他の場所で再発見の可能性がある。		
危機要因	産地局限, 遷移進行		
分布情報	北九州市, 行橋市(現状不明), 上毛町(旧新吉富村, 現状不明)		
種の概要	湿地に生える小型の一年草		
特記事項	特になし		
ゴマノハグサ科		キュウシュウコメグサ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Euphrasia insignis</i> Wettst. subsp. <i>iinumae</i> (Takeda) T.Yamaz. var. <i>kiusiana</i> (Y.Kimura) T.Yamaz.	2001: 情報不足, 環境省: 一
選定理由	福智山・雷山に記録があるが, 近年は確認されていない。今回の調査でも確認できなかった。平尾台にはまだ自生が残されているが, 生育地・個体数は限定されている。		
危機要因	産地局限, 遷移進行		
分布情報	糸島市(旧前原市)(雷山), 北九州市(平尾台・福智山)		
種の概要	山地の草原に生育する半寄生性の一年草		
特記事項	北九州国定公園指定植物		
ゴマノハグサ科		オオアブノメ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Gratiola japonica</i> Miq.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	古い時代からの水田雑草として, 人間の干渉に適応してきた植物である。現在では除草剤, 農薬の多用や, 圃場整備, 乾田化, ため池の荒廃により消滅している。1994 年に確認された生育地では, ため池改修工事の際, 減水した湿地の埋土種子から発生した。本種は県内では極めて稀な種になっている。[1]		
危機要因	その他(圃場整備), ため池改修		
分布情報	久留米市(旧三瀧町), 北九州市八幡西区, 柳川市(旧三橋町)(消滅)		
種の概要	水田などの湿地に生える一年草		
特記事項	特になし		

ゴマノハグサ科 **コキクモ** **絶滅危惧 IA 類**

Linnophila indica (L.) Druce 2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類

選定理由	本種は中栄養のため池に生育する。乾田化, ため池の荒廃, 水質汚濁, 周辺部の開発により減少している。ため池の水位を季節的に変動させる人為的管理が必要。唯一確認された門司区のため池では, 環境の悪化から個体数の減少が見られ絶滅が危惧される。[1]
危機要因	その他 (圃場整備), ため池改修
分布情報	北九州市門司区
種の概要	沼沢地に稀に生える多年草
特記事項	特になし

ゴマノハグサ科 **トラノオススカケ** **絶滅危惧 IA 類**

Veronicastrum axillare (Siebold et Zucc.) T.Yamaz. 2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -

選定理由	北九州市八幡西区, 八女市(旧立花町)の 2 カ所で再確認され, その他は不明である。自生地が開発されることが減少の要因となる。また, 林下, 林縁の道路沿いに自生しているので, 草刈りの際刈り取られる恐れがある。[1]
危機要因	森林伐採
分布情報	北九州市八幡西区, 八女市(旧立花町)
種の概要	茎の長さ 70~150cm の地面を這うつる性の多年草
特記事項	矢部川県立自然公園指定植物

キツネノマゴ科 **スズシバナ** **絶滅危惧 IA 類**

Strobilanthes oligantha Miq. 2001: 絶滅危惧 II 類, 環境省: -

選定理由	樹木や周辺の草本が茂りすぎると減少するので, 保全のためには適切な管理が必要。[1]
危機要因	森林伐採, 道路工事, 遷移進行, 管理放棄
分布情報	筑紫野市, 北九州市小倉南区, 添田町, 嘉麻市(旧嘉穂町)(現状不明)
種の概要	照葉樹林帯下部から上部にかけての林下, 林縁(道路脇など)に生える多年草。
特記事項	特になし

ゴマ科 **ヒシモドキ** **絶滅危惧 IA 類**

Trapella sinensis Oliv. 2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 IB 類

選定理由	筑後市, みやま市(旧瀬高町~山川町), 遠賀川, 矢部川と久留米市に記録がある。久留米市の生育地は川で, 個体数は 10 株程度で少数である[1]。2009 年にも佐賀県に接する筑後川下流域で生育が確認された。
危機要因	河川開発
分布情報	久留米市, 筑後川下流域
種の概要	池や川に生える多年草
特記事項	特になし

イワタバコ科 **シシラン** **絶滅危惧 IA 類**

Lysionotus pauciflorus Maxim. 2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類

選定理由	那珂川町に数十年前から知られている県内唯一の自生地があり, ここは九州での分布北限でもある。自生地は狭い樹林で, 着生木はわずか 5 本である。現在, 増殖株による保全対策が実施されている。
危機要因	産地局限
分布情報	那珂川町
種の概要	照葉樹の樹幹の中間層に着生する小低木。明るすぎても暗すぎても生育せず光環境の好適範囲が狭い。
特記事項	五ヶ山ダム関連事業により保全対策として移植が実施された。

ハマウツボ科		オオナンバンギセル	絶滅危惧 IA 類
		<i>Aeginetia sinensis</i> G.Beck	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 一
選定理由	福智山地の上部山地草原に生育している。遷移の進行による樹木の侵入により減少。[1]		
危機要因	遷移進行		
分布情報	北九州市小倉南区		
種の概要	草原に生える一年生の寄生植物。同属のナンバンギセルがススキに寄生するのに対して本種はヒメノガリヤスに寄生している。		
特記事項	北九州国定公園指定植物		

ハマウツボ科		ハマウツボ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Orobanche coerulescens</i> Stephan ex Willd.	2001: 一, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	海岸・河岸の砂地に生える。個体数は少なく, 生育適地も狭まる傾向にある。		
危機要因	海岸開発, 河川開発		
分布情報	福岡市, 夏井浜, 芥屋海岸		
種の概要	ヨモギ属(特にカワラヨモギ)に寄生する寄生植物。初夏に花茎のみが地上に直立し, 紫色の唇形花を穂状につける。		
特記事項	玄海, 耶馬日田英彦山国定公園指定植物		

ハマウツボ科		オカウツボ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Orobanche coerulescens</i> Stephan ex Willd. f. <i>nipponica</i> (Makino) Kitam.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 一
選定理由	貫山地の日当たりの良い草地に生え, オトコヨモギに寄生するごく稀な植物である。人為的な採取により減少した。[1]		
危機要因	産地局限, 園芸採取		
分布情報	北九州市小倉南区		
種の概要	ヨモギ属(特にオトコヨモギ)に寄生する寄生植物。		
特記事項	北九州国定公園指定植物		

ハマウツボ科		キヨスマウツボ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Phacellanthus tubiflorus</i> Siebold et Zucc.	2001: 一, 環境省: 一
選定理由	広葉樹林の林床斜面で見られる。		
危機要因	森林伐採, 産地局限		
分布情報	添田町, 北九州市小倉南区, 糸島市		
種の概要	樹木の根に寄生し, 葉緑体を持たない。初夏に苞葉に包まれた芽が地表面で開く。花も地表近くに密集してつき, ラッパ状で先が裂けた花冠が上へ伸びる。苞葉・花とも白色だが, 褐変しやすい。		
特記事項	北九州国定公園指定植物		

タヌキモ科		ミカワタヌキモ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Utricularia exoleta</i> R.Br.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	本種は丘陵地の水位変動のある植物相の豊かなため池に生育していた。ため池の改修工事, 乾田化, 宅地化進行による池管理放棄により生育環境が消滅し, 多くの沈水, 浮葉植物が消えていった。現在, 池尻にわずかに本種が確認されている。[1]		
危機要因	ため池改修		
分布情報	北九州市若松区, みやこ町(旧勝山町), 嘉麻市(旧嘉穂町)		
種の概要	沼地に生える小形の多年生の食虫植物		
特記事項	別名イトタヌキモ		

オオバコ科

エゾオオバコ

絶滅危惧 IA 類

Plantago camtschatica Cham. ex Link

2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -

選定理由	県内では玄界灘の海岸に極めて稀に見られる。自生地では、汀線に沿って帯状に点々と生育しているが、海岸の開発、人の立ち入りによる過度の踏みつけなどにより、個体数が減少している場所が多い。県内の産地は分布の南限域であり、残された自生地は貴重である。[1]
危機要因	海岸開発
分布情報	玄界灘沿岸
種の概要	海岸砂礫地に生える多年草
特記事項	特になし

スイカズラ科

オオツクハネウツギ

絶滅危惧 IA 類

Abelia tetrasepala (Koidz.) H.Hara et S.Kuros.

2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -

選定理由	『福岡県植物目録』(1952)でも平尾台の竜ヶ鼻、『福岡県植物誌』(1975)でも平尾台が記録されているが、今回の調査では確認することができなかった。本県ではごく稀な植物である。石灰岩地にあるため、石灰岩の採掘による絶滅が危惧される。
危機要因	産地局限
分布情報	香春町
種の概要	岩場に生える高さ 2m あまりの落葉低木
特記事項	別名メツクハネウツギ

スイカズラ科

ヤマヒョウタンボク

絶滅危惧 IA 類

Lonicera mochidzukiana Makino var. *nomurana* (Makino) Nakai

2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -

選定理由	『福岡県植物目録』(1952)には、産地として英彦山、香春岳、御前岳の 3 カ所が記録されているが、現状不明である。最近の調査では確認されていないので、個体数は少ないと考えられる。[1]
危機要因	産地局限
分布情報	英彦山、香春岳、御前岳
種の概要	山地に生える落葉低木
特記事項	特になし

スイカズラ科

オオベニウツギ

絶滅危惧 IA 類

Weigela florida (Bunge) A.DC.

2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 IA 類

選定理由	古処山頂が日本で知られている唯一の生育地である。2011 年 8 月にわずかに 1 個体の根元から萌芽を確認したが、絶滅寸前である。
危機要因	産地局限
分布情報	嘉麻市(旧嘉穂町)(古処山)
種の概要	林縁に生える低木
特記事項	筑後川県立自然公園指定植物

マツムシソウ科

ナベナ

絶滅危惧 IA 類

Dipsacus japonicus Miq.

2001: 絶滅危惧 II 類, 環境省: -

選定理由	生育記録は比較的多数あるものの、2001 年当時、多くの生育地での現状は不明であった[1]。更に、北九州市など、絶滅したと考えられる生育地も存在する。
危機要因	遷移進行、その他(過剰な刈取り)
分布情報	東峰村(旧小石原村)、釈迦岳、犬鳴山、福智山、北九州市八幡東区など(現状不明)
種の概要	林縁などのやや開けた場所などに生える二年草。大形で植物体に剛毛があるため、有害植物とみなされ刈り取られることが多い。[1]
特記事項	矢部川県立自然公園指定植物

キキョウ科		ソバナ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Adenophora remotiflora</i> (Siebold et Zucc.) Miq.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 一
選定理由	英彦山地の上部夏緑樹林下に生える多年草で極めて稀。スズタケが繁茂して消滅した箇所もある。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	添田町, 豊前市		
種の概要	山地の斜面に生える多年草		
特記事項	特になし		
キキョウ科		ツルギキョウ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Campanumoea javanica</i> Blume var. <i>japonica</i> Makino	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	もともと稀な植物で, 森林伐採や開発, 採取により減少した。[1]		
危機要因	産地局限, 河川開発, 森林伐採		
分布情報	福岡市東区, 福津市, 宗像市		
種の概要	林縁に生える細いつる性の多年草		
特記事項	特になし		
キク科		カワラハハコ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Anaphalis margaritacea</i> (L.) Benth. et Hook.f. subsp. <i>yedoensis</i> (Franch. et Sav.) Kitam.	2001: 情報不足, 環境省: 一
選定理由	脊振山および朝倉市(旧甘木市)に分布記録がある(福岡県高等学校生物研究部会, 1975)が, 1950年代にすでに稀な植物とされている(中島, 1952)。近年の確実な生育情報はなく, 現存する場合でも開花個体数は 50 未満と推測される。		
危機要因	河川開発, 産地局限		
分布情報	脊振山, 朝倉市(旧甘木市)		
種の概要	河川敷の礫地や砂地などに群生する多年草		
特記事項	特になし		
キク科		クソニンジン	絶滅危惧 IA 類
		<i>Artemisia annua</i> L.	2001: 情報不足, 環境省: 一
選定理由	既知の産地は, 北九州市(吉岡, 1964)と犬鳴山(福岡県高等学校生物研究部会, 1975)だけである。近年の生育情報も得られておらず, 現存する場合でも開花個体数は 50 未満と推測される。		
危機要因	産地局限		
分布情報	北九州市, 犬鳴山		
種の概要	道端や市外の荒地などに生育する一年草。薬用植物として中国から持ち込まれたとの説もある。		
特記事項	北九州市の海岸付近で採集された標本がある。		
キク科		イヌヨモギ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Artemisia keiskeana</i> Miq.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 一
選定理由	県内産地は貫山地の 1 カ所だけであり, しかも個体数もごく少ない希少種である。人為的な採取により減少した。[1]		
危機要因	遷移進行		
分布情報	北九州市小倉南区		
種の概要	登山道沿いの斜面や岩場などの比較的乾燥した場所に生育することの多い多年草		
特記事項	特になし		

キク科		フゼノギク	絶滅危惧 IA 類
		<i>Aster hispidus</i> Maxim. var. <i>koidzumianus</i> (Kitam.) Okuyama	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	県内産地は旧築城町の 1 カ所だけであり, 個体数も少ない。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	築上町(旧築城町)		
種の概要	山地の日当たりの良い岩上に生育するごく稀な多年草		
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物		
キク科		オオハヨメナ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Aster miquelianus</i> H.Hara	2001: 情報不足, 環境省: ー
選定理由	『福岡県植物誌』(1975)では福智町(旧赤池町), 熊渡山が記録されているが, その後の確認情報がない。		
危機要因	産地局限		
分布情報	福智町(旧赤池町), 八女市(旧星野村)熊渡山		
種の概要	温帯林内に生える多年草		
特記事項	特になし		
キク科		サワシロギク	絶滅危惧 IA 類
		<i>Aster rugulosus</i> Maxim.	2001: 情報不足, 環境省: ー
選定理由	1960 年代は日当たりの良い湿地にやや普通に生育していた(吉岡, 1964)が, 1970 年代には天山や広川町などに稀に生育する(福岡県高等学校生物研究部会, 1975)程度に減少した。近年は, 確実な生育情報が得られておらず, 現存する場合でも開花個体数は 50 未満と推測される。		
危機要因	湿地開発		
分布情報	北九州市		
種の概要	貧栄養性の湿地に点在する多年草。湿地周辺部の比較的草丈の高い場所に生育するとされている。		
特記事項	特になし		
キク科		モリアザミ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Cirsium dipsacolepis</i> (Maxim.) Matsum.	2001: 情報不足, 環境省: ー
選定理由	戸ノ上山, 平尾台および福智山に生育記載がある(吉岡, 1964)。近年も, 平尾台での生育情報はあがるが, 他地点での状況は不明であり, 開花個体数は 50 未満と推測される。		
危機要因	遷移進行, 産地局限		
分布情報	北九州市(戸ノ上山, 平尾台, 福智山)		
種の概要	国内の比較的広範囲に分布するアザミ属の多年草で, 日当たりの良い山地の草原や山地の林縁などに生育する。		
特記事項	玄海, 北九州国定公園指定植物		
キク科		イズハハコ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Comyza japonica</i> (Thunb.) Less.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	県内では林縁道路沿いや水田石垣などに, 極めて稀に見られる。黒木町, 筑紫野市などに自生記録があるが現状不明である。[1]		
危機要因	遷移進行, 産地局限		
分布情報	八女市(旧黒木町), 筑紫野市		
種の概要	日当たりのよい山麓に生える一〜越年草		
特記事項	特になし		

キク科		ヒゴタイ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Echinops setifer</i> Iljin	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	沖ノ島に生育していたが, 1978 年以降は採集記録がなく, 同島から消滅したと思われる。一方, 北九州地区では, 1996 年に数個体が発見されるまで, 採集・生育記録は皆無であった。このため, 現存個体は植栽あるいは播種された個体に由来する可能性も否定できない。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	沖ノ島, 北九州地区		
種の概要	草原に生育する多年草		
特記事項	特になし		
キク科		アキノハハコグサ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Gnaphalium hypoleucum</i> DC.	2001: 情報不足, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	北九州市, 香春岳, 釈迦岳, 萩尾峠に生育記録がある(福岡県高等学校生物研究部会, 1975)が, 近年, 生育情報はなく, 現存する場合でも開花個体数は 50 未満と推測される。		
危機要因	遷移進行		
分布情報	北九州市, 香春岳, 釈迦岳, 福岡市(萩尾峠)		
種の概要	9 月~11 月に開花する一年草(ハハコグサの花期は春)。山地のやや乾燥した草原などに生育する。		
特記事項	特になし		
キク科		チョウセンヤマニガナ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Lactuca raddeana</i> Maxim. var. <i>raddeana</i>	2001: 情報不足, 環境省: 一
選定理由	『福岡県植物誌』(1975)では御前岳が記録されているが, その後の確認情報がない。		
危機要因	産地局限		
分布情報	御前岳		
種の概要	林縁に生える多年草		
特記事項	特になし		
キク科		オオモミジガサ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Miricacalia makinoana</i> (Yatabe) Kitam.	2001: 絶滅危惧 II 類, 環境省: 一
選定理由	既知の産地は, 犬ヶ岳山系と釈迦岳に限られている(熊谷, 1992)うえ, 近年のシカの被食圧の増大によって, 開花個体数は 50 未満の可能性が高い。		
危機要因	シカ食害, 産地局限		
分布情報	犬ヶ岳, 釈迦岳		
種の概要	冷温帯林の湿った林床や河川沿いに生育する多年草。		
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物		
キク科		テバコモミジガサ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Parasenecio tebakoensis</i> (Makino) H.Koyama	2001: 絶滅危惧 II 類, 環境省: 一
選定理由	元来, 生育地および個体数が少なかった[1]に加え, 近年, シカの被食圧を強く受けており, 開花個体数は 50 未満の可能性が高い。		
危機要因	シカ増加, 産地局限		
分布情報	英彦山において 2006 年に生育記録がある(熊谷, 2010)。		
種の概要	県内では, 主に暖温帯と冷温帯の中間域の広葉樹林の谷間や小石の多い斜面に生育する多年草。		
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園, 矢部川県立自然公園指定植物		

キク科		ヒナヒゴタイ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Saussurea japonica</i> (Thunb.) DC.	2001: 情報不足, 環境省: 絶滅危惧 IA 類
選定理由	英彦山と竜王山で記録されている(福岡県高等学校生物研究部会, 1975)。しかし, これら 2 カ所では 2001 年当時, 既に確実な生育情報は得られておらず[1], それ以降も確実な分布情報はない。最近, 平尾台で発見されているが, 生育地・個体数は限られている。		
危機要因	産地局限, 遷移進行		
分布情報	添田町(英彦山), 飯塚市(竜王山), 北九州市(平尾台)		
種の概要	草原に生える二年草		
特記事項	特になし		
キク科		ミヤコアザミ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Saussurea maximowiczii</i> Herder	2001: 情報不足, 環境省: ー
選定理由	春日市と八女市に生育記録があるが(八女市(旧上陽町):福岡県高等学校生物研究部会, 1975), かなり前より確実な生育情報が得られておらず, 県内から絶滅した可能性が高い。		
危機要因	産地局限, 遷移進行		
分布情報	春日市, 八女市		
種の概要	草原に生える多年草		
特記事項	特になし		
キク科		キビシロタンポポ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Taraxacum hideoi</i> Nakai ex H.Koidz.	2001: 情報不足, 環境省: ー
選定理由	苧田町にキビシロタンポポと考えられている白花系タンポポの生育地が知られているが, そこでの開花個体数は 50 未満である。他に生育地が存在する可能性もある。		
危機要因	産地局限		
分布情報	苧田町		
種の概要	総苞外片に角状突起がないことでシロバナタンポポと区別できるとされている。		
特記事項	特になし		
オモダカ科		アギナシ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Sagittaria aginashi</i> Makino	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	個体数は少ない。乾田化, ため池の荒廃, 農薬, 除草剤の多用により減少。宗像市(旧玄海町)の採集報告(1980)では, 本種は当時からごく稀な種になっていた。県内では絶滅寸前である。[1]		
危機要因	乾田化, 管理放棄, 農薬使用, 産地局限		
分布情報	築上町(旧築城町)		
種の概要	山間の棚状に連なるため池の秋季落水した池尻に, 多くの希少な水湿地植物とともに生育する。[1]		
特記事項	特になし		
トチカガミ科		マルミスブタ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Blyxa aubertii</i> Rich.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	本種はもともと稀で, 県内で絶滅してしまったと思われたが, 近年水田脇の溝で数株が確認された。圃場整備, 農薬, 除草剤の多用, ため池の荒廃が減少の要因である。全国的に相次いで絶滅が伝えられており, 本県でも近い将来の絶滅の危険性は極めて高い。[1]		
危機要因	農薬使用, 管理放棄, その他(圃場整備)		
分布情報	添田町		
種の概要	沈水生の一年草		
特記事項	特になし		

トチカガミ科		ヤナギスブタ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Blyxa japonica</i> (Miq.) Maxim. ex Asch. et Gürke	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 一
選定理由	過去の標本産地のうちミカワスブタ(九州型)とされたものがある。種子の特徴から、近年セトヤナギスブタとされたものに分類されるが、これは本種の変種とする見解があり(角野, 1994)、本種に含めておく。約 15 年ぶりに生育が確認された希少種である。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	嘉麻市(旧嘉穂町), みやこ町(旧勝山町)		
種の概要	丘陵地のため池と養鯉池(水田転用)に生育する。沈水生の一年草。		
特記事項	特になし		
トチカガミ科		トチカガミ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Hydrocharis dubia</i> (Blume) Backer	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	やや汚れた環境に群生するので、護岸・暗渠工事の対象になりやすい。生育地での工事に際しては、移植などの方法で保護に努める必要がある。[1]		
危機要因	ため池改修, 水路改修		
分布情報	北九州市小倉南区, 行橋市, 築上町(旧椎田町), 柳川市, 大川市		
種の概要	富栄養のため池や水路に生育する多年草		
特記事項	特になし		
ヒルムシロ科		ガシャモク	絶滅危惧 IA 類
		<i>Potamogeton lucens</i> L. subsp. <i>sinicus</i> (Migo) H.Hara var. <i>teganumensis</i> Makino	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 IA 類
選定理由	1999 年までは旺盛な生育が確認されていたが、2000 年～2001 年に生育面積が激減し、現在に至っている。		
危機要因	産地局限, その他(底土の変質)		
分布情報	北九州市小倉南区		
種の概要	沈水生の多年草。琵琶湖, 霞ヶ浦, 印旛沼などに生育していたが、これらの産地からは野生絶滅した。1987 年に北九州で発見された。[1]		
特記事項	特になし		
ヒルムシロ科		ヒロハノエビモ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Potamogeton perfoliatus</i> L.	2001: 絶滅, 環境省: 一
選定理由	1992 年に行橋市の山間のため池で十数株が発見されたが、1994 年の洪水で池全部が干し上がり消滅した[1]。2009 年に北九州市若松区の埋立地で新たに生育が確認された。		
危機要因	産地局限		
分布情報	行橋市, 北九州市		
種の概要	湖沼に生育する沈水性の多年草		
特記事項	特になし		
ヒルムシロ科		ツツイトモ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Potamogeton pusillus</i> L.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	沿海地の開発, ため池の管理放棄により生育環境の消滅が危惧される。[1]		
危機要因	海岸開発, 管理放棄		
分布情報	北九州市若松区, 小倉南区, 八幡西区。芦屋町からは絶滅した。		
種の概要	響灘沿いのため池, 水路, 埋立地の浅い水域に生育する。		
特記事項	特になし		

イバラモ科		ムサンモ	絶滅危惧 IA 類
<i>Najas ancistrocarpa</i> A.Braun ex Magnus		2001: ー, 環境省: 絶滅危惧 IA 類	
選定理由	2010年に北九州市若松区で確認された。九州初記録である。		
危機要因	産地局限		
分布情報	北九州市若松区		
種の概要	ため池、水田などに稀に生育する沈水性の一年草		
特記事項	特になし		
イバラモ科		サガミトリゲモ	絶滅危惧 IA 類
<i>Najas chinensis</i> N.Z.Wang		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類	
選定理由	乾田化によるため池の管理放棄、貯水状態で水質の汚濁が始まると一番先に影響のある植物である。[1]		
危機要因	乾田化、管理放棄、水質汚濁		
分布情報	行橋市、上毛町(旧大平村)、福岡市西区。北九州市からは絶滅した。		
種の概要	ため池の水深の浅い環境や水田に生育する一年草		
特記事項	特になし		
イバラモ科		イトリゲモ	絶滅危惧 IA 類
<i>Najas gracillima</i> (A.Braun ex Engelm.) Magnus		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 準絶滅危惧	
選定理由	水田雑草として各地で生育していたと推定されるが、知られないまま消えていった。現在県内では1カ所のみ確認されている。[1]		
危機要因	農業使用、乾田化		
分布情報	行橋市。北九州市、福岡市西区からはほぼ絶滅した。		
種の概要	水田雑草として北九州市の水田に生育したが、現在では山間部の貧栄養のため池に生育する稀な水草になった。		
特記事項	特になし		
イバラモ科		イバラモ	絶滅危惧 IA 類
<i>Najas marina</i> L.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー	
選定理由	現在残された生育地でも水質汚濁により近い将来に野生での絶滅の危険性が非常に高い。環境に敏感な種であるため、開発による生育地の破壊が予測された場合、移植先を探し、本種が定着するまで試みを行うなど、慎重な配慮が必要である。[1]		
危機要因	水質汚濁		
分布情報	苅田町、柳川市(旧三橋町)。ほかに北九州市、上毛町(旧大平村)で記録があった。		
種の概要	海岸部や山間部のため池、水路に稀に生育する。		
特記事項	特になし		
イバラモ科		トリゲモ	絶滅危惧 IA 類
<i>Najas minor</i> All.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類	
選定理由	北九州市八幡西区白岩池が県内唯一の生育地であったが、水質の悪化で絶滅した。保全対策を検討する場合には、県内の生育状況を把握することや、本種の特性の究明がまず必要である。[1]		
危機要因	水質汚濁		
分布情報	北九州市八幡西区(現状不明)		
種の概要	本種はオオトリゲモとの識別が難しく、多くの調査地で本種の類似種を採集したが、識別点の雄ずいの葯室の数がわかる決定的な標本が得られていない。完全な標本を採集するには時期などの難しさがある。		
特記事項	特になし		

ホンゴウソウ科		ホンゴウソウ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Sciaphila nana</i> Blume	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	北九州地区の数カ所で生育記録があるだけの極めて稀な植物である。現在の生育状況は、いずれの場所も不明である。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	北九州地区, 北筑後地区		
種の概要	林床に生育する腐生の多年草		
特記事項	北九州国定公園指定植物		

ユリ科		キスゲ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Hemerocallis citrina</i> Baroni var. <i>vespertina</i> (H.Hara) M.Hotta	2001: 情報不足, 環境省: 一
選定理由	宇美町の草地に自生するが、個体数は 50 株未満である。		
危機要因	産地局限		
分布情報	宇美町		
種の概要	草原に生える多年草		
特記事項	玄海国定公園指定植物。別名ユウスゲ		

ユリ科		アキノワスレグサ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Hemerocallis fulva</i> L. var. <i>sempervirens</i> (Araki) M.Hotta	2001: 一, 環境省: 一
選定理由	行橋市の湿地に自生するが、個体数は数個体である。遷移の進行により被覆され、絶滅が危惧される。		
危機要因	産地局限		
分布情報	行橋市		
種の概要	明るい草地に生える多年草		
特記事項	特になし		

ユリ科		マルバサンキライ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Smilax stans</i> Maxim.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 一
選定理由	平尾台が県内唯一の産地である。もともと希少な植物であり、近年発見されていない。生育環境の変化や採取により減少した。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	平尾台(現状不明)		
種の概要	小形の落葉低木。サルトリイバラ属であるが茎は直立、とげはない。		
特記事項	北九州国定公園指定植物		

ユリ科		タマガワホトギス	絶滅危惧 IA 類
		<i>Tricyrtis latifolia</i> Maxim.	2001: 絶滅危惧 II 類, 環境省: 一
選定理由	産地は英彦山地と釈迦岳山地に限られており、個体数も少ない。園芸用採取により減少している。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	添田町, 八女市(旧矢部村)		
種の概要	温帯林内の湿った崖地や谷間の岩などに生える多年草		
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物		

ユリ科		ホソバシロソウ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Veratrum maackii</i> Regel var. <i>maackii</i>	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -
選定理由	行橋市や脊振山地で生育が確認されている。山間の湿地の減少, 湿地の遷移の進行, 採取, 踏みつけ, イノシシの侵入などにより, 個体数は非常に減少している。[1]		
危機要因	遷移進行, 園芸採取, 踏みつけ		
分布情報	行橋市, 福岡市早良区		
種の概要	山間の湿った草地に生える多年草		
特記事項	特になし		
ビャクブ科		ナベツリ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Croomia heterosepala</i> (Baker) Okuyama	2001: -, 環境省: -
選定理由	御前岳, 釈迦岳で記録されている(福岡県植物誌)が, 現状は不明。		
危機要因	森林伐採, 園芸採取, 産地局限		
分布情報	八女市(旧矢部村)		
種の概要	山地の落葉樹林下に生育する多年草。茎は斜上し, 卵形~長卵形の葉を左右に数枚つける。春に葉腋から細長い花柄で花がぶら下がる。花被片は4枚で平開し, 1枚は他の3枚より大きい。		
特記事項	矢部川県立自然公園指定植物		
キンバイザサ科		コキンバイザサ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Hypoxis aurea</i> Lour.	2001: 情報不足, 環境省: -
選定理由	平尾台などごく限られた場所に自生する。		
危機要因	産地局限		
分布情報	平尾台, 久山町, 北筑後地方		
種の概要	丈の低い草地に生える多年草		
特記事項	特になし		
ミスアオイ科		ミスアオイ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Monochoria korsakowii</i> Regel et Maack	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	北九州市若松区ではハス田, 福津市(旧津屋崎町)では池尻の湿地に生育した。現存する筑紫野市は緩やかな流れの水路にわずかに生育する。個体数も少なく絶滅寸前である。九州では本県にのみ生育する極めて稀な種である。生育地が不安定な環境であるため, 生育状況の確認と保全対策の取り組みが必要である。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	筑紫野市		
種の概要	抽水生の一年草		
特記事項	特になし		
アヤメ科		ヒメジャガ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Iris gracilipes</i> A.Gray	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	豊前市大字求菩提の求菩提山には, かつて群生地があり, 昭和43年に県の天然記念物に指定されているが, その後乱獲されて今は絶滅に瀕している。そのため山麓にある求菩提資料館では増殖に努めている。[1]		
危機要因	乱獲		
分布情報	豊前市		
種の概要	乾燥した明るい樹下に生育する小さな多年草		
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物, 県天然記念物(求菩提のヒメジャガ)		

アヤメ科		エヒメアヤメ	絶滅危惧 IA 類
<i>Iris rossii</i> Baker		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類	
選定理由	以前から知られている自生地は、地元の人々により保護管理されており、生育状況はほぼ良好である。『福岡県植物目録』(1952)には、産地として上記のほか、春日、大野、御笠、山家、三國が挙げられているが、いずれの場所においても現存情報は無い[1]。福岡地区でもう1カ所自生地が存在する。		
危機要因	遷移進行、園芸採取		
分布情報	筑紫野市、大野城市		
種の概要	山地草原に生える多年草		
特記事項	筑紫野市指定天然記念物		
ヒナノシャクショウ科		ヒナノシャクショウ	絶滅危惧 IA 類
<i>Burmammia championii</i> Thwaites		2001: 情報不足, 環境省: ー	
選定理由	ごく稀に発見される植物である。		
危機要因	産地局限		
分布情報	糸島市、上毛町(旧大平村)、東峰村(旧小石原村)		
種の概要	林床に生える高さ2~3cm程度の腐生多年草		
特記事項	北九州国定公園指定植物		
イグサ科		イヌイ	絶滅危惧 IA 類
<i>Juncus fauriei</i> H.Lév. et Vaniot		2001: 情報不足, 環境省: ー	
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)および、『福岡県植物誌』(1975)では門司の記録が引用されているが、その後の確認情報がない。		
危機要因	産地局限		
分布情報	北九州市(門司)		
種の概要	海岸の湿った砂地に生える多年草		
特記事項	特になし		
イグサ科		ドロイ	絶滅危惧 IA 類
<i>Juncus gracillimus</i> (Buchenau) V.I.Krecz. et Gontsch.		2001: 情報不足, 環境省: ー	
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)では門司、東郷、和臼、香椎が、『福岡県植物誌』(1975)では門司が記録されているが、その後の確認情報がない。		
危機要因	産地局限		
分布情報	北九州市(門司)、宗像市(東郷)、福岡市(和臼、香椎)		
種の概要	沿海地の明るい湿地に生える多年草		
特記事項	特になし		
ホシクサ科		ホシクサ	絶滅危惧 IA 類
<i>Eriocaulon cinereum</i> R.Br.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー	
選定理由	除草剤、農薬の多用、圃場整備が減少の要因である。また、早期の稲刈で、種子発芽サイクルにあわなくなった点も急激な減少、消滅の要因と考えられる。かつては水田雑草として、やや普通に生育したと思われるが、いつのまにか消えていっている種である。[1]		
危機要因	農薬使用、その他(圃場整備)		
分布情報	北九州市、田川市		
種の概要	稲刈り前の水田や減水したため池の湿地に生育する一年草		
特記事項	特になし		

ホシクサ科		クロホシクサ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Eriocaulon parvum</i> Koern.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	ため池の管理放棄, 改修工事による生育地の破壊, 周辺部の開発により減少している。生育地の環境の保全には地域住民の理解と行政の対応が必要。[1]		
危機要因	管理放棄, ため池改修		
分布情報	新宮町, 行橋市, 上毛町(旧大平村)		
種の概要	現存する 4 カ所の生育地は海岸, 丘陵地の秋季落水するため池に見られる。[1]		
特記事項	特になし		
イネ科		コウヤザサ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Brachyelytrum japonicum</i> (Hack.) Hack. ex Honda	2001: 情報不足, 環境省: —
選定理由	脊振山・雷山で記録されているが, 1970 年代以後は確認されていない。		
危機要因	産地局限		
分布情報	脊振山・雷山		
種の概要	冷温帯林の林縁・林内に生える多年草		
特記事項	特になし		
イネ科		ホガエリガヤ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Brylkinia caudata</i> (Munro ex A.Gray) F.Schmidt	2001: 情報不足, 環境省: —
選定理由	脊振山・鬼が鼻岩・犬ヶ岳・英彦山で記録されているが, 1970 年代以後は確認されていない。		
危機要因	産地局限		
分布情報	脊振山・鬼が鼻岩・犬ヶ岳・英彦山		
種の概要	冷温帯林の林縁・林内に生える多年草		
特記事項	特になし		
イネ科		ミスタカモジ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Elymus humidus</i> (Ohwi et Sakam.) A.Löve	2001: 情報不足, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	かつては水田の畦や水路の土手などに広く見られたが, 水田や水路の工事によって減少し, 現在では希少な植物となっている。		
危機要因	その他 (圃場整備), 河川開発		
分布情報	福岡市西区		
種の概要	水田の畔や水路の土手などの草地に生える多年草		
特記事項	特になし		
イネ科		ウンヌケモドキ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Eulalia quadrinervis</i> (Hack.) Kuntze	2001: 情報不足, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	1952 年には, 久留米, 下広川などにやや普通と記録されているが, 1970 年代以後は確認されていない。		
危機要因	遷移進行		
分布情報	なし		
種の概要	痩せ山の草地に生える多年草		
特記事項	特になし		

イネ科

イワタケノウ

絶滅危惧 IA 類

Hystrix duthiei (Stapf) Bor subsp. *japonica* (Hack.) Baden, Fred. et Seberg

2001: 情報不足, 環境省: 一

選定理由	犬ヶ岳・英彦山・釈迦岳で記録されているが、英彦山以外では現状不明であり、英彦山では稀に見られる。
危機要因	産地局限
分布情報	犬ヶ岳・英彦山・釈迦岳
種の概要	冷温帯林の林縁・林内に生える多年草
特記事項	特になし

イネ科

アズマガヤ

絶滅危惧 IA 類

Hystrix duthiei (Stapf) Bor subsp. *longearistata* (Hack.) Baden, Fred. et Seberg

2001: 情報不足, 環境省: 一

選定理由	英彦山・釈迦岳で記録されているが、釈迦岳では現状不明であり、英彦山では稀に見られる。
危機要因	産地局限
分布情報	英彦山・釈迦岳
種の概要	冷温帯林の林縁・林内に生える多年草
特記事項	特になし

イネ科

ミチシバ

絶滅危惧 IA 類

Melica onoei Franch. et Sav.

2001: 情報不足, 環境省: 一

選定理由	『福岡県植物目録』(1952)および『福岡県植物誌』(1975)では平尾台、香春岳が記録されているが、その後の確認情報がない。
危機要因	産地局限
分布情報	平尾台、香春岳
種の概要	山地の林内や林縁に生える多年草
特記事項	特になし

イネ科

ヌマガヤ

絶滅危惧 IA 類

Moliniopsis japonica (Hack.) Hayata

2001: 情報不足, 環境省: 一

選定理由	『福岡県植物目録』(1952)では中広川・下広川が、『福岡県植物誌』(1975)では高良台・広川町が記録されされているが、その後の確認情報がない。これらの自生地では湿地環境が減少しており、残存しているとしても個体数は限定されていると考えられる。
危機要因	産地局限
分布情報	久留米市(高良台)
種の概要	湿地に生える多年草
特記事項	特になし

イネ科

ヒロハノハネガヤ

絶滅危惧 IA 類

Stipa coreana Honda var. *japonica* (Hack.) Y.N.Lee

2001: 情報不足, 環境省: 一

選定理由	『福岡県植物誌』(1975)では英彦山・釈迦岳が記録されされているが、その後の確認情報がない。
危機要因	産地局限
分布情報	英彦山・釈迦岳
種の概要	落葉林内に生える多年草
特記事項	特になし

ヤシ科		ヒロウ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Livistona chinensis</i> (Jacq.) R.Br. ex Mart. var. <i>subglobosa</i> (Hassk.) Becc.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: —
選定理由	沖ノ島では最北端に位置する“ワレノ鼻”の断崖上(標高 70m)に、わずかに高木が 2 本生育している[1]。2010 年の調査で高木の周辺に 2 本の低木が確認された。高木の幹には大正時代に付けられたと見られる傷があり、樹齢は 100 年を越えていると推定される。		
危機要因	産地局限		
分布情報	沖ノ島		
種の概要	海岸近くに生える常緑高木		
特記事項	北限自生地		
サトイモ科		ヒロハテンナンショウ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Arisaema ovale</i> Nakai var. <i>sadoense</i> (Nakai) J.Murata	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: —
選定理由	県内の産地は分布の南限域であり、残された自生地は貴重である。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	県内では英彦山, 犬ヶ岳, 三郡山などに極めて稀に見られる。		
種の概要	夏緑樹林の林床に生える多年草。自生地は標高 800m 以上のブナ林内や林縁で、単独または大小個体が数本まとまって生育している。		
特記事項	特になし		
ミクリ科		ミクリ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Sparganium erectum</i> L.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	河川改修工事などの流路の直線化やコンクリート護岸工事, 陸地化により減少している。現存する 1カ所の生育地は、定期的な焼き入れが行われ、遷移が阻止されている。[1]		
危機要因	河川開発, 水路改修		
分布情報	行橋市, 田川市		
種の概要	自然度の保たれた河川中下流域で、流れに沿って点在する浅瀬や湿地に生育する。		
特記事項	特になし		
ミクリ科		オオミクリ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Sparganium erectum</i> L. var. <i>macrocarpum</i> (Makino) H.Hara	2001: —, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	2006 年に少数個体が発見されたが、その後の調査では確認されていない。		
危機要因	遷移進行		
分布情報	北九州市小倉南区		
種の概要	水路に生育する多年草		
特記事項	特になし		
ミクリ科		ヒメミクリ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Sparganium subglobosum</i> Morong	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	北九州市から絶滅してしまったと思われたが、近年になって、新しい生育地が確認された。個体数は少ない。乾田化, ため池周辺の荒廃, 改修工事により減少している。本生育地も陸地化傾向にあり, 遷移阻止の管理が必要。[1]		
危機要因	乾田化, 管理放棄, ため池改修		
分布情報	北九州市小倉南区, 門司区, 宗像市, 福岡市, 春日市, 筑紫野市に記録があった。		
種の概要	水生の多年草。ほかのミクリ類に比べやや水深の浅い所に生育する。		
特記事項	特になし		

カヤツリグサ科		イトテンツキ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Bulbostylis densa</i> (Wall.) Hand.-Mazz. var. <i>capitata</i> (Miq.) Ohwi	2001: 情報不足, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)では脊振山, 雷山, 春日, 夜須が記録されているが, その後の確認情報がない。脊振山, 雷山では調査の結果発見できず, 絶滅した可能性がある。		
危機要因	遷移進行		
分布情報	糸島市(雷山), 福岡市(脊振山), 春日市, 朝倉市(夜須)		
種の概要	日当たりの良いやや湿った草地に生える一年草		
特記事項	特になし		

カヤツリグサ科		クロカワズスゲ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Carex arenicola</i> F.Schmidt	2001: 情報不足, 環境省: 一
選定理由	1983 年には新宮町で自生が確認されているが, その後の確認情報がない。自生地が局限されており, 生育地の湿地環境は開発の影響を受けやすいため, 特に絶滅が危惧される。		
危機要因	海岸開発		
分布情報	福岡市(海の中道), 新宮町, 福津市(津屋崎)		
種の概要	海浜の湿った草地に生える多年草		
特記事項	特になし		

カヤツリグサ科		ヒロードスゲ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Carex miyabei</i> Franch.	2001: 情報不足, 環境省: 一
選定理由	2001 年版に情報不足種としてリストされている。最近, 遠賀川河川敷から報告されているが, 今回の調査では生育状況を確認できなかった。河川敷の改修により絶滅の恐れがある。		
危機要因	河川開発		
分布情報	遠賀川		
種の概要	河川敷などの湿地に生える多年草		
特記事項	特になし		

カヤツリグサ科		ウマスゲ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Carex idzuroei</i> Franch. et Sav.	2001: 情報不足, 環境省: 一
選定理由	大牟田市で 1975 年に, 久留米市で 1976 年に採集されているが, それ以後は確認情報がない。河川敷の改修などにより生育環境が失われており, 絶滅した可能性もある。		
危機要因	河川開発		
分布情報	遠賀町, 久留米市, 八女市, 大牟田市		
種の概要	河川敷などの湿地に生える多年草		
特記事項	特になし		

カヤツリグサ科		アズマスゲ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Carex lasiolepis</i> Franch.	2001: 情報不足, 環境省: 一
選定理由	戦前に採集されて以後, 生育地が再確認されていない。残存しているとしても, 個体数はごく限られていると考えられる。		
危機要因	産地局限		
分布情報	英彦山, 犬ヶ岳		
種の概要	温帯林内の草地や岩場に生える多年草		
特記事項	特になし		

カヤツリグサ科 **キシウナキリスゲ** **絶滅危惧 IA 類**

Carex nachiana Ohwi 2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類

選定理由 お寺の参道沿いに点在しているため、除草作業が減少の主たる要因である。[1]

危機要因 その他 (除草作業)

分布情報 みやま市(旧瀬高町)が県内唯一の産地である。

種の概要 常緑林の林内、林縁に生育する多年草

特記事項 矢部川県立自然公園指定植物

カヤツリグサ科 **ヤチカワズスゲ** **絶滅危惧 IA 類**

Carex omiana Franch. et Sav. var. *omiana* 2001: 情報不足, 環境省: -

選定理由 『福岡県植物目録』(1952)では安徳(梶原峠), 山口, 脊振山, 田隅が記録されされているが, その後の確認情報がない。生育に適した湿地環境が大きく減少しているため, 絶滅した可能性もある。

危機要因 湿地開発, 遷移進行

分布情報 福岡市(脊振山, 早良区田隅), 那珂川町(安徳梶原峠), 筑紫野市(山口)

種の概要 山地の湿地に生える多年草

特記事項 特になし

カヤツリグサ科 **アカネスゲ** **絶滅危惧 IA 類**

Carex poculisquama Kük. 2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類

選定理由 もともと希少な植物である。草原の放置による自然遷移によって, 背丈の高い草に埋もれて衰退する。現に田川市の産地はネザサなどの侵入によって衰退の一途を辿っている。保全を図るには, 野焼きなどの継続により, 背の低い草地を保つことが必要。[1]

危機要因 遷移進行

分布情報 北九州市, 田川市

種の概要 石灰岩地の二次草原に生育する多年草

特記事項 北九州国定公園指定植物

カヤツリグサ科 **ジングウスゲ** **絶滅危惧 IA 類**

Carex sacrosancta Honda 2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 準絶滅危惧

選定理由 本県では登山道脇の岩礫地に生育している。現在急激な減少は見られないが, もともと希少な植物である。[1]

危機要因 産地局限

分布情報 篠栗町, 朝倉市(旧甘木市)に自生するが, 篠栗町では近年確認されていない。

種の概要 山地の疎林内に自生する多年草

特記事項 特になし

カヤツリグサ科 **セイタカハリイ** **絶滅危惧 IA 類**

Eleocharis attenuata (Franch. et Sav.) Palla 2001: 情報不足, 環境省: -

選定理由 1970~80年代に既に希少な植物だった。福岡市で1975年に, 北九州市で1982年に採集されて以後, 確認情報がない。ため池の改修などにより特に絶滅が危惧される。

危機要因 ため池改修

分布情報 北九州市小倉南区(上吉田), 福岡市東区(香椎), 宗像市(赤間), 須恵町(現状不明)

種の概要 ため池の周囲などの植生がまばらな湿地に生える小型の多年草

特記事項 特になし

カヤツリグサ科		ヌマハリイ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Eleocharis mamillata</i> H.Lindb. var. <i>cyclocarpa</i> Kitag.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー
選定理由	香春町では湿地埋立で消滅したが、朝倉市(旧甘木市)では流水中に 3m ² 位の群落が現存する。北方系の植物で、九州では産地は少ない。現存産地は流水中という不安定な環境であり、今後の開発行為によって減少あるいは絶滅する懸念がある。[1]		
危機要因	河川開発, 土地造成		
分布情報	香春町, 朝倉市(旧甘木市)		
種の概要	池や川の水中に群生する多年草		
特記事項	別名オオヌマハリイ		

カヤツリグサ科		ハラテンツキ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Fimbristylis pierottii</i> Miq.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	1978 年以後は 4 カ所とも再確認はされておらず、現状不明である。北九州市小倉南区では現存する可能性が高い。本県ではもともと自生地も個体数も少数である。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	糸島市(旧二丈町), 北九州市小倉南区, 古処山, 筑前町(旧夜須町)		
種の概要	草地に生える多年草		
特記事項	特になし		

カヤツリグサ科		クロタマガヤツリ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Fuirena ciliaris</i> (L.) Roxb.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー
選定理由	福岡市(東区, 城南区, 西区), 津屋崎町, 新宮町, 行橋市の 6 カ所が標本産地であるが、現存するのは行橋市の 1 カ所だけで、5 カ所では再確認はされておらず、現状不明である。現存自生地は減水した池底の湿地という不安定な生育環境で、水位が上昇すれば水没して消滅の懸念がある。[1]		
危機要因	その他(水位上昇)		
分布情報	行橋市		
種の概要	湿地に生じる一年草で、根茎はない。		
特記事項	特になし		

カヤツリグサ科		トラノハナヒゲ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Rhynchospora brownii</i> Roem. et Schult.	2001: 情報不足, 環境省: ー
選定理由	県内 4 カ所に標本記録があるが、1978 年に久留米市で採集されて以後、確認情報がない。久留米市の自生地では、遷移の進行によって湿地環境の消失が進んでおり、絶滅した可能性がある。		
危機要因	湿地開発, 遷移進行		
分布情報	犬鳴山, 福岡市東区, 南区, 久留米市(高良台)		
種の概要	主に沿海地の湿地に生える多年草		
特記事項	特になし		

カヤツリグサ科		イトイヌノハナヒゲ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Rhynchospora faberi</i> C.B.Clarke	2001: 情報不足, 環境省: ー
選定理由	下広川(1929 年), 中広川(1932 年)で標本が採集されているが、戦後の確認記録はない。広川町では湿地環境の消失が進んでおり、絶滅した可能性がある。		
危機要因	湿地開発, 遷移進行		
分布情報	広川町		
種の概要	湿地に生える小型の多年草		
特記事項	特になし		

ラン科		ヒナラン	絶滅危惧 IA 類
		<i>Amitostigma gracile</i> (Blume) Schltr.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 IB 類
選定理由	糸島市(旧前原市), 北九州市小倉北区, 添田町, 八女市(旧矢部村)の 4 カ所に標本産地が, 犬ヶ岳, 古処山の 2 カ所に記録産地があるが, 6 カ所とも再確認はされておらず, 現状不明である。かつては山地の岩上および溪流の転石上に自生していたが, 個体数は少数であった。園芸栽培用に採取されたのが消滅の原因の一つと推定される。[1]		
危機要因	産地局限, 園芸採取		
分布情報	糸島市(旧前原市), 北九州市小倉北区, 添田町, 八女市(旧矢部村), 犬ヶ岳, 古処山		
種の概要	岩上に着生する多年草		
特記事項	特になし		
ラン科		ナツエビネ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Calanthe puberula</i> Lindl. var. <i>reflexa</i> (Maxim.) Hiroe	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	福智山地では 3 カ所で生育が確認されているが, 個体数はごく少ない。1970 年代後半のエビネブームの頃に乱獲されたためである。古処山, 若杉山, 三国山(八女市(旧矢部村))で生育の記録があるが現状は不明[1]。ダム等の環境調査で発見されても消失することがあり, 乱獲対策が必要。		
危機要因	園芸採取, 乱獲, 産地局限		
分布情報	北九州市小倉南区, 直方市, 福智町(旧赤池町), みやこ町, 朝倉市		
種の概要	湿り気のある林内に生える多年草。花期は 8 月。		
特記事項	北九州, 耶馬日田英彦山国定公園, 筑後川県立自然公園指定植物		
ラン科		キエビネ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Calanthe striata</i> R.Br.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 IB 類
選定理由	かつては県内に広く分布していた植物であるが, 1970 年代後半のエビネブームでエビネとともに乱獲され, 絶滅状態になっていた。しかし, 徐々に復活しており, 開花株も見られるようになった。[1]		
危機要因	園芸採取, 乱獲		
分布情報	北九州市若松区, 直方市, 福智町(旧赤池町), 飯塚市(旧筑穂町), みやこ町		
種の概要	自然林に限らず, スギ, ヒノキの造林内にも生育している多年草		
特記事項	玄海, 北九州, 耶馬日田英彦山国定公園, 筑後川県立自然公園指定植物		
ラン科		サルメンエビネ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Calanthe tricarinata</i> Lindl.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	1970 年代後半のエビネブームの頃にほとんど採りつくされ, 絶滅に近い状態である。『福岡県植物誌』(1975)には香春岳・御前岳などが記録されているが, 香春岳では絶滅, 御前岳は未確認である。[1]		
危機要因	園芸採取, 乱獲		
分布情報	豊前市, 添田町		
種の概要	英彦山地の夏緑樹林下に生える多年草		
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園, 矢部川県立自然公園指定植物		
ラン科		クゲヌマラン	絶滅危惧 IA 類
		<i>Cephalanthera erecta</i> (Thunb.) Blume var. <i>shizuoi</i> (F.Maek.) Ohwi	2001: 一, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	最近, 北九州市で発見された。自生地が限られ, 個体数は 50 未満である。		
危機要因	産地局限		
分布情報	北九州市		
種の概要	常緑広葉樹二次林の林床に生育する多年草		
特記事項	特になし		

ラン科	ユウシュンラン	絶滅危惧 IA 類
<i>Cephalanthera erecta</i> (Thunb.) Blume var. <i>subaphylla</i> (Miyabe et Kudô) Ohwi		2001: 一, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	最近, 北九州市で発見された。自生地が限られ, 個体数は 50 未満である。	
危機要因	産地局限	
分布情報	北九州市	
種の概要	常緑広葉樹二次林に生育する多年草	
特記事項	特になし	

ラン科	トケンラン	絶滅危惧 IA 類
<i>Cremastra unguiculata</i> (Finet) Finet		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	1990 年代になって豊前市で 3 株発見されたが, 発見者によれば, 開花株は採取されてしまい, 幼株が 1 株残っているだけという。その幼株も生長して開花すれば, 園芸用に採取される懸念がある。豊前市が本県では初記録である。[1]	
危機要因	園芸採取	
分布情報	豊前市	
種の概要	温帯林の林内に生える多年草	
特記事項	特になし	

ラン科	カンラン	絶滅危惧 IA 類
<i>Cymbidium kanran</i> Makino		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 IA 類
選定理由	三郡山地にごく稀。福智山地や八女郡の山地など数カ所の産地があるといわれるが現在の状況は不明。昔から観賞価値の高いランとして有名。発見されればどんなに小さくても採取されてしまうので, 山で開花株を見ることはまじない。[1]	
危機要因	園芸採取, 産地局限	
分布情報	飯塚市(旧筑穂町)	
種の概要	暖温帯林の林内に生える多年草	
特記事項	北九州国定公園指定植物	

ラン科	マヤラン	絶滅危惧 IA 類
<i>Cymbidium macrorhizon</i> Lindl.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	北九州地区と古処山系の数カ所に生育記録があるだけで極めて稀な植物である。近年では, 北九州地区で極めて少数の個体が確認されているだけである[1]。九州大学伊都キャンパスでも発見されたが数年で消失した。	
危機要因	産地局限	
分布情報	北九州市小倉南区, 福岡市西区	
種の概要	常緑広葉樹林の林床に生育する腐生の多年草	
特記事項	玄海国定公園, 筑後川県立自然公園指定植物	

ラン科	ナギラン	絶滅危惧 IA 類
<i>Cymbidium nagifolium</i> Masam.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	糸島市(旧前原市)では広範囲に 100 株程度現存するが, 開花株は 20 分の 1 以下であり, 糸島市(旧二丈町)の現存個体は 7 株である[1]。糸島市(旧前原市)では道路開発のために生育地の一部が失われ, 移植による保全対策が実施された。福岡市西区では, イノシシの掘り返しにより減少した。残された数個体は, 柵で保護されている。	
危機要因	道路工事	
分布情報	糸島市(旧前原市, 旧二丈町), 福岡市西区	
種の概要	林下に生える常緑性草本	
特記事項	玄海国定公園指定植物	

ラン科	クマガイソウ	絶滅危惧 IA 類
<i>Cypripedium japonicum</i> Thunb.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)には、産地として犬ヶ岳、戸上山、帆柱山、宝満山、杷木町松末が記録されているが、いずれの場所においても現存情報は無い[1]。みやこ町の林内で確認されているが植栽の可能性もある。	
危機要因	園芸採取、乱獲	
分布情報	みやこ町	
種の概要	山地の日陰に生える多年草	
特記事項	特になし	

ラン科	オニノヤガラ	絶滅危惧 IA 類
<i>Gastrodia elata</i> Blume		2001: 情報不足, 環境省: 一
選定理由	『福岡県植物目録』(1952), 『福岡県植物誌』(1975)では英彦山が記録されているが、その後の確認情報がない。	
危機要因	産地局限	
分布情報	英彦山	
種の概要	温帯林内に生える腐生の多年草	
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物	

ラン科	クロヤツシロラン	絶滅危惧 IA 類
<i>Gastrodia pubilabiata</i> Sawa		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 一
選定理由	これまでに数カ所で生育が確認されているだけの極めて稀な植物である。100 個体以上が現存している生育地があるが、他生育地での個体数は極めて少ない。[1]	
危機要因	産地局限	
分布情報	北九州市小倉南区、みやこ町	
種の概要	スギやヒノキの落枝、タケ類の落葉や切り株などに腐生するとされている。	
特記事項	特になし	

ラン科	ベニシュスラン	絶滅危惧 IA 類
<i>Goodyera biflora</i> (Lindl.) Hook.f.		2001: 一, 環境省: 一
選定理由	最近、北九州市で発見された。自生地・個体数が限られている。	
危機要因	産地局限	
分布情報	北九州市	
種の概要	常緑広葉樹林の林床に生育する多年草	
特記事項	筑後川県立自然公園指定植物	

ラン科	ツリシュスラン	絶滅危惧 IA 類
<i>Goodyera pendula</i> Maxim.		2001: 情報不足, 環境省: 一
選定理由	『福岡県植物誌』(1975)では犬ヶ岳(1972年)・英彦山が記録されされているが、その後の確認情報がない。	
危機要因	産地局限	
分布情報	犬ヶ岳・英彦山	
種の概要	温帯林の樹幹に着生する多年草	
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物	

ラン科	ダイサギソウ	絶滅危惧 IA 類
<i>Habenaria dentata</i> (Sw.) Schltr.		2001: 絶滅, 環境省: 絶滅危惧 IB 類
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)には英彦山と犬鳴山が記録されている。これらの自生地ではその後確認されなかったため、2001年には絶滅と判定された。[1] しかし最近、平尾台で発見された。生育地・個体数は限られている。	
危機要因	産地局限	
分布情報	北九州市(平尾台), 添田町(英彦山), 犬鳴山	
種の概要	林縁や草原に生える多年草	
特記事項	特になし	
ラン科	ムカゴトンボ	絶滅危惧 IA 類
<i>Habenaria flagellifera</i> Makino		2001: 情報不足, 環境省: 絶滅危惧 IB 類
選定理由	香春岳・宝満山で記録されているが、1970年代以後確認されていない。	
危機要因	産地局限	
分布情報	香春岳, 宝満山	
種の概要	明るい湿地に生育する多年草	
特記事項	特になし	
ラン科	ミストンボ	絶滅危惧 IA 類
<i>Habenaria sagittifera</i> Rehb.f.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	1950年代には普通に生育していたが、1970年代中頃には稀な植物となっていたようである。近年も生育が確認されている地点は、数カ所にすぎない。1 生育地を除くと、各地の現存個体数は極めて少ない。園芸用の乱獲に加え、開発や遷移の進行による平野部の湿地の消滅が、個体数減少の主要因である。[1]	
危機要因	園芸採取, 乱獲, 遷移進行, 土地造成	
分布情報	苜田町	
種の概要	日当たりの良い湿地や表水のある泥湿地に生育する多年草	
特記事項	北九州, 耶馬日田英彦山国定公園指定植物	
ラン科	ホクリクムヨウラン	絶滅危惧 IA 類
<i>Lecanorchis hokurikuensis</i> Masam.		2001: 情報不足, 環境省: -
選定理由	北九州市で2003年に報告がある。情報は少ないが、ほかのムヨウラン類と同じカテゴリーとする。	
危機要因	土地開発, 産地局限	
分布情報	北九州市	
種の概要	遷移段階の進んだ常緑広葉樹林の林床に生育する多年生の腐生植物	
特記事項	特になし	
ラン科	ムヨウラン	絶滅危惧 IA 類
<i>Lecanorchis japonica</i> Blume		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -
選定理由	もともと自生地も個体数も限られていた。生育地は低地、丘陵地の常緑広葉樹林であるため、森林伐採・土地開発により、減少した。糸島市(旧前原市)では道路工事・土地開発で一部の自生地が消滅し、残る自生地では、現状不明である。	
危機要因	土地開発, 産地局限	
分布情報	糸島市(旧前原市), 苜田町, みやこ町(旧犀川町)(現状不明), 福岡市西区	
種の概要	遷移段階の進んだ常緑広葉樹林の林床に生育する多年生の腐生植物	
特記事項	特になし	

ラン科	ウスギムヨウラン	絶滅危惧 IA 類
<i>Lecanorchis kiustiana</i> Tuyama		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	みやこ町(旧犀川町)に唯一の標本産地があるが、その後の生育は確認されていない[1]。2009 年に、福智山系で生育が確認された。	
危機要因	土地開発, 産地局限	
分布情報	みやこ町(旧犀川町), 福智山系	
種の概要	遷移段階の進んだ常緑広葉樹林の林床に生育する多年生の腐生植物	
特記事項	玄海国定公園指定植物	

ラン科	クロムヨウラン	絶滅危惧 IA 類
<i>Lecanorchis nigricans</i> Honda		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 一
選定理由	福岡市南区, 大野城市の 2 カ所に標本産地があるが、福岡市南区の自生地は都市開発で消滅しており、大野城市はその後再確認されておらず、現状不明である。[1]	
危機要因	土地開発, 産地局限	
分布情報	福岡市南区, 大野城市	
種の概要	遷移段階の進んだ常緑広葉樹林の林床に生育する多年生の腐生植物	
特記事項	玄海国定公園指定植物	

ラン科	ムラサキムヨウラン	絶滅危惧 IA 類
<i>Lecanorchis purpurea</i> Masam.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 情報不足
選定理由	苅田町に唯一の標本産地があるが、その後は現存の再確認はされておらず、現状不明である。該当標本は 1976 年 6 月の花期に採集されて、本種の命名記載者が同定したもので、信頼性が高い。[1]	
危機要因	土地開発, 産地局限	
分布情報	苅田町	
種の概要	遷移段階の進んだ常緑広葉樹林の林床に生育する多年生の腐生植物	
特記事項	玄海国定公園指定植物	

ラン科	ギボウシラン	絶滅危惧 IA 類
<i>Liparis auriculata</i> Blume ex Miq.		2001: 情報不足, 環境省: 絶滅危惧 IB 類
選定理由	英彦山で 1924 年に田代善太郎により記録されているが、最近では確認されていない。	
危機要因	産地局限	
分布情報	英彦山	
種の概要	温帯林内に生える多年草	
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物	

ラン科	フガクススムシノウ	絶滅危惧 IA 類
<i>Liparis fujisanensis</i> F.Maek. ex F.Konta et S.Matsumoto		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	1991 年の台風 19 号により、県内のブナが多く倒れたり枯れたりしているため、本種は激減したと見られる。[1]	
危機要因	自然災害	
分布情報	添田町	
種の概要	英彦山地のブナやコハウチワカエデなどの樹上に着生する多年草	
特記事項	特になし	

ラン科	ササハラン	絶滅危惧 IA 類
<i>Liparis odorata</i> (Willd.) Lindl.		2001: 情報不足, 環境省: 絶滅危惧 IB 類
選定理由	最近, 北九州市で確認された。自生地・個体数が限られている。	
危機要因	産地局限	
分布情報	北九州市	
種の概要	温帯林内に生える多年草	
特記事項	特になし	

ラン科	クモイジガハチ	絶滅危惧 IA 類
<i>Liparis truncata</i> F.Maek. ex T.Hashim.		2001: 一, 環境省: 絶滅危惧 IA 類
選定理由	これまで県内に分布記録はなかったが, 近年, 県内の冷温帯林で生育が確認された。	
危機要因	産地局限	
分布情報	県内(詳細分布情報不詳)	
種の概要	樹幹等に着生する多年草。同属のクモキリソウは, 地面に生育する。	
特記事項	特になし	

ラン科	ヒメフタバラン	絶滅危惧 IA 類
<i>Listera japonica</i> Blume		2001: 情報不足, 環境省: 一
選定理由	若杉山・水無で記録されているが, 最近では確認されていない。	
危機要因	産地局限	
分布情報	若杉山, 糸島市(水無)	
種の概要	温帯林内に生える多年草	
特記事項	特になし	

ラン科	アオフタバラン	絶滅危惧 IA 類
<i>Listera makinoana</i> Ohwi		2001: 情報不足, 環境省: 一
選定理由	犬ヶ岳・英彦山・三国山で記録されているが, 最近では確認されていない。	
危機要因	産地局限	
分布情報	犬ヶ岳・英彦山・三国山	
種の概要	温帯林内に生える多年草	
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物	

ラン科	フウラン	絶滅危惧 IA 類
<i>Neofinetia falcata</i> (Thunb.) Hu		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	県内では低地から丘陵地の社寺林内などに稀に自生している。沖ノ島では高木林内の樹幹に着生しており, 県内の自生地としては例外的に個体数が多い。しかし, 本土側の自生地では, 園芸用に乱獲されるため, ほとんど消滅した自生地もある。[1]	
危機要因	園芸採取	
分布情報	低地から丘陵地の社寺林内, 沖ノ島	
種の概要	照葉樹林の樹幹や岩上に着生する常緑の多年草	
特記事項	玄海, 耶馬日田英彦山国定公園指定植物	

ラン科	ヨウラクラン	絶滅危惧 IA 類
<i>Oberonia japonica</i> (Maxim.) Makino		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -
選定理由	耳納山地の自生地では、林内の高木樹幹に着生している。花茎が多数見られ、生育状況はほぼ良好であるが、個体数が少なく、絶滅する危険性がある。[1]	
危機要因	産地局限	
分布情報	耳納山地	
種の概要	樹幹や岩上に着生する常緑の多年草	
特記事項	筑後川県立自然公園指定植物	

ラン科	ハツシマラン	絶滅危惧 IA 類
<i>Odontochilus hatusimanus</i> Ohwi et T.Koyama		2001: 絶滅, 環境省: 絶滅危惧 IA 類
選定理由	長らく記録がなかったが 2004 年以降複数の場所で発見されている。しかし、生育地は限られており、個体数は少ない。	
危機要因	産地局限	
分布情報	北九州市, 福岡市	
種の概要	常緑広葉樹林内に生える多年草	
特記事項	特になし	

ラン科	サギソウ	絶滅危惧 IA 類
<i>Pecteilis radiata</i> (Thunb.) Raf.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	1950 年代には普通に生育していたが、1970 年代中頃には稀な植物となっていたようである。近年では、生育地が数カ所しか現存しておらず、1 生育地を除くと現存個体数も極めて少ない。開発や遷移の進行による平野部の湿地の消滅に加え、園芸用の乱獲によって、個体数が減少した。[1]	
危機要因	園芸採取, 乱獲, 遷移進行	
分布情報	嘉麻市(旧嘉穂町), 苅田町, 行橋市	
種の概要	ミズゴケ類を伴う貧栄養の湿地に生える多年草	
特記事項	北九州, 耶馬日田英彦山国定公園指定植物	

ラン科	イヌマムカゴ	絶滅危惧 IA 類
<i>Platanthera inumae</i> (Makino) Makino		2001: 情報不足, 環境省: 絶滅危惧 IB 類
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)では 4 カ所の自生地が記録されているが、その後の確認情報がない。	
危機要因	産地局限	
分布情報	犬ヶ岳, 英彦山, 若杉山, 脊振山	
種の概要	スギ林, マツ林などの林内に生える多年草	
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物	

ラン科	ツレサギソウ	絶滅危惧 IA 類
<i>Platanthera japonica</i> (Thunb.) Lindl.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -
選定理由	県内の分布が限られている上、個体数が少ない。山焼きにより生育環境が保たれている。[1]	
危機要因	産地局限	
分布情報	北九州市小倉南区	
種の概要	日当たりの良いやや乾燥ぎみから適湿の草地に生える多年草	
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物	

ラン科		ハシナガヤマサギソウ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Platanthera mandarinorum</i> Rehb.f. subsp. <i>mandarinorum</i> var. <i>mandarinorum</i>	2001: 一, 環境省: 一
選定理由	県内の分布が限られている上、個体数が少ない。山焼きにより生育環境が保たれている。		
危機要因	産地局限		
分布情報	北九州市小倉南区		
種の概要	日当たりの良い適湿の草地に生える多年草		
特記事項	玄海国立公園指定植物		

ラン科		マイサギソウ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Platanthera mandarinorum</i> Rehb.f. subsp. <i>mandarinorum</i> var. <i>neglecta</i> (Schltr.) F.Maek. ex K.Inoue	2001: 一, 環境省: 一
選定理由	最近、北九州市で発見された。自生地・個体数が限られている。		
危機要因	産地局限		
分布情報	北九州市		
種の概要	日当たりの良い湿地に生える多年草		
特記事項	北九州国立公園指定植物		

ラン科		ヤマサギソウ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Platanthera mandarinorum</i> Rehb.f. subsp. <i>mandarinorum</i> var. <i>oreades</i> (Franch. et Sav.) Koidz.	2001: 情報不足, 環境省: 一
選定理由	平尾台が県内唯一の産地である。生育地・個体数が限られている。		
危機要因	産地局限		
分布情報	北九州市小倉南区(平尾台)		
種の概要	日当たりの良い適湿の草地に生える多年草		
特記事項	特になし		

ラン科		コハトシボソウ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Platanthera tipuloides</i> (L.f.) Lindl. subsp. <i>nipponica</i> (Makino) Murata	2001: 情報不足, 環境省: 一
選定理由	県内 4 カ所で記録されているが、現存が確認されているのは平尾台だけである。平尾台以外では、湿地の開発により自生地が失われたと考えられる。		
危機要因	産地局限		
分布情報	北九州市小倉南区, 苅田町(平尾台), 福岡市早良区, 西区(叶岳), 久留米市(湯納楚)		
種の概要	日当たりの良い湿地に生える多年草		
特記事項	特になし		

ラン科		トキソウ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Pogonia japonica</i> Rehb.f.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	かつてより生育地の少ない植物である。近年では、県東部に少数の生育地が現存している程度となった。1 生育地を除くと、現存個体数も極めて少ない。乱獲に加え、開発や遷移の進行による平野部の湿地の消滅が、主要な個体数減少の要因である。[1]		
危機要因	乱獲, 遷移進行, 産地局限		
分布情報	苅田町, 北九州市小倉南区		
種の概要	日当たりの良い湿地に生える多年草		
特記事項	北九州国立公園指定植物		

ラン科	ヤマトキソウ	絶滅危惧 IA 類
<i>Pogonia minor</i> (Makino) Makino		2001: 情報不足, 環境省: ー
選定理由	県内 5 地点で記録されているが, 現存するのは 1 地点だけである。山間部の小湿地の消失とともに減少した。	
危機要因	遷移進行	
分布情報	北九州市, 福智山(現状不明), 福岡市(野間, 絶滅), 二丈町浮岳(現状不明), 八女市飛形山(現状不明)	
種の概要	日当たりの良い適湿の草地や山間部の小湿地に生える多年草	
特記事項	北九州国定公園指定植物	

ラン科	ウチオウラン	絶滅危惧 IA 類
<i>Ponerorchis graminifolia</i> Rchb.f.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	かつては多く生育していたと言われているが, ランブームにより採りつくされた状態にある。その上, 1991 年の台風で岩場の表土が剥がれ落ちたために追いうちをかけることになった。ブナに着生することもある。[1]	
危機要因	園芸採取, 自然災害	
分布情報	添田町	
種の概要	岩場や樹幹に着生する小型の多年草	
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物	

ラン科	ヒツボクロ	絶滅危惧 IA 類
<i>Tipularia japonica</i> Matsum.		2001: 情報不足, 環境省: ー
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)では 4 カ所の自生地が記録されているが, その後の確認情報がない。	
危機要因	産地局限	
分布情報	求菩提山, 英彦山, 室満山, 成竹山	
種の概要	スギ林, マツ林などの林内に生える多年草	
特記事項	特になし	

マツバラ科	マツバラ	絶滅危惧 IB 類
<i>Psilotum nudum</i> (L.) P.Beauv.		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	県内では県東部および南部に 7 カ所の自生地があるだけである。個体数は少なく, 自生地数は減少傾向にある [1]。	
危機要因	産地局限	
分布情報	豊前市, 上毛町(旧大平村), 八女市(旧黒木町), 那珂川町	
種の概要	常緑広葉樹林内に生える多年草。福岡県の自生地では, 多くの場合, 岩に着生する。	
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物	

ヒカゲノカズラ科	ヒモヅル	絶滅危惧 IB 類
<i>Lycopodium casuarinoides</i> Spring		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	自生地は行橋市の 1 地点に限定されている。疎林内の斜面に約 300 株が群生している。2001 年時点に比べ, とくに減少してはいない。	
危機要因	産地局限	
分布情報	行橋市	
種の概要	つる性の多年草	
特記事項	特になし	

ホングウシダ科		エダウチホングウシダ	絶滅危惧 IB 類
<i>Lindsaea chienii</i> Ching		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: ー	
選定理由	6カ所に知られていた産地のうち、現存が確認されているのは那珂川町だけである。[1]		
危機要因	産地局限, 水路改修		
分布情報	那珂川町		
種の概要	常緑林内の湿った斜面に生える小型の多年草		
特記事項	筑後川県立自然公園指定植物		
ホングウシダ科		サイコクホングウシダ	絶滅危惧 IB 類
<i>Lindsaea japonica</i> (Baker) Diels		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: ー	
選定理由	県内で8カ所の自生地が知られていたが、現存が確認されているのは3カ所だけである。[1]		
危機要因	河川開発, 水路改修		
分布情報	八女市(旧星野村), 那珂川町		
種の概要	溪流沿いの岩上に生える小型の多年草		
特記事項	特になし		
ハウライシダ科		ミスワラビ	絶滅危惧 IB 類
<i>Ceratopteris thalictroides</i> (L.) Brongn.		2001: ー, 環境省: ー	
選定理由	かつては県内各地の水田・畦・用水路・休耕田に見られたが、最近ではほとんど確認記録がない。		
危機要因	農業使用, 水路改修		
分布情報	豊前市, 北九州市, 鞍手町, 筑紫野市, 小郡市, 筑前町(旧夜須町), 筑後市, 八女市, 春日市, 筑後市, 糸島市(旧前原市), 福岡市, 宗像市		
種の概要	水辺や水中に生える小型の一年草		
特記事項	特になし		
ハウライシダ科		ヒメウラジロ	絶滅危惧 IB 類
<i>Cheilanthes argentea</i> (S.G.Gmel.) Kunze		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類	
選定理由	県内10カ所の標本産地があるが、2001年までに3カ所は道路の改修工事で消滅した[1]。他の自生地も現状不明だが、現存している可能性がある。		
危機要因	道路工事		
分布情報	宮若市(旧若宮町), 久留米市, 八女市(旧黒木町, 旧星野村), 苅田町, 豊前市, 大平村		
種の概要	小型の多年草。県内では石垣に生える。		
特記事項	特になし		
チャセンダ科		カミガモシダ	絶滅危惧 IB 類
<i>Asplenium oligophlebium</i> Baker		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: ー	
選定理由	県内2カ所に自生地が局限され、現存する個体数(成熟個体)は50未満である。		
危機要因	園芸採取, 産地局限		
分布情報	那珂川町, 久留米市		
種の概要	常緑林やスギ植林の林床に生える多年草。溪流付近の湿った岩上を好む。		
特記事項	筑後川県立自然公園指定植物		

チャセンシダ科		ヒノキシダ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Asplenium prolongatum</i> Hook.	2001: 絶滅危惧 II 類, 環境省: ー
選定理由	産地が局限され, 減少傾向にある。総個体数は 250 未満と推定される。県内の産地のうち, 2 カ所は砂防ダムで消滅し, 他の自生地についても現状は不明である。開発によって減少傾向にあり, 個体数の多い自生地は既に消失した[1]。		
危機要因	河川開発		
分布情報	糸島市, 那珂川町, 久山町, 篠栗町, 宮若市, 嘉麻市, 田川市, 添田町, 朝倉市, 八女市		
種の概要	溪流沿いの岩上や崖地に生える多年草		
特記事項	特になし		

チャセンシダ科		イチヨウシダ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Asplenium ruta-muraria</i> L.	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: ー
選定理由	県内では 2 地点の石灰岩地に生育が局限され, 個体数は 250 未満と推定される。香春岳の一ノ岳では石灰岩の採石が行われており, 絶滅の可能性が大きい。		
危機要因	石灰採掘		
分布情報	香春町, 田川市		
種の概要	石灰岩上に生える小型の多年草		
特記事項	特になし		

シシガシラ科		オサシダ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Blechnum amabile</i> Makino	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: ー
選定理由	県内では, 犬ヶ岳, 英彦山, 三国山にだけ生育し, 個体数は 250 未満である。		
危機要因	産地局限		
分布情報	豊前市, 築上町, 添田町, 八女市(旧矢部村)		
種の概要	岩上に着生する多年草		
特記事項	特になし		

オシダ科		オトコシダ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Arachniodes yoshinagae</i> (Makino) Ching	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: ー
選定理由	県内 13 カ所の標本産地がある[1]が, いずれの生息地でも個体数は少なく, 総計 250 個体未満と推定される。砂防ダムの建設などにより減少している。		
危機要因	河川開発		
分布情報	福岡市早良区, 那珂川町, 宮若市(旧宮田町), 添田町, 久留米市		
種の概要	常緑林内に生える多年草		
特記事項	特になし		

オシダ科		ホオノカワシダ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Nothoperanema shikokiana</i> (Makino) Ching	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: ー
選定理由	2001 年に確認されていた福岡市, 飯塚市(旧筑穂町)に加え, 今回の調査で糸島市において新たな生育地が確認された。産地が局限されており, 個体数は総計 100 未満である。林道工事により生育地の一部が消失している。		
危機要因	産地局限, 道路工事		
分布情報	福岡市, 糸島市, 飯塚市(旧筑穂町)		
種の概要	常緑林内溪流沿いの湿った岩上に生える多年草		
特記事項	特になし		

オシダ科		タチデンド	絶滅危惧 IB 類
<i>Polystichum deltodon</i> (Baker) Diels		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 一	
選定理由	生育地が局限されており, 個体数は250未満である。塔ヶ峰, 平尾台などの石灰岩地の数カ所に生育している。香春岳では最近確認されていない。		
危機要因	産地局限		
分布情報	香春町(現状不明), 北九州市, 荻田町		
種の概要	石灰岩の岩上に生える多年草		
特記事項	北九州国定公園, 筑豊県立自然公園指定植物		
ヒメシダ科		ホソバシヨリマ	絶滅危惧 IB 類
<i>Thelypteris beddomei</i> (Baker) Ching		2001: 情報不足, 環境省: 一	
選定理由	生育地が局限されており, 減少傾向にある。総個体数は 250 未満と考えられる。糸島市長野峠の生育地では, 高茎草本や灌木が繁殖し, 個体数は激減した。一方で, 同じ糸島市内に新たな生育地が確認された。		
危機要因	産地局限, 植生変化		
分布情報	田川郡(現状不明), 糸島市		
種の概要	林道脇などの攪乱された場所に生育する多年草		
特記事項	特になし		
ヒメシダ科		テツホシダ	絶滅危惧 IB 類
<i>Thelypteris interrupta</i> (Willd.) K.Iwats.		2001: 情報不足, 環境省: 一	
選定理由	生育地が限定され, 減少が著しい。県内 10 カ所で標本が採集されているが, 最近では確認されていない。福岡市の 5 地点, 新宮町の 1 地点では消失したと考えられる。		
危機要因	湿地開発		
分布情報	築上町(旧椎田町), 北九州市, 飯塚市(旧穂波町), 筑紫野市(以上現状不明), 新宮町, 福岡市(消失)		
種の概要	湿地に生える多年草		
特記事項	玄海国定公園指定植物		
ウラボシ科		オオイワヒトデ	絶滅危惧 IB 類
<i>Colysis decurrens</i> (Wall. ex Hook. et Grev.) Nakaike		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 一	
選定理由	生育地が 1 カ所に局限されている。生育地では群生が見られるが, 発見された 1973 年当時と 2001 年の間に 2 分の 1 程度に減少した[1]。		
危機要因	植生変化, その他(モウソウチクの繁茂による乾燥化)		
分布情報	糸島市		
種の概要	溪流沿いの湿った場所に生える多年草		
特記事項	北限自生地		
ウラボシ科		オシャグジデンド	絶滅危惧 IB 類
<i>Polypodium fauriei</i> H.Christ		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 一	
選定理由	生育地が局限され, 個体数も少ない。犬ヶ岳, 英彦山, 御前岳の夏緑樹林帯の標高 820m 以上に分布し, 樹木に着生している[1]。		
危機要因	産地局限		
分布情報	豊前市, 添田町, 八女市(旧矢部村)		
種の概要	樹木や岩に着生する多年草		
特記事項	特になし		

ヤナギ科	カワヤナギ	絶滅危惧 IB 類
<i>Salix miyabeana</i> Seemen subsp. <i>gymnolepis</i> (H.Lév. et Vaniot) H. Ohashi et Yonek.		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: -
選定理由	ため池の水湿地にネコヤナギやオオタチヤナギに混じって生育する。ため池の改修工事, 埋立造成により減少している。[1]	
危機要因	湖沼開発	
分布情報	北九州市小倉南区	
種の概要	湿地に生える落葉樹。雌雄異株	
特記事項	特になし	

カバノキ科	ハンノキ	絶滅危惧 IB 類
<i>Alnus japonica</i> (Thunb.) Steud.		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: -
選定理由	個体数が少ない自生地が多い。開発行為のため消滅した場所もある。[1]	
危機要因	湿地開発	
分布情報	福岡市博多区, 早良区, 西区, 北九州市, 大野城市	
種の概要	湿地に生える落葉高木	
特記事項	特になし	

ブナ科	イヌブナ	絶滅危惧 IB 類
<i>Fagus japonica</i> Maxim.		2001: 情報不足, 環境省: -
選定理由	英彦山系の一部に自生が確認されているが, 分布は限られている。	
危機要因	産地局限	
分布情報	豊前市, みやこ町	
種の概要	温帯林に生える落葉高木	
特記事項	特になし	

ブナ科	カシワ	絶滅危惧 IB 類
<i>Quercus dentata</i> Thunb.		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: -
選定理由	落葉高木。県内では福津市(旧津屋崎町)渡半島付近が唯一の自生地である。生育地は海岸に近い二次林の林内や林縁で, 個体数は比較的多いが, 森林伐採などにより減少傾向にある。この地域には, 本種とナラカシワとの雑種と推定されるホンバカシワも出現する。[1]	
危機要因	産地局限	
分布情報	福津市, 宗像市	
種の概要	海岸林に生える落葉高木	
特記事項	特になし	

イラクサ科	ゲンカイヤブマオ	絶滅危惧 IB 類
<i>Boehmeria nakashimae</i> Yahara		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: -
選定理由	生育地の開発などで消滅している。生育環境は島や沿海地の川, 用水路の岸上, 海岸のブロック石垣, 車道沿いの石垣, 常緑林縁などで, 除草されやすく, 用水路の改修で全滅した所もある。[1]	
危機要因	海岸開発, 草地開発	
分布情報	福岡市(東区, 西区), 宗像市(旧大島村), 新宮町, 北九州市門司区に 14 カ所の標本産地がある	
種の概要	ナガバヤブマオとニオウヤブマオの雑種起源と考えられる 3 倍体無融合生殖種	
特記事項	特になし	

イラクサ科

ミヤマイラクサ

絶滅危惧 IB 類

Laportea cuspidata (Wedd.) Friis

2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 一

選定理由	福智山地や貫山地の石灰岩地と三郡変成岩地に限って分布し、小群落を形成している。石灰岩地では石灰岩の採掘による生育地の減少が懸念される。[1]
危機要因	産地局限, 石灰採掘
分布情報	福智山地, 貫山地
種の概要	落葉広葉樹林内の湿った場所に生える多年草
特記事項	北九州国定公園指定植物

イラクサ科

コケミス

絶滅危惧 IB 類

Pilea peploides (Gaudich.) Hook. et Arn. var. *peploides*

2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 一

選定理由	沖ノ島と英彦山で確認されている。沖ノ島では一ノ岳西側稜線の照葉樹林縁の岩上(標高 210m)に群生している。[1]
危機要因	産地局限
分布情報	宗像市沖ノ島, 添田町英彦山
種の概要	山地の日陰の湿った所に生える一年草
特記事項	特になし

イラクサ科

コバノイラクサ

絶滅危惧 IB 類

Urtica laetevirens Maxim.

2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 一

選定理由	山地に生える多年草。県内では沖ノ島のみに見られる。ここが九州唯一の産地で、南限自生地である。沖ノ島では沖津宮から一ノ岳に登る山道の道端や旧軍用道路沿いに点々と生育している。[1]
危機要因	産地局限
分布情報	沖ノ島(九州唯一の産地)
種の概要	山地に生える多年草
特記事項	南限自生地

タデ科

サイコクヌカゴ

絶滅危惧 IB 類

Persicaria foliosa (H.Lindb.) Kitag. var. *nikaii* (Makino) H.Hara

2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類

選定理由	宗像市, 宮若市(旧若宮町), 八女市, みやま市(旧瀬高町), みやこ町(旧犀川町), 豊前市, 上毛町(旧大平村)に 9 カ所の標本産地があるが、現状不明である。生育環境は低地のため池の水辺や減少した池底の湿潤地である。本県では 1995 年に 1 カ所で 20 株ほど確認した以降は再確認はされていないが、現存する可能性が高い。[1]
危機要因	ため池改修, 河川開発
分布情報	宗像市, 宮若市(旧若宮町), 八女市, みやま市(旧瀬高町), みやこ町(旧犀川町), 豊前市, 上毛町(旧大平村)
種の概要	ため池の周囲, 河川敷などの湿地に生える一年草
特記事項	特になし

ナデシコ科

ゲンカイミミナグサ

絶滅危惧 IB 類

Cerastium fischerianum Ser. var. *molle* Ohwi

2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 準絶滅危惧

選定理由	福岡市東区, 西区, 新宮町に 5 カ所の現存自生地があるが、1~数株しか現存しない所が 3 カ所あり、310 株確認された所が 2 年後には 100 株に減少した例がある。生育地は海浜や海岸道路沿いの草地[1]。今回の調査では福岡市西区で 1 株のみ、新宮町の本土側海岸では確認できず、減少している可能性が高い。
危機要因	海岸開発
分布情報	福岡市東区, 西区, 新宮町
種の概要	海岸の明るい草地に生える多年草
特記事項	特になし

アカザ科 シチメンソウ 絶滅危惧 IB 類

Suaeda japonica Makino 2001: 絶滅, 環境省: 絶滅危惧 II 類

選定理由	1908 年, 北九州市小倉南区曾根で発見されて, 新種記載された植物である[1]。記録が途絶えていたが, 2010 年柳川市で自生地が再確認された。河川感潮域の州にヒロハツナと混生あるいは純群落状態で 2,000 株程度生育していた。
危機要因	河川開発, 海岸開発, 産地局限
分布情報	柳川市
種の概要	塩沼地に生育する一年草。秋に赤から紫色に紅葉する。
特記事項	特になし

アカザ科 ヒロハツナ 絶滅危惧 IB 類

Suaeda malacosperma H.Hara 2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類

選定理由	北九州市小倉南区, 大川市, 柳川市, 大牟田市, 荻田町に 7 カ所の標本産地があったが, 2001 年時点で確認されたのは大川市, 柳川市の 2 カ所だけで, 個体数は 100 株以内であった。[1] 2010 年柳川市で自生地が再確認された。河川感潮域の州にシチメンソウと混生して生育している。
危機要因	海岸開発, 河川開発
分布情報	大川市, 柳川市, 北九州市小倉南区(絶滅), 大牟田市(絶滅), 荻田町(絶滅)
種の概要	汽水域の泥土上に生育する一年草
特記事項	特になし

キンボウゲ科 オキナグサ 絶滅危惧 IB 類

Pulsatilla cernua (Thunb.) Bercht. et C.Presl 2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類

選定理由	自生地は県内に点々と見られるが, 園芸用の乱獲や草原の遷移のため, 個体数が減少している場所が多く, 消滅した場所もある。[1]
危機要因	園芸採取, 遷移進行
分布情報	北九州市小倉南区, 田川市, 糸島市
種の概要	日当たりの良い草原に生える多年草。二次草原や山地稜線草地などに生育する。
特記事項	玄海, 北九州国定公園指定植物

メギ科 ルイヨウボタン 絶滅危惧 IB 類

Caulophyllum robustum Maxim. 2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 一

選定理由	英彦山地と脊振山地の 3 カ所に生育地があるだけで, 分布が限られている。夏緑樹林およびスギ造林内に小群落を形成している。[1]
危機要因	産地局限
分布情報	豊前市, 添田町, 福岡市
種の概要	高さ約 60cm のやや大形の多年草
特記事項	特になし

メギ科 ハイカイカリソウ 絶滅危惧 IB 類

Epimedium diphyllum (C.Morren et Decne.) Lodd. 2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 一

選定理由	県内では石灰岩地の斜面や崖下, 山地稜線などに生育し, 場所によっては群生している。低地にも点々と自生地があったが, 宅地造成や道路建設などの開発行為や園芸用の採取のために消滅した場所もあり, 低地に残された自生地はわずかである。[1]
危機要因	草地開発, 園芸採取
分布情報	県内(詳細分布情報不詳)
種の概要	疎林内や草地に生える多年草
特記事項	特になし

スイレン科	オニバス	絶滅危惧 IB 類
<i>Euryale ferox</i> Salisb.		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	確実な記録および標本産地は 23 カ所であるが、県北部および南部に 13 カ所の現存産地があるのみで、10 カ所では絶滅および現状不明である。池の埋立、改修時の浚渫による種子包含層の排出および水位の上昇、汚水流入による水質汚濁などが、絶滅の原因である。今後も同じ原因で自生地が減少する懸念が大である。[1]	
危機要因	ため池改修	
分布情報	遠賀町, 飯塚市, 直方市(消失), 福岡市(消失), ほか詳細分布情報不詳	
種の概要	池に生える一年生の浮葉植物	
特記事項	市町村指定天然記念物 (遠賀町蟹喰池, 飯塚市城ノ腰ため池)	

スイレン科	オグラコウホネ	絶滅危惧 IB 類
<i>Nuphar oguraensis</i> Miki		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	福岡市東区, 南区, 八女市(旧星野村), 筑後市, 柳川市(旧三橋町)に 6 カ所の記録および標本産地があるが、4 カ所では絶滅しており、現存するのは八女市(旧星野村), 柳川市(旧三橋町)の 2 カ所である。生育環境は池や川で、4 カ所では池や川の改修工事で絶滅している[1]。今回の調査では八女市(旧星野村), みやま市で生育を確認。	
危機要因	湖沼開発, 河川開発	
分布情報	柳川市, 八女市, みやま市	
種の概要	ため池や淀んだ水路に生育する多年生の浮葉植物。ヒメコウホネと異なり、浮葉が長円形で葉柄が中空。	
特記事項	矢部川県立自然公園指定植物, 県天然記念物 (麻生池のオグラコウホネ自生地), 久山町指定天然記念物	

スイレン科	ヒメコウホネ	絶滅危惧 IB 類
<i>Nuphar subintegerrima</i> (Casp.) Makino		2001: 一, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	オグラコウホネに類似し、以前は明確に区別されてこなかった。飯塚市(旧庄内町)の菰池, 久山町の石黒池が生育地として天然記念物に指定されている。	
危機要因	湖沼開発	
分布情報	久山町, 飯塚市(旧庄内町)	
種の概要	池に生える多年生の浮葉植物。本種は円形の浮葉と中実の葉柄をもつ。コウホネと異なり通常は抽出葉を持たないが、コウホネとの自然交雑により分類が困難なものがある。	
特記事項	久山町指定天然記念物 (石黒池), 飯塚市指定天然記念物 (菰池)	

ポタン科	ヤマシャクヤク	絶滅危惧 IB 類
<i>Paeonia japonica</i> (Makino) Miyabe et Takeda		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	かつては群落を形成していたと言われるが、観賞用や薬用植物として採集されたために極度に減少した。最近やや増加していると思われる。[1]	
危機要因	観賞用捕獲, 薬用採取	
分布情報	北九州市小倉南区, 豊前市, 添田町, みやこ町(旧犀川町), 築上町(旧築城町)	
種の概要	英彦山地では夏緑樹林内に生育している。	
特記事項	北九州, 耶馬日田英彦山国定公園指定植物	

オトギリソウ科	アゼオトギリ	絶滅危惧 IB 類
<i>Hypericum oliganthum</i> Franch. et Sav.		2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 IB 類
選定理由	2001 年版の後、遠賀川河川敷で数百個体の生育地が報告された。採草地の堤防側の縁に沿って帯状に分布している。最近の数年間で目立った数の増減は見られないが、個体群の存続は河川の突発的氾濫と採草による競合種の排除に依存していると思われる。	
危機要因	河川開発, 外来種侵入 (メリケンムグラ), 管理放棄, 農業使用, 水路改修	
分布情報	直方市, 北九州市, 宗像市	
種の概要	田の畦や河川敷の草地に生育する多年草。夏～秋に黄色 5 弁の花が咲く。茎は叢生し、高さ 40cm ほど。	
特記事項	特になし	

オトギリソウ科		ツキヌキオトギリ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Hypericum sampsonii</i> Hance	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 絶滅危惧 IB 類
選定理由	個体数は非常に少ない。また、林縁部、スギ林、道路端、川岸などに出現し、生育環境も一定しない面がある。[1]		
危機要因	森林伐採、道路工事		
分布情報	福岡市、北九州市、宗像市、久留米市、大牟田市、福智町(旧赤池町、旧方城町)、福津市(旧福岡町)、みやま市(旧瀬高町)、上毛町(旧大平村)		
種の概要	山地の林縁・路傍に生える多年草。攪乱された場所に生え、自生地が安定しない。		
特記事項	北九州国定公園、矢部川県立自然公園指定植物		

ケシ科		ナガミノツルキケマン	絶滅危惧 IB 類
		<i>Corydalis raddeana</i> Regel	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	産地が少なく、二年草のために個体数も不安定。大群落が出現することもあるが、被陰や他種との競合で消滅しやすい。		
危機要因	遷移進行、産地局限		
分布情報	福岡市早良区、添田町、朝倉市(旧杷木町)、久留米市(旧田主丸町)、八女市(旧矢部村)		
種の概要	山間の溪流沿い、スギ林縁、水田畦などの肥沃適湿地に生育する二年草。秋に開花。		
特記事項	別名ナガミノツルケマン		

アブラナ科		シコクハタザオ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Arabis serrata</i> Franch. et Sav. var. <i>shikokiana</i> (Nakai) Ohwi	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 一
選定理由	落葉林内の急斜面や岩上および岩地に 100 株程度自生している。落葉林の伐採や急斜面の崩壊が懸念される。本県ではもともと自生地や個体数は少数であった。日本の固有種。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	糸島市(旧前原市)、八女市(旧星野村)		
種の概要	落葉林内の急斜面や岩上に生える多年草		
特記事項	特になし		

アブラナ科		イヌナズナ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Draba nemorosa</i> L.	2001: 情報不足, 環境省: 一
選定理由	『福岡県植物誌』(1975)には2カ所の自生地が報告されている。その後、古処山の路傍で生育が確認されている。		
危機要因	産地局限		
分布情報	福岡市、大牟田市、古処山		
種の概要	路傍・畑などに生える越年生の一年草		
特記事項	特になし		

ベンケイソウ科		ミツバベンケイソウ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Hylotelephium verticillatum</i> (L.) H. Ohba	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 一
選定理由	生育地が平尾台や香春岳のような石灰岩地に限られており、個体数も少ない。多くは日光のあまり当たらない樹下に生育している。石灰岩の採掘により減少することが懸念される。[1]		
危機要因	産地局限、石灰採掘		
分布情報	北九州市小倉南区(平尾台)、香春町(香春岳)		
種の概要	落葉林内の岩場に生える多年草		
特記事項	特になし		

ベンケイソウ科

ゲンカイワレンゲ

絶滅危惧IB類

Orostachys malacophylla (Pall.) Fisch. var. *malacophylla*

2001: 絶滅危惧IB類, 環境省: 絶滅危惧II類

選定理由	1 生育地では、乱獲により個体数が激減した後、栽培個体が植え戻された経緯がある。栽培個体の起源は不明であり、当該地では、個体数こそ多いが、本来の遺伝子組成や、遺伝的多様性は失われている可能性が高い。他生育地では、基岩の崩落の進行に伴い、個体数が減少している。[1]
危機要因	乱獲
分布情報	北九州市門司区
種の概要	海岸の岩礫地に生育する1回結実性の多年草
特記事項	玄海国定公園指定植物

ユキノシタ科

ギンバイソウ

絶滅危惧IB類

Deinanthem bifida Maxim.

2001: 絶滅危惧IA類, 環境省: ー

選定理由	既知の自生地は少ない[1]。そのうち、北九州の自生地では、開花個体数は250未満であるが、個体数は安定しており、自生地の環境が急変する可能性も低い。
危機要因	産地局限
分布情報	北九州市小倉南区、古処山系、糸島市
種の概要	県内では樹木の生育するドリーネの底の湿った場所や、山地の湿った崖沿いや河畔林に生育する多年草。
特記事項	筑後川県立自然公園指定植物

バラ科

ガフラスアイ

絶滅危惧IB類

Potentilla chinensis Ser.

2001: 絶滅危惧IB類, 環境省: ー

選定理由	福岡市西区、宗像市(旧玄海町)、岡垣町、行橋市に5カ所の標本産地があり、行橋市では海岸の開発で絶滅した[1]。福岡市西区では、前回調査時よりも個体数が減少しており、開花個体数は100未満である。
危機要因	海岸開発
分布情報	福岡市西区、宗像市(旧玄海町)、岡垣町、行橋市
種の概要	海岸のクロマツ林林縁の明るい砂地に生える多年草
特記事項	玄海国定公園指定植物(ヒロハカワラサイコ)

マメ科

シバハギ

絶滅危惧IB類

Desmodium heterocarpon (L.) DC.

2001: ー, 環境省: ー

選定理由	『福岡県植物目録』(1952)では「やや普通」、『福岡県植物誌』(1975)では「やや稀」とされているが、現在では稀な植物となっている。里山の草場が減少したことに伴い、減少した。今回の調査では自生地を確認できなかった。
危機要因	遷移進行
分布情報	県内(詳細分布情報不詳)
種の概要	草場に生える多年草
特記事項	特になし

マメ科

キハギ

絶滅危惧IB類

Lespedeza buergeri Miq.

2001: 情報不足, 環境省: ー

選定理由	『福岡県植物目録』(1952)では犬ヶ岳・英彦山・宝珠山、『福岡県植物誌』(1975)では香春岳・求菩提山・英彦山が記録されている。岩場に生育するが、個体数は少なく、遷移の進行により減少傾向にあると考えられる。
危機要因	産地局限
分布情報	香春岳、求菩提山、犬ヶ岳、英彦山、東峰村(旧宝珠山村)
種の概要	林縁や岩場に生える落葉低木
特記事項	特になし

マメ科	イヌハギ	絶滅危惧 IB 類
<i>Lespedeza tomentosa</i> (Thunb.) Siebold ex Maxim.		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	かつてより生育地の少ない植物で, 1950 年代初頭の文献にも稀な植物と記されている。1980 年代以降, 二次草原の敷カ所に, ごく少数の個体が生育しているだけとなった。[1]	
危機要因	遷移進行	
分布情報	北九州市小倉南区, 香春町	
種の概要	草原に生え, 高さ 150cm に達する多年草	
特記事項	特になし	

マメ科	マキエハギ	絶滅危惧 IB 類
<i>Lespedeza virgata</i> (Thunb.) DC.		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: ー
選定理由	1950 年代にもやや稀な植物とされているとおり, かつてより生育地数・個体数とも, 少ない植物である。近年は, 二次草原の敷カ所に少数の個体が生育しているだけである。[1]	
危機要因	遷移進行	
分布情報	県内(詳細分布情報不詳)	
種の概要	明るい草地に生える多年草	
特記事項	特になし	

トウダイグサ科	ノウルシ	絶滅危惧 IB 類
<i>Euphorbia adenochlora</i> C.Morren et Decne.		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	車道沿いの用水路の岸上斜面に現存する。車道の路肩にあるので, 除草やアスファルト化が懸念される。本県ではもともと産地が少数である。日本の固有種。[1]	
危機要因	産地局限	
分布情報	那珂川町(70 年近く確認されていない。), 遠賀町	
種の概要	川岸などの湿った草地に群生する多年草	
特記事項	特になし	

ミカン科	キハダ	絶滅危惧 IB 類
<i>Phellodendron amurense</i> Rupr.		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: ー
選定理由	県内では限られた地域に見られ, 釈迦岳山地の山麓域などで稀に自生しているが, 森林伐採により個体数は減少傾向にある。犬ヶ岳山地にも自生記録があり, 現存する可能性がある。[1]	
危機要因	産地局限	
分布情報	釈迦岳山地, 犬ヶ岳山地	
種の概要	山地に生える落葉高木	
特記事項	特になし	

アワブキ科	アオカズラ	絶滅危惧 IB 類
<i>Sabia japonica</i> Maxim.		2001: 情報不足, 環境省: 絶滅危惧 IB 類
選定理由	耳納山地稜線上の車道および九州自然歩道に近接した二次林と植林地で各 1 個体が確認されている。	
危機要因	産地局限, 森林伐採, 道路工事	
分布情報	久留米市	
種の概要	山地林内・林縁に生育する落葉性のツル性木本。新しい茎は緑色で無毛, 古い茎には葉柄が変化した鉄状のトゲがある。	
特記事項	特になし	

ツリフネソウ科		エンシュウツリフネソウ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Impatiens hypophylla</i> Makino var. <i>microhypophylla</i> (Nakai) H.Hara	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	県内では釈迦岳山地の標高約 700~900m のやや湿った林道道端や林縁で見られる[1]。2010 年の調査では、個体数の顕著な減少は見られなかった。		
危機要因	森林伐採, 道路工事		
分布情報	八女市(旧矢部村)		
種の概要	ハガクレツリフネの変種で, 花がより小さく, 花冠に斑点がほとんどない点で判別される。		
特記事項	特になし		
モチノキ科		フウリンウメモドキ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Ilex geniculata</i> Maxim.	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 一
選定理由	英彦山地や釈迦岳山地などのブナやシオジなどの林下に生育しているが, 個体数は非常に少ない。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	添田町, 八女市(旧矢部村)		
種の概要	高さ 2~3m の落葉低木で雌雄異株		
特記事項	特になし		
クロウメモドキ科		ケンボナシ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Hovenia dulcis</i> Thunb.	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 一
選定理由	多くは各地の神社, 寺院の境内, 屋敷内, または, 集落付近にあり, 植栽か野生か判断しにくい。野生と思われるのは那珂川の 1 か所だけである。これまで良質の材として伐採され減少するばかりである。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	那珂川町		
種の概要	落葉高木で高さは 25m に達する。		
特記事項	県天然記念物 (矢野竹のケンボナシ), 他に市町村指定天然記念物の木もある。		
ジンチョウゲ科		コガンビ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Diplomorpha ganpi</i> (Siebold et Zucc.) Nakai	2001: 一, 環境省: 一
選定理由	『福岡県植物誌』(1975)では香春岳・二日市町・高取山が記録されている。今回の調査では自生地を確認できなかった。遷移の進行などによる減少傾向にあると考えられる。		
危機要因	遷移進行, 産地局限		
分布情報	香春岳, 二日市町, 高取山		
種の概要	林縁, 尾根などに生える落葉低木		
特記事項	特になし		
グミ科		クマヤマグミ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Elaeagnus epitricha</i> Momiy. ex H.Ohba	2001: 一, 環境省: 一
選定理由	脊振山系が北限地で, もともと株数は多くないが, 雷山では個体数が激減した。		
危機要因	遷移進行, 園芸採取, 産地局限		
分布情報	糸島市, 福岡市早良区, 御前岳		
種の概要	落葉低木。春に開花, 初夏に直径 1cm ほどの果実が紅熟する。葉の裏面には白い鱗状毛が密生し, 黄褐色の鱗状毛が散らばる。表面は星状毛が散生する。		
特記事項	特になし		

ミソハギ科		ホサキキカシグサ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Rotala rotundifolia</i> (Buch.-Ham. ex Roxb.) Koehne	2001: 一、環境省: 絶滅危惧 IB 類
選定理由	『福岡県植物誌』(1976)ではやや稀と記載されている。しかし、今回の調査では自生地を確認できなかった。減少が著しい種であると考えられる。		
危機要因	その他(圃場整備), 湿地開発		
分布情報	県内(詳細分布情報不詳)		
種の概要	水田や湿地に生える多年草		
特記事項	特になし		
ヒシ科		オニヒシ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Trapa natans</i> L. var. <i>quadrispinosa</i> (Roxb.) Makino	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 一
選定理由	県西部の河川, 水路, ため池に生育する[1]。今回の調査では生育地を確認できなかった。		
危機要因	ため池改修, 河川開発		
分布情報	県内(詳細分布情報不詳)		
種の概要	河川, 水路, ため池に生育する一年生の浮葉植物		
特記事項	特になし		
セリ科		ヤマゼリ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Ostericum sieboldii</i> (Miq.) Nakai	2001: 情報不足, 環境省: 一
選定理由	自生地・個体数が限られている。『福岡県植物目録』(1952)で記録されている3地点ではその後確認されていないが, 北九州市で最近確認されている。		
危機要因	産地局限		
分布情報	北九州市, 八女市(現状不明)		
種の概要	山地の林縁に生える一回繁殖型の多年草		
特記事項	特になし		
イチヤクソウ科		ウメガサソウ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Chimaphila japonica</i> Miq.	2001: 情報不足, 環境省: 一
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)では「やや普通」, 『福岡県植物誌』(1975)では「やや稀」とされているが, 現在では稀な植物となっている。里山の明るい二次林が減少したことに伴い, 減少した。県内では英彦山など数カ所に生育地が残されている。		
危機要因	遷移進行, 産地局限		
分布情報	添田町		
種の概要	痩せ山の林内に生える多年草		
特記事項	北九州, 耶馬日田英彦山国定公園指定植物		
ツツジ科		レンゲツツジ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Rhododendron molle</i> (Blume) G.Don subsp. <i>japonicum</i> (A.Gray) K.Kron	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 一
選定理由	山地の草原にごく稀なツツジで, 県内産地は英彦山地の1カ所だけである。草原の遷移の進行により樹木が侵入し, 木陰になって衰退している。[1]		
危機要因	遷移進行		
分布情報	添田町		
種の概要	人家の庭先や公園などに植えられることの多い落葉性のツツジ		
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物		

ヤブコウジ科

カラタチバナ

絶滅危惧IB類

Ardisia crispa (Thunb.) A.DC.

2001: 一, 環境省: 一

選定理由	『福岡県植物誌』(1975)ではやや稀と記録されているが、今回の調査では自生地が確認できなかった。個体数が減少傾向にあると考えられる。
危機要因	森林伐採, 遷移進行
分布情報	沖ノ島
種の概要	暖温帯林に生える常緑低木
特記事項	特になし

サクラソウ科

オニコナスビ

絶滅危惧IB類

Lysimachia tashiroi Makino

2001: 絶滅危惧IB類, 環境省: 絶滅危惧IB類

選定理由	添田町は現状不明であるが、福岡市早良区, 那珂川町, 東峰村(旧小石原村)には現存し, 椎原川, 那珂川, 小石原川に自生地が点在する。那珂川, 小石原川にはダムが計画中であり, 自生地は全く水没してしまい, 残る自生地は椎原川だけになる可能性が大である。[1]
危機要因	ダム建設, 産地局限
分布情報	福岡市早良区, 那珂川町, 東峰村(旧小石原村)
種の概要	溪流沿いの林縁・林内に生える匍匐性の多年草
特記事項	特になし

カキノキ科

トギワガキ

絶滅危惧IB類

Diospyros morrisiana Hance

2001: 絶滅危惧IB類, 環境省: 一

選定理由	県内では比較的良好な状態で残された社寺林内などで稀に見られる。宗像市の八所宮の境内林には数十本が生育しており, 最大のもは胸高直径 40cm を超えている。北九州地区のいくつかの神社境内林にも出現するが, 高木は数本程度である。[1]
危機要因	森林伐採, 産地局限
分布情報	宗像市, 北九州市八幡西区
種の概要	照葉樹林に生える常緑中高木
特記事項	特になし

リンドウ科

イヌセンブリ

絶滅危惧IB類

Swertia tosaensis Makino

2001: 絶滅危惧IB類, 環境省: 絶滅危惧II類

選定理由	池の改修工事, 生育地周辺の開発工事, 湿地の乾燥化などによって減少する一方である。[1]
危機要因	ため池改修, 湿地開発, 遷移進行
分布情報	福岡市西区, 北九州市小倉南区, 若松区, 鞍手町, みやこ町(旧犀川町), 築上町(旧椎田町)
種の概要	山地, 山麓, 平野部などの湿地, ため池, 土手などに稀な一年草
特記事項	北九州, 耶馬日田英彦山国定公園指定植物

ガガイモ科

シタキノウ

絶滅危惧IB類

Jasminanthes mucronata (Blanco) W.D.Stevens et P.T.Li

2001: 情報不足, 環境省: 一

選定理由	『福岡県植物目録』(1952)では「やや稀」, 『福岡県植物誌』(1975)では「稀」とされているが, 現在ではごく稀な植物となっている。
危機要因	遷移進行
分布情報	久留米市, 筑紫野市
種の概要	常緑林内・林縁に生えるつる性の多年草
特記事項	特になし

アカネ科		ヒロハコンロンカ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Mussaenda shikokiana</i> Makino	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: -
選定理由	南筑後地域の溪流沿いの林縁に数株の自生が確認されている。溪流の護岸工事や山腹崩壊に伴う砂防工事などによる自生地の環境変化が大きい。[1]		
危機要因	河川開発, その他 (砂防工事)		
分布情報	南筑後地区		
種の概要	低山地の林下, 溪流沿いなどに自生する落葉低木。高さ 2m ほどになる。		
特記事項	矢部川県立自然公園指定植物		
ムラサキ科		オオルリソウ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Cynoglossum furcatum</i> Wall. var. <i>villosulum</i> (Nakai) Riedl	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: -
選定理由	県内での自生地は局限されており, 今回の調査では自生地を確認できなかった。開発による生育地の消滅が減少の要因である。[1]		
危機要因	森林伐採		
分布情報	北九州市小倉南区, 田川市		
種の概要	林縁や草地に生育する二年草。葉がやや厚く, 茎には開出毛がないことで, オニルリソウと区別できる。		
特記事項	特になし		
ムラサキ科		ムラサキ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Lithospermum erythrorhizon</i> Siebold et Zucc.	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 絶滅危惧 IB 類
選定理由	元来, 生育地が限られている植物で, 現在, 二次草原に数カ所の生育地が存在しているだけである。現存個体数も少なく, 遷移の進行などによる生育環境の変化で, 個体数が減少している生育地がほとんどである。[1]		
危機要因	産地局限, 草地開発, 遷移進行		
分布情報	北九州市小倉南区		
種の概要	県内では主に草丈が低く日当たりの良い二次草原に生育する多年草。		
特記事項	北九州国定公園指定植物		
ナス科		イガホオズキ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Physaliastrum echinatum</i> (Yatabe) Makino	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: -
選定理由	標高 250~430m 付近の照葉樹林帯の林縁部, 樹下, スギ造林地などに生育する多年草。群生することなく, 個体数はごく少ない。石灰岩地を好む傾向があり, 石灰岩の採掘により減少する可能性が大きい。[1]		
危機要因	遷移進行, 石灰採掘		
分布情報	北九州市小倉南区, 福智町(旧赤池町, 旧方城町), 香春町		
種の概要	暖温帯林の林床や林縁などに生育する多年草。県内では石灰岩地の草原にも生育する。		
特記事項	特になし		
ナス科		マルバノホロシ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Solanum maximowiczii</i> Koidz.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: -
選定理由	常緑樹林の林縁やギャップに生育する。ため池周辺の荒廃, 樹木の成長による被陰により減少した。[1]		
危機要因	管理放棄, 遷移進行, 植生変化		
分布情報	築上町(旧椎田町), 八女市(旧黒木町), 糸島市(旧前原市), 宗像市, みやこ町, 八女市など		
種の概要	ツル性の多年草で, 茎が木質化することもある。ヒヨドリジョウゴに似るが茎・葉とも無毛。		
特記事項	特になし		

ゴマノハグサ科	ヤマウツボ	絶滅危惧 IB 類
<i>Lathraea japonica</i> Miq.		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 一
選定理由	カバノキ科やブナ科などの樹木の根に寄生する。県内では標高約 800m 以上に稀に出現し、数個体から十数個体が群生している場合があるが、森林伐採などにより個体数は減少傾向にある。[1]	
危機要因	森林伐採	
分布情報	県内(詳細分布情報不詳)	
種の概要	夏緑樹林内に生える多年生の寄生植物	
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物	

ゴマノハグサ科	シソクサ	絶滅危惧 IB 類
<i>Limnophila chinensis</i> (Osbeck) Merr. subsp. <i>aromatica</i> (Lam.) T.Yamaz.		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 一
選定理由	ため池や水田の湿地に生育する水田雑草であった。圃場整備による埋立, 乾田化, 農薬, 除草剤の多用, ため池の荒廃により減少した。近年は極めて珍しい種になった。[1]	
危機要因	湿地開発, ため池改修, 乾田化	
分布情報	行橋市, 築上町(旧椎田町)	
種の概要	水田や湿地に生える一年草。茎は高さ 15~25cm, 基部はやや横に這い分枝する。	
特記事項	特になし	

ゴマノハグサ科	スズメハコベ	絶滅危惧 IB 類
<i>Microcarpaea minima</i> (J.König ex Retz.) Merr.		2001: 情報不足, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	2001 年版に情報不足種としてリストされている。最近, 宗像市で生育が確認されたが, 生育地は局限されている。	
危機要因	産地局限, 管理放棄	
分布情報	宗像市	
種の概要	水田などに生える小型の一年草。茎は地表を這い, よく分枝し, 節から発根する。	
特記事項	別名スズメノハコベ	

ゴマノハグサ科	ヒキヨモギ	絶滅危惧 IB 類
<i>Siphonostegia chinensis</i> Benth. ex Hook. et Arn.		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 一
選定理由	糸島市(旧志摩町, 旧二丈町), 北九州市小倉南区, 香春町, 筑前町(旧夜須町), 大牟田市に 7 カ所の現存産地があり, 推定現存個体数は 200 株以下である。日当たりの良い草原や道端草地に自生するが, 北九州市小倉南区を除けば, 1~2 株しか見られない。植生遷移や開発による生育地(二次草原)の減少が, 個体数減少の原因である。[1]	
危機要因	遷移進行, 草地開発	
分布情報	糸島市, 北九州市小倉南区など	
種の概要	低小の日当たりの良い草地に生える半寄生の一年草	
特記事項	特になし	

ゴマノハグサ科	イヌノフグリ	絶滅危惧 IB 類
<i>Veronica polita</i> Fr. subsp. <i>lilacina</i> (T.Yamaz.) T.Yamaz.		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	かつてはごく普通の植物であったが, 外来種のオオイヌノフグリなどに圧されてほとんど見ることができなくなった。[1]	
危機要因	外来種侵入, 管理放棄, 遷移進行	
分布情報	福岡市中央区, 北九州市(八幡西区, 門司区), 宗像市, 鞍手町, 川崎町	
種の概要	路傍や田畑の畔などに生育する冬緑性の一年草	
特記事項	特になし	

タヌキモ科		ノタヌキモ	絶滅危惧ⅠB類
		<i>Utricularia aurea</i> Lour.	2001: 絶滅危惧ⅠB類, 環境省: 絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	海岸から丘陵地の植物相豊かな中栄養のため池に分布する。生育地や個体数の減少が確実に見られる。ため池の荒廃、水質の汚濁、埋立により減少。ため池の改修などの際は、一年草の生長期、果実期の段階に応じた移植、種子採取、播種などの細心の配慮が必要である。[1]		
危機要因	ため池改修、水質汚濁、遷移進行、管理放棄		
分布情報	北九州市、行橋市、みやこ町(旧勝山町)、築上町(旧築城町)、上毛町(旧新吉富村、旧大平村)。		
種の概要	ため池などに生える一年生の浮遊性の植物。食虫植物で、細かく裂けた葉の一部は捕虫囊に変形している。		
特記事項	特になし		

タヌキモ科		ミミカキグサ	絶滅危惧ⅠB類
		<i>Utricularia bifida</i> L.	2001: 絶滅危惧ⅠB類, 環境省: 一
選定理由	海岸や丘陵地のため池周辺や山間の湿地の貧栄養でやや裸地的な環境に生育する。[1]		
危機要因	湿地開発、遷移進行		
分布情報	苅田町、行橋市、上毛町(旧大平村)、新宮町		
種の概要	湿地に生える小形の多年草。食虫植物であり、地下茎に捕虫囊をつける。		
特記事項	北九州、耶馬日田英彦山国定公園指定植物		

タヌキモ科		タヌキモ	絶滅危惧ⅠB類
		<i>Utricularia vulgaris</i> L. var. <i>japonica</i> (Makino) Tamura	2001: 情報不足, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	県内各地に自生地があったが、現在確実に自生しているのは古賀市だけである。		
危機要因	池沼開発、水質汚濁		
分布情報	古賀市		
種の概要	ため池などに生える多年生の中植物で、植物体全体が浮遊する。また、食虫植物であり、細かく裂けた葉の一部は捕虫囊に変形している。		
特記事項	特になし		

キク科		モミジハグマ	絶滅危惧ⅠB類
		<i>Ainsliaea acerifolia</i> Sch.Bip. var. <i>acerifolia</i>	2001: 絶滅危惧ⅠB類, 環境省: 一
選定理由	英彦山地の深山の谷川沿いや小さな流れの水辺など、湿気が多い環境に稀な多年草。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	豊前市、添田町		
種の概要	冷温帯林の小流沿いなどに生育する多年草		
特記事項	特になし		

キク科		クサヤツデ	絶滅危惧ⅠB類
		<i>Ainsliaea uniflora</i> Sch.Bip.	2001: 絶滅危惧ⅠB類, 環境省: 一
選定理由	英彦山地、古処山地、釈迦岳山地に自生地がある。夏緑樹林内にあるが、英彦山地ではスギ造林地にも自生している。園芸用採取により減少する可能性が大きい。[1]		
危機要因	園芸採取		
分布情報	豊前市、嘉麻市(旧嘉穂町)、添田町、八女市(旧矢部村)		
種の概要	冷温帯林の林床や川岸に生育する多年草。日本固有種。		
特記事項	特になし		

キク科		ミヤマヨメナ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Aster savatieri</i> Makino	2001: 情報不足, 環境省: 一
選定理由	生育記録がある3地点のうち, 求菩提山・英彦山ではシカの被食圧の増大のため減少傾向にある。今回の調査では, 求菩提山では発見できず, 宝満山では50個体未満であった。県内の総個体数は250未満と推定される。		
危機要因	産地局限, シカ増加		
分布情報	求菩提山, 英彦山, 宝満山		
種の概要	暖温帯上部～冷温帯下部の広葉樹林に林縁などに生育する多年草。開花期は5月頃。ミヤコワスレは, 本種の園芸品である。		
特記事項	特になし		
キク科		ウラギク	絶滅危惧 IB 類
		<i>Aster tripolium</i> L.	2001: 絶滅危惧 II 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	玄界灘および響灘の河口などに点々と自生地が知られている[1]。和自など個体数が増加傾向にある場所もあるが, 今津など絶滅した場所もあり, 現存する開花個体数は250に満たないと推定される。		
危機要因	河川開発, 海岸開発		
分布情報	福岡市, 福津市(旧津屋崎町), 北九州市, 大川市, 柳川市		
種の概要	主に汽水域の塩湿地に生育する一回繁殖型の草本。ロゼットで越冬し, 通常は発芽の翌年に開花し, 枯死する。県内では, 海岸付近の埋立地で生育が確認されたこともある。		
特記事項	玄海, 耶馬日田英彦山国定公園指定植物		
キク科		オケラ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Atractylodes ovata</i> (Thunb.) DC.	2001: 情報不足, 環境省: 一
選定理由	北九州市(吉岡, 1964), 鐘崎, 若杉山, 油山など(福岡県高等学校生物研究部会, 1975)が既知の産地であり, 1970年代にも希な植物とされている。油山には現在でも50個体未満であるが生育している。主要な生育地である二次草原が減少したため, 開花個体数は250未満と推測される。		
危機要因	遷移進行, 草地開発, 管理放棄		
分布情報	北九州市(吉岡, 1964), 鐘崎, 若杉山, 油山, 牛頸山, 四王寺山		
種の概要	二次草原やアカマツ二次林や二次林の林縁など, 日当りの良い乾燥した場所に生育する多年草		
特記事項	特になし		
キク科		チョウセンスイラン	絶滅危惧 IB 類
		<i>Hololeion maximowiczii</i> Kitam.	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	各地の湿地やため池の水辺などに20カ所の標本産地があったが, 現存するのは, 7カ所にすぎない。ため池の改修時の水辺の護岸化, 歩道の設置, 水位の上昇で6カ所の産地が消滅しており, 現存産地でも今後の改修工事で消滅, 絶滅の懸念がある。[1]		
危機要因	ため池改修		
分布情報	北九州市小倉南区, 行橋市, 上毛町(旧大平村), 嘉麻市(旧嘉徳町), 飯塚市(旧徳波町), 東峰村(旧小石原村), 久留米市		
種の概要	平地から山地にかけてのため池の水辺や湿地に生育する多年草		
特記事項	北九州国定公園指定植物。別名マンシュウスイラン		
キク科		ホソバオグルマ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Inula linariifolia</i> Turcz.	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	直方市では遠賀川の河川敷に小群落が散在する。他の自生地では, 現状不明である。河川改修, 圃場整備などにより減少傾向にあり, 県内の個体数は250未満と推定される。		
危機要因	産地局限, 河川開発, その他(圃場整備)		
分布情報	北九州市若松区, 直方市, 飯塚市(旧瀬田町), 福智町(旧金田町)		
種の概要	埋立地, 河川敷, 池畔などのやや多湿地に生える多年草		
特記事項	特になし		

キク科	ホンバニガナ	絶滅危惧ⅠB類
<i>Ixeridium beauverdianum</i> (H.Lév.) Springate		2001: 絶滅危惧ⅠB類, 環境省: 絶滅危惧ⅠB類
選定理由	ため池の荒廃による遷移, 水質の汚濁, 池改修工事により減少。県内の生育地は限られており, 個体数も少ない。 [1]	
危機要因	管理放棄, 水質汚濁, ため池改修, 産地局限	
分布情報	北九州市, 行橋市, 上毛町(旧大平村, 旧新吉富村)	
種の概要	水位変動のあるため池の日当たりの良い湿地に生育する多年草	
特記事項	特になし	

キク科	ナガハノコウヤボウキ	絶滅危惧ⅠB類
<i>Perya glabrescens</i> Sch.Bip.		2001: 絶滅危惧ⅠB類, 環境省: 一
選定理由	英彦山地, 金山, 井原山, 雷山に自生しているが, 減少傾向にある。森林が成長し, 林床が暗くなったことが, 減少の要因と考えられる。	
危機要因	遷移進行	
分布情報	豊前市, みやこ町(旧犀川町), 福智山, 福岡市(金山), 糸島市(旧前原市)(井原山, 雷山)	
種の概要	上部山地の明るい林下に生える高さ約1mの落葉小低木	
特記事項	特になし	

キク科	ツクシトウヒレン	絶滅危惧ⅠB類
<i>Scusurea nipponica</i> Miq. subsp. <i>savatieri</i> (Franch.) Kitam. var. <i>higomontana</i> (Honda) H.Koyama		2001: 絶滅危惧ⅠB類, 環境省: 一
選定理由	既知の産地は4地点と, 限られている。2001年当時, 糸島市(旧前原市)とみやこ町(旧犀川町)では生育が確認された[1]。今回の調査では雷山で確認したが, 以前に比べ沢沿いの林冠が閉じ, 自生地が暗くなっており, 個体数は50未満に減少している。犬ヶ岳ではシカ増加の影響で多くの林床植物が消失しており, 本種は発見できなかった。	
危機要因	産地局限, シカ増加, 遷移進行	
分布情報	糸島市(旧前原市)(雷山), 古処山, みやこ町(旧犀川町), 犬ヶ岳	
種の概要	冷温帯林の明るい林床や林縁, 溪流沿いなどに生育する多年草。開花期は9~10月。	
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園, 矢部川県立自然公園指定植物	

キク科	ツクシタンポポ	絶滅危惧ⅠB類
<i>Taraxacum kiushianum</i> H.Koidz.		2001: 絶滅危惧ⅠB類, 環境省: 絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	福智山地や英彦山地の日当たりの良い開けた草地や山道などに見られるごく稀な植物で, 低地の人家付近に見られる所がある。周辺の草本の繁茂により衰退しやすい。[1]	
危機要因	植生変化, 遷移進行	
分布情報	福智町(旧赤池町), 添田町, 香春町	
種の概要	日当たりの良い開けた草地や山道	
特記事項	北九州国定公園指定植物	

キク科	モウコタンポポ	絶滅危惧ⅠB類
<i>Taraxacum mongolicum</i> Hand.-Mazz.		2001: 一, 環境省: 一
選定理由	北九州市にモウコタンポポと考えられる黄花系タンポポの自生地が存在する。当該地での開花個体数は250未満であるが, 個体数の変化は小さい。	
危機要因	産地局限	
分布情報	北九州市若松区	
種の概要	総苞外片は, 線形~超橢円形, 上向~上斜向, 総苞の2/3以上, 縁に長軟毛がある, 角状突起が目立つなどの点で, ツクシタンポポと区別できる。	
特記事項	特になし	

トチカガミ科		ミスオオハコ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Ottelia alismoides</i> (L.) Pers.	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	北九州市では、水田、水路、ため池にやや普通に生育したが、2001 年には生育地は 2 カ所のみで、個体数は 1 ～3 株と急激に減少していた。[1] 福岡市西区では保護地内の水田に少数個体が発生するが、保護池からは消失した。かつては水田の普通種だったが、現在では山間部のため池など限られた水域に生育している。		
危機要因	乾田化、農薬使用、管理放棄		
分布情報	北九州市、行橋市、みやこ町(旧勝山町)、上毛町(旧大平村)、添田町、飯塚市(旧穂波町)、福岡市西区		
種の概要	一年生の沈水植物		
特記事項	特になし		
シバナ科		シバナ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Triglochin asiatica</i> (Kitag.) A. et D.Löve	2001: 絶滅危惧 II 類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	既知の生育地の一部で、海岸や河川の改修、埋立による個体数の減少が見られる。福岡市今津では2001年以後に消失した。		
危機要因	海岸開発、河川開発		
分布情報	福岡市、古賀市、福津市(旧福岡町)、北九州市、荏田町、豊前市		
種の概要	湾内・港湾・河口など海水・汽水をかぶる泥土に生育する多年草。横に這う地下茎から多数の茎を出し、しばしば密に叢生する。初夏～秋に花茎を伸ばし、緑色の小さな風媒花を穂状につける。		
特記事項	玄海、耶馬日田英彦山国定公園指定植物		
ヒルムシロ科		イトモ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Potamogeton berchtoldii</i> Fieber	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	北九州市では多くの生育地が記録されたが、いずれも自然度の高い生育地が多い。ため池の荒廃、水質汚染、改修工事、埋立により減少している。[1]		
危機要因	水質汚濁、管理放棄、ため池改修		
分布情報	北九州市小倉南区、上毛町(旧大平村)。北九州市若松区では絶滅した。		
種の概要	海岸や山間の帰化種の入っていない小さな池沼に生育する。		
特記事項	特になし		
ヒルムシロ科		フヒルムシロ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Potamogeton fryeri</i> A.Benn.	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 一
選定理由	今後の調査で未調査地区でも分布が確認される可能性がある。[1]		
危機要因	湖沼開発		
分布情報	上毛町(旧大平村、旧新吉富村)、嘉麻市(旧嘉穂町)、八女市(旧黒木町、旧星野村)に記録があった。		
種の概要	県内では、限られた山間の貧～腐食栄養で水が酸性でカナケの出るような池沼、池塘で、自然度の高い環境に生育する。		
特記事項	特になし		
ヒルムシロ科		センニンモ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Potamogeton maackianus</i> A.Benn.	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 一
選定理由	乾田化によるため池の荒廃、水路の水質汚濁、改修により生育地が減少している。[1]		
危機要因	乾田化、管理放棄、水質汚濁、水路改修		
分布情報	山門郡、北九州市、行橋市、みやこ町(旧勝山町)、築上町(旧椎田町)、上毛町(旧大平村)		
種の概要	海岸、丘陵地のため池、水路などの植物相の豊かな限られた水域に生育する。		
特記事項	特になし		

ヒルムシロ科		リュウヒゲモ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Potamogeton pectinatus</i> L.	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	汽水域の開発, 水質汚濁により減少。[1]		
危機要因	水質汚濁		
分布情報	福岡市, 北九州市		
種の概要	海岸近くの池, 池公園, 埋立地の沼沢地に生育する。		
特記事項	特になし		

イトクスモ科		カワソルモ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Ruppia maritima</i> L.	2001: 絶滅危惧 IA 類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	2001 年版以降, 今津・人工島・響灘で発生が確認された。水質の悪化やアオコの発生によって急速な個体減や消滅が起こり得る[1]ので, 注意する必要がある。		
危機要因	湿地開発, 土地造成, 水質汚濁		
分布情報	福岡市, 福津市, 北九州市		
種の概要	汽水または淡水中に沈水して生育する多年草。葉は糸状で互生。花は両性で葉腋につき, 花柄が伸びて葉鞘から突き出す。		
特記事項	特になし		

ユリ科		クサシギカズラ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Asparagus cochinchinensis</i> (Lour.) Merr.	2001: 情報不足, 環境省: ー
選定理由	各地に点在するが, 海岸の人工的改変やクロマツ林の遷移などが潜在的な危機要因となっている。		
危機要因	海岸開発, 遷移進行		
分布情報	福岡市西区, 新宮町, 宗像市		
種の概要	海に近いマツ林や低木林, 岩地や砂地などに生える多年草。さかんに分枝し, 大きな株は他物にもたれかかる。葉は鱗片状で, 短い茎(葉状枝)が葉の役を果たす。葉状枝は少し湾曲している。		
特記事項	特になし		

ユリ科		キジカクン	絶滅危惧 IB 類
		<i>Asparagus schoberioides</i> Kunth	2001: ー, 環境省: ー
選定理由	管理放棄や遷移の進行による低木やササの繁茂が生育環境を狭めつつある。		
危機要因	遷移進行, 管理放棄		
分布情報	田川市		
種の概要	山地草原に生える多年草。茎は盛んに分枝する。葉は鱗片状で, 短い茎(葉状枝)が葉の役を果たす。		
特記事項	特になし		

ユリ科		キバナチゴユリ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Disporum lutescens</i> (Maxim.) Koidz.	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: ー
選定理由	県内では標高 700m 以上の夏緑樹林域に見られる。古処山地では 100 個体近くが群生している場所もあるが, 開花個体は少ない。釈迦岳, 犬ヶ岳にも自生記録があるが, 現状不明である。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	釈迦岳, 犬ヶ岳		
種の概要	山地の林床に生える多年草		
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園, 矢部川県立自然公園指定植物		

ユリ科	ヒメユリ	絶滅危惧IB類
<i>Lilium callosum</i> Siebold et Zucc.		2001: 絶滅危惧IB類, 環境省: 絶滅危惧IB類
選定理由	園芸用採取や草地の遷移の進行などにより減少が著しい。保全のためには山焼きや草刈りなど草原の維持管理が必要。[1]	
危機要因	園芸採取, 遷移進行	
分布情報	北九州市小倉南区, 飯塚市, 田川市, 福智町(旧赤池町, 旧方城町, 旧金田町), 香春町。	
種の概要	乾いた山地草原に生えるが, 分布が限られている。	
特記事項	北九州, 耶馬日田英彦山国定公園指定植物	

ユリ科	カノコユリ	絶滅危惧IB類
<i>Lilium speciosum</i> Thunb.		2001: 情報不足, 環境省: 絶滅危惧II類
選定理由	宗像市に生育地があり, 市の花として保護されている。	
危機要因	産地局限	
分布情報	宗像市	
種の概要	林縁に生える多年草。園芸用に広く栽培されている。	
特記事項	特になし	

ユリ科	ウスギワニグチソウ	絶滅危惧IB類
<i>Polygonatum cryptanthum</i> H.Lév. et Vaniot		2001: 絶滅危惧IA類, 環境省: 絶滅危惧IB類
選定理由	福岡市の山地に唯一の自生地があり, アカマツ林内に生育する。日本では対馬に分布するだけで, 九州本島では唯一の自生地, 南限である。アカマツの枯死や常緑樹の成長により, 林床の光環境が悪化し, 減少傾向にある。開花個体数は50未満である。	
危機要因	産地局限, 遷移進行	
分布情報	福岡市	
種の概要	明るい林床に生育する多年草。雌ずいは雄ずいより短く花柄に突起がある点が, ワニグチソウと異なる。	
特記事項	特になし	

ユリ科	ユキササ	絶滅危惧IB類
<i>Smilacina japonica</i> A.Gray		2001: -, 環境省: -
選定理由	かつては犬ヶ岳・英彦山などに群生が見られたが, シカの摂食により激減した。開花個体はほとんど見られない。	
危機要因	シカ増加	
分布情報	豊前市, 添田町, 八女市(旧矢部村)	
種の概要	冷温帯林の林床に生育する多年草。地下茎は長く, 節から多数の根を出す。	
特記事項	特になし	

ヒガンバナ科	ハマオモト	絶滅危惧IB類
<i>Crinum asiaticum</i> L. var. <i>japonicum</i> Baker		2001: 絶滅危惧IB類, 環境省: -
選定理由	島嶼ではまとまった面積で群生している自生地もあるが, 本土側では海岸域の開発や園芸用の採取などで消滅した場所もある。また, 最近ハマオモトヨトウの食害が各地で見られる。[1]	
危機要因	海岸開発, 園芸採取	
分布情報	玄界灘および響灘沿岸	
種の概要	砂浜や礫浜に生える常緑の多年草	
特記事項	玄海国定公園指定植物, 県天然記念物(夏井浜の浜木綿自生地), 別名ハマユウ	

ヒガンバナ科

キツネノカミソリ

絶滅危惧IB類

Lycoris sanguinea Maxim.

2001: 情報不足, 環境省: ー

選定理由	落葉林内に生えるオオキツネノカミソリと異なり, キツネノカミソリは里山に生えるため, 生育地が減少していると考えられる。『福岡県植物誌』(1975)ではやや稀と記録されているが, その後, 自生地に関する確実な情報が得られていない。
危機要因	土地造成, 管理放棄, 遷移進行
分布情報	県内(詳細分布情報不詳)
種の概要	土手や明るい林縁に生える冬緑性の多年草
特記事項	特になし

キンバイザサ科

キンバイザサ

絶滅危惧IB類

Curculigo orchioides Gaertn.

2001: 情報不足, 環境省: ー

選定理由	『福岡県植物目録』(1952)では春日, 下広川が, 『福岡県植物誌』(1975)では香春岳が記録されているが, その後の確認情報がない。筑前町(旧夜須町)に自生している。
危機要因	産地局限, 遷移進行
分布情報	筑前町(旧夜須町)
種の概要	明るい草地に生える多年草
特記事項	特になし

アヤメ科

ノハナショウブ

絶滅危惧IB類

Iris ensata Thunb. var. *spontanea* (Makino) Nakai ex Makino et Nemoto

2001: 絶滅危惧IB類, 環境省: ー

選定理由	湿地の遷移の進行や乾燥化, 更に, 園芸用採取などによって減少する一方である。保全のためには湿地の状態を保持するとともに, 山焼きや草刈りをする必要も必要。[1]
危機要因	遷移進行, 園芸採取
分布情報	北九州市小倉南区, 東峰村(旧小石原村)
種の概要	山野の湿原に生える多年草
特記事項	玄海, 北九州, 耶馬日田英彦山国定公園指定植物

イグサ科

ヒロハノコウガイゼキショウ

絶滅危惧IB類

Juncus diastrophanthus Buchenau

2001: 絶滅危惧IB類, 環境省: ー

選定理由	県内の自生地は1カ所だけであり, 湿地開発や遷移進行によって消失する恐れがある。
危機要因	産地局限, 湿地開発, 遷移進行
分布情報	北九州市若松区
種の概要	ため池の畔や休耕田などに生育する多年草。雄ずいが3個であること, 茎には広い翼があることで, 類似種のハナビゼキショウと区別できる。
特記事項	特になし

ホシクサ科

オオホシクサ

絶滅危惧IB類

Eriocaulon buergerianum Koern.

2001: 絶滅危惧IB類, 環境省: ー

選定理由	丘陵地の開発による埋立, ため池の荒廃による遷移が減少の要因である。[1]
危機要因	湿地開発, 管理放棄, 遷移進行
分布情報	北九州市, 行橋市, 築上町(旧築城町), 上毛町(旧新吉富村, 旧大平村)
種の概要	丘陵地から山間部の水位変動のあるため池の水中および湿地に, ほかのホシクサ類と混生, 群生する。
特記事項	特になし

イネ科		ヒメコヌカグサ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Agrostis valvata</i> Steud.	2001: 情報不足, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)ではやや普通と記録されているが, 生育環境(湿地・ため池)が減少し, 2001 年版では情報不足種としてリストされている。福岡県の生育地に関する情報はその後得られていない。		
危機要因	湿地開発, 管理放棄, 遷移進行		
分布情報	県内(詳細分布情報不詳)		
種の概要	半日陰の湿地や溜池の周囲などに生育する多年草		
特記事項	特になし		
イネ科		アワガエリ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Phleum paniculatum</i> Huds.	2001: 情報不足, 環境省: ー
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)では福智山・銀水が記録されているが, その後発見されていない。最近, 遠賀川の河川敷に生育することが報告された。河川敷の開発などにより減少している。		
危機要因	河川開発, 産地局限		
分布情報	福智山, 大牟田市(銀水), 遠賀川		
種の概要	河原などの明るい草地に生える一年草		
特記事項	特になし		
ミクリ科		ヤマトミクリ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Sparganium fallax</i> Graebn.	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	ヒツジグサなどの生える貧栄養の環境に生育していたが, 年々陸地化が進行してヨシ, ガマなどに変わり消滅している。確認された生育地のほとんどがこのような環境で, ため池の荒廃による自然遷移で失われる危険性が高い。[1]		
危機要因	管理放棄, 遷移進行		
分布情報	北九州市, 朝倉郡, 八女郡, 築上郡		
種の概要	山間の小さなため池, 水路に生育する多年草		
特記事項	特になし		
ミクリ科		ナガエミクリ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Sparganium japonicum</i> Rothert	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	乾田化, ため池の荒廃, 埋立, 水質汚濁により減少。[1]		
危機要因	乾田化, 水質汚濁, 管理放棄		
分布情報	北九州市小倉南区		
種の概要	山間のため池, 河川, 水路に生育する多年草		
特記事項	特になし		
カヤツリグサ科		タイワンスゲ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Carex ascocetra</i> C.B.Clarke ex Franch.	2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	森林の伐採, 農地化により, 生育地が減少しつつある。[1]		
危機要因	森林伐採		
分布情報	上毛町(旧大平村), 久留米市, みやま市(旧瀬高町, 旧山川町), 大牟田市など		
種の概要	暖地の常緑林下に生育する多年草		
特記事項	特になし		

カヤツリグサ科		ゲンカイモエギスゲ	絶滅危惧 IB 類
<i>Carex genkaiensis</i> Ohwi		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 絶滅危惧 IB 類	
選定理由	ダム工事などにより生育地を狭められつつある。[1]		
危機要因	ダム建設		
分布情報	直方市に数カ所の自生地がある。この地域が本種の基準産地である。		
種の概要	山地の疎林内, 林縁に稀に生育する多年草		
特記事項	北九州国定公園指定植物		
カヤツリグサ科		ヤガミスゲ	絶滅危惧 IB 類
<i>Carex maackii</i> Maxim.		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 一	
選定理由	湿地の減少に伴い, 本種の自生地・個体数も減少傾向にある。		
危機要因	湿地開発		
分布情報	鞍手郡, 大牟田市, 北九州市		
種の概要	河川敷などの湿地に生育する多年草		
特記事項	特になし		
カヤツリグサ科		ヒメスゲ	絶滅危惧 IB 類
<i>Carex oxyandra</i> (Franch. et Sav.) Kudô		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 一	
選定理由	山地の林内, 草地に生育するが, 本県に限っていえば, 高い山の尾根筋に細々と生育している。県内では希少種であり, 絶滅が危惧される。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	福岡市, 添田町, 宇美町		
種の概要	山地の林内, 草地に生育する多年草。本県では, 山地の尾根筋に細々と生育している。		
特記事項	特になし		
カヤツリグサ科		ツクシオオガヤツリ	絶滅危惧 IB 類
<i>Cyperus ohwii</i> Kük.		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 絶滅危惧 IB 類	
選定理由	福岡市(23カ所), 古賀市(1カ所), 小郡市(1カ所)の25カ所に自生地があり, 中には1万株以上の大群生地が6カ所あったが, 堀や池の浚渫工事, 公園整備名目の埋立で6カ所とも100株以下まで減少あるいは絶滅し, ここ30年間の開発により個体数は1%に減少している。[1]		
危機要因	土地造成		
分布情報	福岡市, 古賀市, 小郡市。福岡市が基準標本産地(1909年発見)。		
種の概要	堀や池に生育する。短い地下茎からそう生ずる。高さ1.5mに達する大型の多年草。		
特記事項	県指定天然記念物		
カヤツリグサ科		スジヌマハリイ	絶滅危惧 IB 類
<i>Eleocharis equisetiformis</i> (Meinsh.) B.Fedtsch.		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 準絶滅危惧	
選定理由	北九州市若松区, 遠賀町, 若杉山, 広川町, 八女市に6カ所の標本産地があるが, 現存するのは若松区の1カ所だけで, 現状不明である。現存産地は埋立地内の湿地で5m ² の群落があるのみ。土地が処分されると, 開発により消滅する懸念が大きい。[1]		
危機要因	湿地開発		
分布情報	北九州市若松区		
種の概要	砂質の淡水湿地に生育する多年草		
特記事項	特になし		

カヤツリグサ科

ヒメハリイ

絶滅危惧 IB 類

Eleocharis kamschatica (C.A.Mey.) Kom. f. *kamschatica*

2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 一

選定理由	西区では海岸近くの埋立造成地の水たまり湿地(10×10m)に現存している。隣接地は埋立によって消滅し、以前の3分の1以下に減少している。現存自生地も都市開発により絶滅する可能性が大である。[1]
危機要因	湿地開発, 土地造成
分布情報	福岡市西区
種の概要	沿海地の日当りの良い湿地に生育する多年草
特記事項	特になし

カヤツリグサ科

ヒメカンガレイ

絶滅危惧 IB 類

Schoenoplectus mucronatus (L.) Palla var. *mucronatus*

2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類

選定理由	12カ所の標本産地があり、ため池の水辺、堤防下の湿地、林道沿いの湿地などの7カ所に現存するが、個体数は少ない。ため池の改修や除草によって消滅した産地があり、今後も同じ原因によって減少する可能性が大である。[1]
危機要因	ため池改修
分布情報	福岡市, 那珂川町, 筑紫野市, 鞍手町ほか
種の概要	近似のカンガレイよりは脆弱な環境に自生していて、地形の変更によって消滅しやすい。
特記事項	特になし

カヤツリグサ科

ツクシカンガレイ

絶滅危惧 IB 類

Schoenoplectus multisetus Hayas. et C.Sato

2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 一

選定理由	1983年に本県産の標本によって新和名が付けられたカンガレイの近似種で、15カ所の標本産地があるが、ため池の埋立で絶滅した産地が2カ所、水位の上昇で絶滅した産地が1カ所あり、全体に減少している。日本では未知の種で更に研究を要する。[1]
危機要因	ため池改修, 産地局限
分布情報	那珂川町, 筑紫野市, 飯塚市(旧穂波町)
種の概要	ため池の水辺や流入口付近の湿地に群生している多年草
特記事項	特になし

カヤツリグサ科

シズイ

絶滅危惧 IB 類

Schoenoplectus nipponicus (Makino) Soják

2001: 情報不足, 環境省: 一

選定理由	県内9カ所で標本記録があるが、嘉徳町(1978年)を除けば戦前の記録である。ため池改修の進行とともに、自生地が減少した。しかし、栄養繁殖力が強い種であり、各地で再発見の可能性はある。
危機要因	ため池改修, 遷移進行
分布情報	嘉麻市(嘉徳町), 糟屋郡(篠栗町, 粕屋町原町), 福岡市(南区野間, 城南区七隅・樋井川), 春日市, 八女市(黒木町木屋), 八女郡(広川町)
種の概要	ため池の水辺に生える抽水性の多年草
特記事項	特になし

カヤツリグサ科

シンジュガヤ

絶滅危惧 IB 類

Scleria levis Retz.

2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 一

選定理由	宗像市, 篠栗町, 久留米市, 広川町, 大牟田市, 築上町(旧椎田町)に7カ所の標本産地があるが、現存するのは2カ所だけで、丘陵地の尾根上に1.5×1.5mの群落、水田に数株あるだけである。ほかの5カ所は、埋立や植生遷移で消滅した所が2カ所あり、3カ所では現状不明である。[1]
危機要因	植生変化, 土地造成
分布情報	篠栗町, 築上町(旧椎田町)
種の概要	日当りの良い湿った草地に生育する多年草。太くて長い地下茎がある。
特記事項	特になし

ラン科	ムギラン	絶滅危惧 IB 類
<i>Bulbophyllum inconspicuum</i> Maxim.		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	同属のマメヅタランと同様に自生地は限られており, また, どの場所もごく小敷しか存在しない。園芸用の採取や台風などによる生育環境の変化により減少している。[1]	
危機要因	園芸採取, 産地局限, 自然災害	
分布情報	北九州市小倉南区, 福智町(旧赤池町), 築上町(旧築城町)	
種の概要	岩上や樹幹などに着生する小形のラン。	
特記事項	北九州, 耶馬日田英彦山国定公園指定植物	

ラン科	アキザキヤツシロラン	絶滅危惧 IB 類
<i>Gastrodia verrucosa</i> Blume		2001: 情報不足, 環境省: -
選定理由	クロヤツシロランと同様に生育地が限られているが, 開発に伴う環境調査で 100 個体以上が新たに確認された自生地が複数ある。	
危機要因	産地局限	
分布情報	福岡市西区, みやこ町, 飯塚市	
種の概要	竹林や暖温帯林の落葉層の発達した場所に生育する腐生の多年草	
特記事項	特になし	

ラン科	ジガバネソウ	絶滅危惧 IB 類
<i>Liparis krameri</i> Franch. et Sav.		2001: -, 環境省: -
選定理由	『福岡県植物誌』で記録されている 4 地点のうち, 現存が確認されているのは英彦山だけである。	
危機要因	産地局限, 園芸採取	
分布情報	英彦山	
種の概要	県内では, 先冷温帯林の林内に生育する多年草。本種の唇弁は先が尾状に伸びるが, 類似種のクモキリソウの唇弁は中央で反曲する。	
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物	

ラン科	ジンバイソウ	絶滅危惧 IB 類
<i>Platanthera florentii</i> Franch. et Sav.		2001: -, 環境省: -
選定理由	かつては県内の落葉樹林下に広く分布していた植物であるが, 林床環境の変化(シカ食害・光環境の悪化など)や園芸用の採集のために大きく減少した。	
危機要因	シカ増加, 園芸採取	
分布情報	北九州市, 糸島市	
種の概要	主に冷温帯林の林床に生育する多年草。大型の葉 2 枚が根生状に茎の下部に接して着く。	
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物	

チャセンシダ科	オオタニワタリ	絶滅危惧 II 類
<i>Asplenium antiquum</i> Makino		2001: 絶滅危惧 IB 類, 環境省: 絶滅危惧 II 類
選定理由	沖ノ島に生育が局限されており, 個体数は 1,000 未満である。沖ノ島での生育状況は安定している。	
危機要因	産地局限	
分布情報	宗像市	
種の概要	常緑樹に着生する多年草	
特記事項	特になし	

イワテング科

ミドリワラビ

絶滅危惧Ⅱ類

Deparia viridifrons (Makino) M.Kato

2001: 情報不足, 環境省: ー

選定理由	生育地が限定されており、個体数が少ない。全国的に希少なシダであり、多くの県で絶滅危惧種に選定されている。
危機要因	産地局限
分布情報	北九州市, 添田町, 岡垣町, 宮若市(旧若宮町), 久山町, 那珂川町, 糸島市(旧前原市)
種の概要	林内の湿った場所に生える多年草
特記事項	特になし

イワテング科

イヨクジャク

絶滅危惧Ⅱ類

Diplazium okudairae Makino

2001: 情報不足, 環境省: ー

選定理由	生育地が限定されており、個体数が少ない。全国的に希少なシダであり、多くの県で絶滅危惧種に選定されている。
危機要因	産地局限
分布情報	嘉麻市(旧山田市), 宮若市(旧若宮町), 久山町, 糸島市(旧前原市)
種の概要	林内の湿った場所に生える多年草
特記事項	特になし

イワテング科

コガネシダ

絶滅危惧Ⅱ類

Woodsia macrochaena Mett. ex Kuhn

2001: 情報不足, 環境省: ー

選定理由	生育地が限定されており、個体数が少ない。全国的に希少なシダであり、多くの県で絶滅危惧種に選定されている。
危機要因	産地局限
分布情報	上毛町(旧大平村), 築上町(旧築城町), 八女市(旧星野村, 旧矢部村, 旧黒木町)
種の概要	林縁の岩上に生える落葉性(夏緑性)多年草
特記事項	特になし

ニレ科

クワノハエノキ

絶滅危惧Ⅱ類

Celtis boninensis Koidz.

2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー

選定理由	自生地は限られる。沖ノ島では、大きいもので胸高直径 60cm, 樹高 20m を超える高木が生育している。小呂島では、林縁に点々と生育している。[1]
危機要因	産地局限, 自然災害
分布情報	沖ノ島, 小呂島, 宗像市(旧玄海町鐘崎)など
種の概要	沿海地の暖温帯林に生える落葉高木
特記事項	特になし

イラクサ科

ミヤコミス

絶滅危惧Ⅱ類

Pilea kiotensis Ohwi

2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由	石灰岩地の林下・林縁の岩上に生育する。分布の限られた植物である。これまで神社の境内などでは雑草として除去されており保護のためには対策が必要である。[1]
危機要因	産地局限
分布情報	北九州市
種の概要	山地の湿った場所に生育する一年草
特記事項	北九州国定公園, 筑豊県立自然公園指定植物

タデ科	コギシギシ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Rumex dentatus</i> L. subsp. <i>klotzschianus</i> (Meisn.) Rech.f.		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	生育地は沿海池の廃田や海浜の砂地などの遷移途上の環境である。遷移の進行によって減少傾向にあり、攪乱によって一時的に増えても、やがて減少する。	
危機要因	管理放棄, 遷移進行	
分布情報	北九州市小倉南区, 八幡西区, 芦屋町(現状不明), 岡垣町(現状不明), 福岡市西区, 東区	
種の概要	砂地や水田, 湿り気のある草地などに生育する多年草	
特記事項	特になし	

ナデシコ科	ワチガイソウ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Pseudostellaria heterantha</i> (Maxim.) Pax		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー
選定理由	自生地ではシカが増加し, 多くの林床植物が減少している。本種も減少傾向にあるが, 小型であり, 岩上にも生えるため, 今のところ激減してはいない。	
危機要因	遷移進行, 自然災害, 産地局限	
分布情報	英彦山地, 添田町, みやこ町(旧犀川町)	
種の概要	冷温帯林内の岩上, 登山道の端などに生える多年草	
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物	

アカザ科	イソホウキギ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Kochia littorea</i> (Makino) Makino		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー
選定理由	博多湾東部沿岸には群落があるが, 埋立とそれに付随する工事による悪影響が懸念される。九州では自生地が少なく, 分布の南限域である。[1]	
危機要因	海岸開発	
分布情報	福岡市, 古賀市, 築上町(旧椎田町), 吉富町	
種の概要	海岸の砂地に群生する。汀線の少し陸側に自生し, 大潮時以外は海水に浸ることはない	
特記事項	特になし	

クスノキ科	ダンコウハイ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Lindera obtusiloba</i> Blume		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー
選定理由	ほとんどが乾燥した凝灰岩上に自生しており, 生育環境が限られている。[1]	
危機要因	産地局限, 遷移進行, 森林伐採	
分布情報	豊前市, 築上町(旧築城町), 添田町	
種の概要	冷温帯林の林内や林縁に生育する樹高 2m 程度の落葉低木	
特記事項	特になし	

クスノキ科	クロモジ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Lindera umbellata</i> Thunb.		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー
選定理由	県内では菅岳(篠栗町)の北西側斜面(標高 500~570m)に分布し, ここが九州唯一の産地で, 西限自生地である。全体の個体数は多く, 稚樹も多数見られる。自生地は伐採を繰り返してきた二次林であり, 下層植生として生育している本種を維持するためには, 今後も定期的伐採などの管理が望まれる。[1]	
危機要因	産地局限, 遷移進行	
分布情報	篠栗町	
種の概要	冷温帯の二次林内および林縁に生育する樹高 2~3m の落葉低木	
特記事項	特になし	

ツツラフジ科		ミヤコジマツツラフジ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Cyclea insularis</i> (Makino) Hatus.		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー	
選定理由	沖ノ島では林縁などに点々と自生しており、島内ではそれほど稀ではない。地島でも海岸に近い林縁などに見出される。『福岡県植物目録』(1952)には、産地として上記のほか白島と大島が記録されているが、現状不明である[1]。白島では2011年に自生が再確認された。		
危機要因	遷移進行, 森林伐採		
分布情報	沖ノ島, 地島, 白島		
種の概要	沿海地の照葉樹林の林縁などに生える常緑のつる植物		
特記事項	玄海国定公園指定植物		

スイレン科		コウホネ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Nuphar japonica</i> DC.		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー	
選定理由	観賞用として植えたものが繁殖したと思われるような場所もある。自生地が限られているうえ、ため池などの改修により減少している。[1]		
危機要因	湖沼開発		
分布情報	北九州市小倉南区, 行橋市, 広川町, 川崎町, 宮若市(旧若宮町), 赤村		
種の概要	比較的浅い池, 沼地, ため池の流れ込みなどに生える多年草		
特記事項	特になし		

ウマノススクサ科		クロフネサイシン	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Asarum dimidiatum</i> F.Maek.		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	英彦山ではかつて同属の薬草で有名なウスバサイシンと間違われて採取され、絶滅したと思われる時期があったが、近年ようやく復活してきた。犬ヶ岳では1991年の台風19号でブナが倒れ、環境が変わったために絶滅した所がある。[1]		
危機要因	薬用採取		
分布情報	豊前市, 添田町, みやこ町(旧犀川町), 築上町(旧築城町)		
種の概要	林下のやや湿った所に生える多年草		
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物		

ウマノススクサ科		サンヨウアオイ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Asarum hexalobum</i> F.Maek.		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー	
選定理由	スギ・ヒノキ植林内, 常緑林内林縁に自生するが、群生することはない、個体数は少ない。[1]		
危機要因	森林伐採, 山地極限, 園芸採取		
分布情報	朝倉市(旧甘木市), 東峰村(旧小石原村, 旧宝珠山村), 八女市(旧上陽町)		
種の概要	暖温帯林の林内, 林縁などに生育する多年草。萼筒の外側に6列の膨出部があることで、ミヤコアオイと区別できる。		
特記事項	特になし		

モウセンゴケ科		モウセンゴケ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Drosera rotundifolia</i> L.		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー	
選定理由	県内では稀に見られ、日当たりのよい貧栄養な湿地や水の滴る崖斜面などに生育する。丘陵地の小湿地では、湿地の乾燥化や開発, 園芸用の採取などにより、個体数が減少、あるいは消滅した場所もある。[1]		
危機要因	湿地開発, 園芸採取		
分布情報	北九州市小倉南区, 苅田町, 行橋市, 小都市, 福岡市早良区など		
種の概要	日当たりの良い湿地に生える多年草で食虫植物		
特記事項	玄海, 北九州, 耶馬日田英彦山国定公園指定植物		

ケシ科	ホザキケマン	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Corydalis racemosa</i> (Thunb.) Pers.		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 一
選定理由	各自生地とも、個体数は少ない。道路沿いや人家脇では除草されることがあり、今後も減少の可能性がある。本県の産地は、分布の北限域である。[1]	
危機要因	道路工事, 産地局限	
分布情報	宗像市, 福津市(旧福岡町), 直方市, 久留米市ほか	
種の概要	人家の石垣などにも生育する二年草。黄色の花は1cm未満と小型である。	
特記事項	特になし	

アブラナ科	ワサビ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Eutrema japonicum</i> (Miq.) Koidz.		2001: 一, 環境省: 一
選定理由	筑後地方を除く各地に分布する(福岡県植物目録2)が、各生育地とも個体数の減少傾向が見られる。	
危機要因	森林伐採, 河川開発, 園芸採取	
分布情報	主に冷温帯林内の小流辺	
種の概要	溪流沿いや落葉樹林内の湿潤地に生育する多年草。早春に白い花が咲く。	
特記事項	特になし	

アブラナ科	コイヌガラシ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Rorippa cantoniensis</i> (Lour.) Ohwi		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	河川敷や春季に減水したため池の湿地にパッチ状に点々と群生する。乾田化, ため池の荒廃などが減少の要因である。[1]	
危機要因	湿地開発, 河川開発	
分布情報	福岡市, 遠賀川中～下流域, 上毛町(旧大平村), 久留米市(旧城島町)	
種の概要	水田周辺や水路周辺などの日当りの良い湿地に生育する一年草。花は葉腋に1つずつ着く点で、総状に着く同属他種と区別できる。	
特記事項	特になし	

ヘンケイソウ科	ウンゼンマンネグサ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Sedum polytrichoides</i> Hemsl.		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	希少な植物であるが、英彦山では1991年の台風以降、樹木が倒れたり枯れたりして日当たりが良くなったためか、岩上, 石垣, 石塔, 古い屋根上などに繁殖している。[1]	
危機要因	産地局限	
分布情報	添田町, 豊前市	
種の概要	日当りの良い岩場に生育する多年草	
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物	

ユキノシタ科	ウメバチソウ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Parnassia palustris</i> L. var. <i>palustris</i>		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 一
選定理由	群生している場所もあるが、草原の遷移や園芸用の採取により、個体数が減少している場所もある。[1]	
危機要因	園芸採取	
分布情報	平尾台や福智山地の二次草原, 山間部の水田隣接草地など。	
種の概要	山地のやや湿った草原に生える多年草	
特記事項	北九州, 耶馬日田英彦山国定公園指定植物	

ユキノシタ科		タコノアシ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Penthorum chinense</i> Pursh	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	河川敷の開発, 護岸工事, ため池の荒廃, 放棄水田の遷移により減少。[1]		
危機要因	河川開発, 海岸開発, 湿地開発		
分布情報	筑後川, 山国川, 北九州市のため池		
種の概要	低地の湿地や河川に生育する多年草。地下茎から株立ちし, 疎な集団を形成することがあるが, 同じ場所に長期に渡り生育することは少ないとも言われている。		
特記事項	特になし		

ユキノシタ科		クロクモソウ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Saxifraga fusca</i> Maxim. subsp. <i>kikubuki</i> (Ohwi) Kitam.	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 一
選定理由	英彦山地の1カ所だけに自生する希少な植物である。深山の溪流沿いの岩上の比較的広い範囲に分布し, 生育状況は良好である。園芸用採取により減少する可能性がある。[1]		
危機要因	園芸採取		
分布情報	豊前市		
種の概要	深山の沢沿いの岩上に生える小形の多年草		
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物		

バラ科		ヤマブキショウマ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Aruncus dioicus</i> (Walter) Fernald var. <i>kamtschaticus</i> (Maxim.) H.Hara	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 一
選定理由	分布が限られている上, 個体数が少ない。英彦山地, 脊振山地, 三郡山地などに自生している。[1]		
危機要因	産地局限, 遷移進行		
分布情報	福岡市早良区, 筑紫野市, 添田町		
種の概要	冷温帯林内の岩場の壁面に生えることの多い雌雄異株性の多年草。		
特記事項	特になし		

バラ科		ツチグリ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Potentilla discolor</i> Bunge	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 絶滅危惧ⅠB類
選定理由	1950年代初頭にはやや普通に生育していた種であるが, 1970年代中頃にはやや稀な植物となっていたようである。近年では, 二次草原の数カ所で生育が確認されているだけとなった。多数の個体が現存している生育地もあるが, 個体数は減少傾向にある生育地が多い。[1]		
危機要因	遷移進行, 草地開発		
分布情報	北九州市小倉南区, 香春町, 田川市		
種の概要	日当たりの良い草原に生育する多年草		
特記事項	特になし		

バラ科		モリイバラ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Rosa onoei</i> Makino var. <i>hakonensis</i> (Franch. et Sav.) H.Ohba	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 一
選定理由	石灰岩地の作業道沿い, 山地の林道沿い, 雑木林縁に自生するが, 今回の調査で確認した個体数は6株にすぎない。石灰岩地では石灰岩採掘により, 林道沿い, 雑木林縁では管理のための除草により, 減少する可能性が大である。本県ではもともと産地も個体数も少ない。[1]		
危機要因	産地局限, 石灰採掘		
分布情報	香春町, 添田町, みやこ町(旧犀川町)		
種の概要	山地に生える落葉低木。日本固有種。		
特記事項	特になし		

バラ科		イワガサ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Spiraea blumei</i> G.Don			2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー
選定理由	英彦山地の大規模な岩場の岩上や壁面で確認されている。自然災害による表土の剥落により減少した所がある。 [1]		
危機要因	自然災害, 遷移進行		
分布情報	添田町, 築上町(旧築城町), 豊前市		
種の概要	高さ1~1.5mの落葉小低木		
特記事項	特になし		
カタバミ科		コミヤマカタバミ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Oxalis acetosella</i> L.			2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー
選定理由	我が国では主に亜高山帯の針葉樹林下に生育する植物であるが, 本県では英彦山地と釈迦岳山地の上部夏緑樹林内の湿気が多い谷間にあつて岩上に生育するコケ類に混じって見られる。[1]		
危機要因	森林伐採		
分布情報	添田町, 八女市(旧矢部村)		
種の概要	冷温帯林の湿気が多い林床などに生育する多年草		
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物		
ニシキギ科		ヒゼンマユミ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Euonymus chibae</i> Makino			2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 絶滅危惧ⅠB類
選定理由	中央部南側の黄金谷付近では, 本種は亜高木層以下にやや高密度で出現している。大きいもので胸高直径20cm, 樹高12m程度の個体も見られる。『福岡県植物目録』(1952)には, 沖ノ島のほかに白島が産地として記録されているが, 現状不明である。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	沖ノ島		
種の概要	暖温帯~亜熱帯の海岸に近い林内に生える常緑中高木		
特記事項	特になし		
ツゲ科		ツゲ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Buxus microphylla</i> Siebold et Zucc. var. <i>japonica</i> (Müll.Arg. ex Miq.) Rehder et E.H.Wilson			2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー
選定理由	石灰岩地に限られる。香春岳では断崖に生育しており, 古処山では山頂一帯に群落を形成している。古処山はツゲの原生林として国の特別天然記念物に指定されている。[1]		
危機要因	産地局限, 石灰採掘		
分布情報	朝倉市(旧甘木市), 嘉麻市(旧嘉穂町), 香春町		
種の概要	県内では石灰岩地に生育する常緑低木		
特記事項	筑後川県立自然公園指定植物。国天然記念物(古処山のツゲ原始林), 県天然記念物(秋月のツゲ原始林)。別名アサマツゲ, オオヒメツゲ		
クロウメモドキ科		キビノクロウメモドキ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Rhamnus yoshinoi</i> Makino			2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	元来, 生育地が限られている植物で, 石灰岩地の数カ所で生育が確認されているだけである。いずれの生育地でも, 現存個体数は少ない。[1]		
危機要因	産地局限, 石灰採掘		
分布情報	北九州市小倉南区, 香春町, 福智町(旧方城町)		
種の概要	直立する低木性の落葉広葉樹		
特記事項	北九州国定公園, 筑豊県立自然公園指定植物		

アオイ科		ハマボウ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Hibiscus hamabo</i> Siebold et Zucc.		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー	
選定理由	雷山川下流の群生地が県内最大で、両岸約1kmの範囲にわたって生育している。河口域の開発や護岸工事により消滅した自生地もある。[1]		
危機要因	海岸開発		
分布情報	玄界灘から周防灘にかけて稀に見られる		
種の概要	河口や海岸の砂泥地に生育する落葉低木		
特記事項	玄海国定公園指定植物		
ジンチョウゲ科		オニシバリ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Daphne pseudomezereum</i> A.Gray		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー	
選定理由	石灰岩地の数カ所で生育が確認されているだけである。各生育地での個体数は少ないが、個体群密度の変化は小さいようである。このため、現生育地の面積が縮小したり、環境条件が大幅に改変されないなら、比較的安定して低密度の個体群が維持されていくものと思われる。[1]		
危機要因	産地局限, 石灰採掘		
分布情報	北九州市小倉南区, 香春町		
種の概要	暖温帯林の林内や林縁の石礫地に生育する雌雄異株の低木性落葉広葉樹		
特記事項	特になし		
スミレ科		シコクスミレ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Viola shikokiana</i> Makino		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー	
選定理由	夏緑樹林帯の標高800~1,100mの林下に生え、英彦山地, 釈迦岳山地, 福智山と分布が限られている。[1]		
危機要因	産地局限, 遷移進行		
分布情報	豊前市, 添田町, 福智町(旧赤池町), 八女市(旧矢部村)		
種の概要	冷温帯林の林床に生育する多年草。地下に細長い走出枝を出し、春季に白色の花を咲かせる。		
特記事項	北九州, 耶馬日田英彦山国定公園指定植物		
ミソハギ科		ミスマツバ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Rotala mexicana</i> Cham. et Schtdl.		2001: ー, 環境省: 絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	主に水田や湿地に生育する一年草で、耕作放棄による生育地の環境変化などによって数が減少している場所がある。		
危機要因	管理放棄, 遷移進行		
分布情報	東峰村(旧小石原村), みやこ町		
種の概要	高さ10cm程度の一年草		
特記事項	特になし		
セリ科		ヨロイグサ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Angelica dahurica</i> (Fisch.) Benth. et Hook.f. ex Franch. et Sav.		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー	
選定理由	かつては山地草原や林縁などに稀な植物であったが、最近では河川の土手に自生地を拡大しつつある。特に遠賀川水系で著しい。[1]		
危機要因	管理放棄, 遷移進行		
分布情報	北九州市小倉南区, 八幡西区, 中間市, 直方市, 飯塚市, 田川市, 小竹町, 嘉麻市(旧稲築町), 福智町(旧金田町)		
種の概要	大形の植物で茎は高さ2~3mになり、草原にあって一際目立つ。		
特記事項	別名オオシシウド		

セリ科		ミシマサイコ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Bupleurum scorzonerifolium</i> Willd.		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	1950年代初頭には普通に生育していたが、1970年代中頃にはやや稀な存在となっていたようである。近年でも多数の個体が現存している生育地も存在するが、開発や遷移の進行に伴う環境変化によって、本種が消滅した生育地や、個体数が減少傾向にある生育地が多い。[1]		
危機要因	草地開発, 遷移進行		
分布情報	篠栗町, 北九州市小倉南区, 香春町, 田川市		
種の概要	日当たりの良い草原などに生育する多年草		
特記事項	北九州国定公園指定植物		
イソマツ科		ハマサジ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Limonium tetragonum</i> (Thunb.) A.A.Bullock		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 準絶滅危惧	
選定理由	河口付近の砂州や塩湿地に生育する。フクド、シオクグと混生する所もある。河川改修, 港湾整備, 工業用地造成により生育地が減少している。[1]		
危機要因	海岸開発, 河川開発		
分布情報	福岡市, 糸島市, 北九州市, 苅田町, 行橋市, 築上町(旧椎田町), 豊前市, 吉富町		
種の概要	河口付近の砂州や塩湿地に生育する二年草。フクド, シオクグと混生する所もある。		
特記事項	特になし		
エゴノキ科		オオハアサガラ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Pterostyrax hispida</i> Siebold et Zucc.		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: —	
選定理由	英彦山などの限られた場所で少数の個体の生育が報告されていた[1]が、近年、犬ヶ岳で多数の個体が確認されている。林冠ギャップ内での新規実生の活発な加入・定着が確認されており、小規模な伐採なら個体群を維持できる可能性が考えられる。		
危機要因	森林伐採		
分布情報	英彦山地		
種の概要	冷温帯林の斜面や谷部に生育する亜高木性の落葉広葉樹。パイオニア的な種特性を持つ。		
特記事項	特になし		
モクセイ科		ミヤマイボタ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Ligustrum tschonoskii</i> Decne.		2001: 情報不足, 環境省: —	
選定理由	英彦山や釈迦岳のシオジが優占する溪谷林内に自生する。産地・個体数が限られている。		
危機要因	森林伐採, 自然災害		
分布情報	添田町, 八女市(旧矢部村)		
種の概要	冷温帯林の谷部に生育する落葉低木		
特記事項	特になし		
リンドウ科		リンドウ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Gentiana scabra</i> Bunge var. <i>buergeri</i> (Miq.) Maxim. ex Franch. et Sav.		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: —	
選定理由	二次草原, 山地稜線草地, 若齢二次林内や林縁, ため池堤防, 山地の水田畦畔などに生育する。自生地は県内全域に広く見られ、多数個体が生育している場所もあるが、開発行為, 草原の遷移, 園芸用の採取などにより個体数が減少, あるいは消滅した場所もある。[1]		
危機要因	遷移進行		
分布情報	県内各地の二次草原など		
種の概要	二次草原などに生育する多年草		
特記事項	玄海, 北九州, 耶馬日田英彦山国定公園指定植物		

リンドウ科		ムラサキセンブリ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Swertia pseudochinensis</i> H.Hara	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	山焼きや草刈りをしない放置された草地では遷移に伴って減少している。[1]		
危機要因	草地開発, 遷移進行, 管理放棄		
分布情報	北九州市小倉南区, 糸島市(旧前原市, 旧二丈町), 飯塚市, 田川市, 篠栗町, 飯塚市(旧庄内町), 香春町, 福智町(旧金田町)		
種の概要	草丈が低く日当りの良い二次草原などに生育する二年草		
特記事項	北九州, 耶馬日田英彦山国定公園指定植物		
ミツガシワ科		ガガバタ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Nymphoides indica</i> (L.) Kuntze	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	海岸, 丘陵地, 山間部の中栄養のため池から流水域の河川まで広範囲に分布する。流水域では稀である。生育する水域は最も種の多様性が豊かな所が多い。乾田化と開発による影響で, 水位変動がなくなり, ため池の荒廃, 水質汚濁により減少した。個体数が減少し1~2株と消滅に近い状態になっている所もある。[1]		
危機要因	ため池改修, 河川開発, 管理放棄, 水質汚濁		
分布情報	北九州市, 行橋市, みやこ町(旧勝山町), 築上町(旧築城町), 上毛町(旧新吉富村, 旧大平村)		
種の概要	浮葉生の多年草		
特記事項	特になし		
ガガイモ科		フナバラソウ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Vincetoxicum atratum</i> (Bunge) C.Morren et Decne.	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	山地草原に比較的広く分布しているが個体数は少ない。近年, 草原の遷移に伴う高茎草本の繁茂により減少している。山焼きや草刈りを行い, 草地を維持することが本種の保全には有効。[1]		
危機要因	遷移進行, 草地開発		
分布情報	北九州市小倉南区, 若松区, 太宰府市, 田川市, 福智町(旧金田町)		
種の概要	二次草原などに生育地とする多年草		
特記事項	特になし		
ガガイモ科		イヨカズラ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Vincetoxicum japonicum</i> C.Morren et Decne.	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 一
選定理由	県内では小呂島が唯一の自生地であり, 品種クロバナイヨカズラ(forma <i>puncticulatum</i>)と混生している場合が多い。小呂島では, クロマツ林内および林縁, 北部のハチジョウススキ草原などに見られる。場所によっては高密度で出現し, 個体数は多い。[1]		
危機要因	産地局限, 遷移進行		
分布情報	福岡市西区小呂島		
種の概要	海岸に近い草地や疎林に生える多年草		
特記事項	特になし		
ガガイモ科		ツクンガシワ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Vincetoxicum macrophyllum</i> Siebold et Zucc.	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 一
選定理由	上部山地の林下, 林縁にあって小群落を形成していることが多い。自生地が限られている上, 個体数が少ない。[1]		
危機要因	産地局限, 森林伐採		
分布情報	福岡市早良区, 豊前市, 嘉麻市(旧嘉穂町), 添田町, 築上町(旧築城町)		
種の概要	温帯林のやや湿った林床や林縁に生育する多年草		
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物		

ガガイモ科		スズサイコ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Vincetoxicum pycnostelma</i> Kitag.	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	二次草原, 山地稜線草地, 山地の水田畦畔などに生育する。自生地は県内各地に広く見られ, 10~20 個体程度がまとまって生育している場所が多く, 結実個体も比較的多い。しかし, 開発行為, 草原の遷移などにより, 個体数が減少している場所もある。[1]		
危機要因	遷移進行, 草地開発		
分布情報	県内各地の草地		
種の概要	日当たりの良い草原に生える多年草		
特記事項	北九州国定公園指定植物		

アカネ科		イナモリソウ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Pseudopyxis depressa</i> Miq.	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 一
選定理由	登山道周辺や稜線上で, 明るく, 比較的落葉の少ない所を好む。照葉樹林帯上部から夏緑樹林帯にかけて生育するが稀。環境の変化や園芸用採取により減少した。[1]		
危機要因	園芸採取, 遷移進行		
分布情報	北九州市小倉南区, 添田町, 福智町(旧赤池町), 八女市(旧矢部村), 脊振山地		
種の概要	登山道周辺や稜線上のような, 明るく, 比較的落葉の少ない所を好む多年草		
特記事項	特になし		

シソ科		マネキグサ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Loxocalyx ambiguus</i> (Makino) Makino	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	現存が確認されている県内の産地は 1 カ所のみであるが, 個体数は比較的多い。福智山や香春岳の記録があるが未確認。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	香春町		
種の概要	石灰岩地のよく茂った林下, 林縁に生える多年草		
特記事項	北九州国定公園指定植物		

シソ科		キセワタ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Leonurus macranthus</i> Maxim.	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	自生地は県内に点々と見られるが, 開発行為, 草原の遷移などにより個体数が減少している場所があり, 中には消滅した場所もある。[1]		
危機要因	道路工事, 遷移進行, 管理放棄		
分布情報	県内各地の草地		
種の概要	二次草原, 山地稜線草地, 林縁などに生育する多年草		
特記事項	特になし		

ゴマノハグサ科		ゴマノハグサ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Scrophularia buergeriana</i> Miq.	2001: 一, 環境省: 絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	山地草原に生育する。平尾台に見られるが自生地が限られている。		
危機要因	遷移進行, 植生変化, 石灰採掘		
分布情報	平尾台		
種の概要	直立する茎を持つ中型~大型の多年草。葉は対生, 長卵形で鋸歯がある。茎の先が穂状の花序となり, 淡緑色の花を密につける。		
特記事項	特になし		

ゴマノハグサ科		ヒナノウスツボ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Scrophularia duplicatoserrata</i> (Miq.) Makino	2001: ー, 環境省: ー
選定理由	山地の落葉林内の適湿な陰地～半陰地に生育する。自生地が限られている。		
危機要因	森林伐採, シカ増加		
分布情報	犬ヶ岳, 英彦山地, 古処山		
種の概要	高さ数十センチの分岐する茎を持つ多年草。葉は対生, 長卵形で先は尖る。茎の先がまばらな円錐花序となる。花柄は腺毛を密生する。花冠は壺形で, 上半が茶色, 下半が淡緑色に塗り分けられる。		
特記事項	特になし		
ゴマノハグサ科		オオヒナノウスツボ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Scrophularia kakudensis</i> Franch.	2001: ー, 環境省: ー
選定理由	日当たりの良い山地の林縁や草地に生育する。自生地が限られている。		
危機要因	遷移進行, 産地局限		
分布情報	太宰府市, 福岡市早良区, 古処山, 上広川, 糸島市		
種の概要	大型の多年草。葉は対生, 長卵形で先は尖る。茎の先が円錐花序となり, 暗紅紫色で壺形の小さな花をつける。		
特記事項	特になし		
タヌキモ科		ホザキノミミカキグサ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Utricularia caerulea</i> L.	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー
選定理由	山間, 丘陵地の湧水が入る湿原やため池の谷頭部にできた湿地に生育する。ほかのミミカキグサ類と混生する所もある。[1]		
危機要因	湿地開発, 遷移進行, 管理放棄		
分布情報	行橋市, 荻田町, 上毛町(旧大平村)		
種の概要	地下茎を伸ばし捕虫囊をつける多年生の食虫植物		
特記事項	北九州国定公園指定植物		
タヌキモ科		ムラサキミミカキグサ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Utricularia uliginosa</i> Vahl	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	山間, 丘陵地の湧水の入り込む谷湿原, 放棄田の湿地部分にほかの貧栄養植物とともに生育する。近年, 限られた生育地にしか見られなくなった。過度の踏圧や遷移による湿原の陸地化により減少。日本固有種。[1]		
危機要因	湿地開発, 遷移進行, 管理放棄, 踏みつけ		
分布情報	行橋市, 荻田町, 上毛町(旧大平村), 嘉麻市(旧嘉穂町)。ほかにみやこ町(旧犀川町)に記録があった。		
種の概要	小形の多年草。地下茎にまばらに捕虫囊をつける食虫植物。		
特記事項	北九州国定公園指定植物		
オオバコ科		トウオオバコ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Plantago japonica</i> Franch. et Sav.	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー
選定理由	県内では小呂島, 沖ノ島, 相島などの玄界灘の島嶼および本土側の沿岸に稀に自生している。海岸の開発などにより個体数が減少している場所もある。[1]		
危機要因	海岸開発		
分布情報	小呂島, 沖ノ島, 相島		
種の概要	海岸近くの草地に生える多年草		
特記事項	特になし		

スイカスラ科		チョウジガマズミ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Viburnum carlesii</i> Hemsl. var. <i>bitchiuense</i> (Makino) Nakai	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	かつてより生育地が限定されている植物で、近年は数カ所の石灰岩地で生育が確認されているだけである。各生育地での現存個体数も少ない。実生や稚樹が比較的多数観察されている生育地もあり、個体群は低密度ながら安定して維持されている可能性がある。[1]		
危機要因	産地局限, 石灰採掘		
分布情報	北九州市小倉南区, 香春町		
種の概要	主に岩礫地に生育する低木性の落葉広葉樹		
特記事項	北九州国定公園指定植物		
スイカスラ科		イワツクバネウツギ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Zabelia integrifolia</i> (Koidz.) Makino ex Ikuse et S.Kuros.	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	生育地は数カ所の石灰岩地の岩角地に限られるが、それら生育地の多くでは、個体数密度の変化は小さいようである。		
危機要因	産地局限, 石灰採掘		
分布情報	北九州市小倉南区		
種の概要	石灰岩地帯の岩角地に生育する落葉低木。樹皮に明らかな溝があるため、ツクバネウツギ属の種と区別できる。		
特記事項	北九州国定公園, 筑豊県立自然公園指定植物		
キキョウ科		サワギキョウ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Lobelia sessilifolia</i> Lamb.	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 一
選定理由	推定現存個体数は 500 株以下である。生育地は谷間の湿地で、稀には廃田にも自生するが、植生遷移や開発による生育地の減少や廃田の乾燥化などで減少している。今後も減少の可能性は大である。[1]		
危機要因	湿地開発, 遷移進行, 乾田化		
分布情報	筑紫野市, 宇美町, 北九州市, 嘉麻市(旧嘉穂町)ほか		
種の概要	山間の湿地に生える多年草		
特記事項	北九州, 耶馬日田英彦山国定公園指定植物		
キキョウ科		キキョウ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Platycodon grandiflorus</i> (Jacq.) A.DC.	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	二次草原, 若齢二次林内や林縁, ため池堤防などに生育する。自生地は県内各地に点々と見られ、群生している場所もある。その一方で、開発行為, 草原の遷移, 園芸用の採取などにより消滅した場所も多い。[1]		
危機要因	草地開発, 遷移進行		
分布情報	北九州市小倉南区ほか		
種の概要	日当たりの良い草原に生える多年草		
特記事項	北九州, 耶馬日田英彦山国定公園指定植物		
キク科		フクド	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Artemisia fukudo</i> Makino	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	瑞梅寺川や祓川河口の塩湿地などでは群生し、開花個体も多い。その一方で、埋立, 護岸工事などにより消滅した場所もある。		
危機要因	海岸開発		
分布情報	県内では玄界灘, 周防灘, 有明海の河口域に点々と見られる。		
種の概要	河口付近の塩湿地に生える二年草		
特記事項	特になし		

キク科	オグルマ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Inula britannica</i> L. subsp. <i>japonica</i> (Thunb.) Kitam.		2001: 情報不足, 環境省: 一
選定理由	1960年代には低地の草原や田の畔にやや普通に生育していた(吉岡, 1964)。平尾台では近年も生育が確認されているが, 1,000以上の開花個体はないと推定される。他地点での状況は不明である。	
危機要因	管理放棄, 遷移進行	
分布情報	北九州市小倉南区。福岡市中央区九州大学六本松キャンパス跡地でも工事中の2010年に確認された。	
種の概要	6月下旬~10月にかけて開花する多年草。主に湿地や川岸などに生育するが, 県内では二次草原にも分布する。ホソバオグルマと似ているが, 茎葉が広く, 頭花も大きい。	
特記事項	特になし	

キク科	カセンソウ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Inula salicina</i> L. var. <i>asiatica</i> Kitam.		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 一
選定理由	元来, 生育地の少ない植物で, 1950年代初頭にも稀な植物として扱われている。近年は, 石灰岩地などに数カ所の生育地が確認されているだけである。ほとんどの生育地ではごく少数の個体しか残存していない。[1]	
危機要因	産地局限	
分布情報	北九州市小倉南区, 香春町	
種の概要	日当たりの良い場所を好む多年草。湿地を好むとされているが, 県内では平野部や石灰岩地の二次草原が主要な生育地である。	
特記事項	特になし	

キク科	タカサゴソウ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Ixeris chinensis</i> (Thunb.) Nakai subsp. <i>strigosa</i> (H.Lév. et Vaniot) Kitam.		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	1950年代初頭には路傍や林縁部などに普通に生育していたが, 1970年代中頃には稀な植物となっていたようである。近年では, 二次草原に数カ所の生育地が確認されているだけとなった。比較的多数の個体が現存している生育地もあるが, 個体数が減少傾向にある生育地がほとんどである。[1]	
危機要因	産地局限	
分布情報	北九州市小倉南区, 香春町	
種の概要	日当たりの良い草原などに生育する多年草	
特記事項	北九州国定公園指定植物	

キク科	ニシノヤマタイミンガサ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Parasenecio yatabei</i> (Matsum. et Koidz.) H.Koyama var. <i>occidentalis</i> (F. Maek. ex Kitam.) H.Koyama		2001: 準絶滅危惧, 環境省: 一
選定理由	比較的限られた場所に稀に生育する植物である[1]うえ, 近年, シカの被食圧を受け, 個体数が減少傾向にある。	
危機要因	シカ増加	
分布情報	英彦山地, 脊振山地, 釈迦岳山地	
種の概要	主に冷温帯林の林床に生育する多年草	
特記事項	特になし	

キク科	フクオウソウ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Prenanthes acerifolia</i> (Maxim.) Matsum.		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 一
選定理由	英彦山地と釈迦岳山地に分布の限られた植物である。山地では夏緑樹林帯下部から上部まで分布範囲は比較的広い。英彦山では大きく2カ所に分布しており, 大規模な壁面や崖下に散生した所と, 登山道端にまとまって見られる所とがある。[1]	
危機要因	産地局限	
分布情報	添田町, 八女市(旧矢部村)	
種の概要	冷温帯林の林床に生育する多年草。葉柄には翼がある。8~9月に長い雄しべの目立つ紫白色の花を着ける。	
特記事項	特になし	

キク科	ヒメヒゴタイ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Saussurea pulchella</i> (Fisch. ex Hornem.) Fisch.		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	1950年代初頭にはやや普通に見られたが、1970年代中頃には稀な植物となっていたようである。近年、生育地数は減少したが、多数の個体が現存している生育地も比較的多い。[1]	
危機要因	産地局限	
分布情報	北九州市小倉南区, 田川市, 香春町	
種の概要	日当たりの良い草原に生育する多年草。県内では二次草原のほか、池の縁に成立した湿性草原にも稀に生育している。	
特記事項	北九州国定公園指定植物	

トチカガミ科	セキシウモ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Vallisneria natans</i> (Lour.) H.Hara		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 一
選定理由	ため池、水路に生育する。ため池の荒廃や水質の汚濁、埋立により減少した。柳川市周辺の水路では、どぶ状態になって、本種を含む多くの水草は一旦失われかけた。住民と行政との協力で、水路の清掃や矢部川から清流を引くなどの努力がなされ、多くの水草がよみがえった。[1]	
危機要因	ため池改修, 管理放棄, 水質汚濁	
分布情報	柳川市	
種の概要	ため池や水路などに生育する沈水性の多年草。葉の先端部には鋸歯があり、ミクリ属とは異なる。	
特記事項	特になし	

ユリ科	アマナ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Amana edulis</i> (Miq.) Honda		2001: 一, 環境省: 一
選定理由	圃場整備, 遷移の進行, 河川敷の乾燥化に伴って減少傾向にある。	
危機要因	園芸採取, 水路改修, 土地造成, 管理放棄	
分布情報	県内各地	
種の概要	田畑の畦や河川敷, 丘陵地の草地や落葉樹林など, 日当たりが良く, 適湿・肥沃な場所で早春に開花する多年草。地下の鱗茎から細長い葉が2枚と花茎が伸びる。	
特記事項	特になし	

ユリ科	ハマタマボウキ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Asparagus kiusiamus</i> Makino		2001: 一, 環境省: 絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	海岸の人工的改変やクロマツ林の遷移などが潜在的な危機要因となっている。	
危機要因	海岸開発, 園芸採取, 遷移進行	
分布情報	糸島市, 福岡市西区, 福津市	
種の概要	海岸に生える多年草。さかんに分枝する。葉は鱗片状で, 短い茎(葉状枝)が葉の役を果たす。葉状枝は湾曲せず, 数本が固まってつく。	
特記事項	特になし	

ユリ科	シライソウ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Chionographis japonica</i> Maxim.		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 一
選定理由	県内では稀な植物で, 古処山地, 筑豊西地区の山間部など, 限られた地域に見られる。[1]	
危機要因	産地局限	
分布情報	古処山地, 筑豊西地区の山間部	
種の概要	山地の林床に生える多年草。生育地は, 溪流に近いやや湿った落葉林内やスギ植林内であり, 群生している場所もある。	
特記事項	特になし	

ユリ科		ハイケイソウ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Veratrum album</i> L. subsp. <i>oxysepalum</i> (Turcz.) Hultén	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー
選定理由	福岡市早良区, 八女市(旧星野村, 旧矢部村)に 8 カ所の記録および標本産地があり, 福岡市, 八女市(旧星野村)の 5 カ所では再確認されたが, ほかの 3 カ所では現状不明である。本県では自生地も個体数も少数である。土石流で消滅した自生地もあり, 伐採による減少の懸念もある。[1]		
危機要因	森林伐採, 自然災害		
分布情報	福岡市早良区, 八女市(旧星野村)		
種の概要	山地の落葉林内, ヒノキ林内で群生する多年草		
特記事項	矢部川県立自然公園指定植物		
ビャクフ科		ヒメナベワリ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Croomia japonica</i> Miq.	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー
選定理由	英彦山地, 福智山地, 脊振山地, 古処山地などにあるが, いずれの地も個体数は少ない。[1]		
危機要因	園芸採取		
分布情報	豊前市, みやこ町(旧犀川町), 直方市, 嘉麻市(旧嘉穂町), 福智町(旧赤池町), 八女市(旧矢部村)		
種の概要	夏緑樹林帯の比較的開けた林下に生育している多年草		
特記事項	北九州, 耶馬日田英彦山国定公園指定植物		
イグサ科		ヒメコウガイゼキショウ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Juncus bufonius</i> L.	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー
選定理由	ため池や水田に生育する。全国的には広範囲に分布するが, 県内の生育地は少ない。冬に成長し, 早春に開花するため, 冬に湿り気のある環境に生育する。ため池改修による水位上昇や, 水田の乾田化のために, 生育地・個体数が大きく減少した。		
危機要因	湿地開発, 乾田化		
分布情報	福岡市西区, 糸島市志摩町, 荻田町など		
種の概要	ため池周辺の湿地, 冬季湛水水田などに生育する。一年草であり茎に葉をつける点で類似種と異なる。		
特記事項	特になし		
ホシクサ科		ツクシクロイヌハゲ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Eriocaulon kiusianum</i> Maxim.	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	乾田化, ため池の荒廃により減少。[1]		
危機要因	乾田化, 管理放棄		
分布情報	北九州市若松区, 小倉南区, 門司区, 行橋市, 築上町(旧築城町), 上毛町(旧新吉富村, 旧大平村), 豊前市, 久留米市		
種の概要	秋季に攪乱のあるため池で, 日当たりの良い湿地に生育する。一年草。		
特記事項	特になし		
イネ科		ヒナザサ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Coelachne japonica</i> Hack.	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー
選定理由	環境の破壊とため池の荒廃により生育地が減少している。[1]		
危機要因	湿地開発, 管理放棄		
分布情報	福岡市, 八女市(旧黒木町), 北九州市, みやこ町(旧犀川町)。		
種の概要	山麓, 池の縁などの湿地に生育する。		
特記事項	特になし		

イネ科		ハイチゴザサ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Isachne nipponensis</i> Ohwi	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー
選定理由	乱開発, 護岸工事などによる自生地の消滅。[1]		
危機要因	湿地開発		
分布情報	福岡市, 八女市(旧黒木町), 北九州市若松区。		
種の概要	山麓の湿地や池の縁などに生育する。		
特記事項	特になし		
イネ科		チョウセンガリヤス	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Kengia hackelii</i> (Honda) J.G.Packer	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー
選定理由	現在, 目立った減少傾向は見られないが, もともと厳しい環境に生育しているため, わずかの攪乱によってもすぐに衰退する。[1]		
危機要因	産地局限		
分布情報	福智町(旧方城町), 香春町		
種の概要	石灰岩の岩礫地, 海岸の岩場や砂地などに生育している。		
特記事項	特になし		
イネ科		ハマガヤ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Leptochloa fusca</i> (L.) Kunth	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー
選定理由	人工物に覆われるか, 自然植生の回復により減少する。[1]		
危機要因	海岸開発		
分布情報	北九州市若松区		
種の概要	河口周辺や海岸の埋立地などに大発生するため, 帰化植物の可能性もある。		
特記事項	特になし		
イネ科		ハマニンニク	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Leymus mollis</i> (Trin. ex Spreng.) Pilg.	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー
選定理由	海岸近くまで人家が迫り, ゴミの散乱, 海岸の汚染が本種の生育を圧迫している。[1]		
危機要因	海岸開発		
分布情報	福岡市東区の海岸にのみ自生し, ここが分布の南限である。		
種の概要	海岸の砂地に太い根茎を引いて大群落をつくる。		
特記事項	別名テンキグサ		
イネ科		コササキビ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Setaria plicata</i> (Lam.) T.Cooke	2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー
選定理由	道路整備などによる自生地の攪乱, 除草作業などが減少の原因。[1]		
危機要因	道路工事		
分布情報	福岡市, みやま市(旧瀬高町), 福岡市西区玄界島。なお, 玄界島は分布の北限である。		
種の概要	暖地の林縁, 疎林内および海岸草地に生育する。		
特記事項	矢部川県立自然公園指定植物		

サトイモ科

ツクシマムシグサ

絶滅危惧Ⅱ類

Arisaema maximowiczii Nakai

2001: Ⅰ, 環境省: Ⅰ

選定理由	県内のブナ林に点在する。自生地の環境に大きな変化がない場所でも、個体数が減少傾向にある。通販ショップなどで販売されており、園芸採取が主要な減少要因と考えられる。
危機要因	園芸採取
分布情報	豊前市, 添田町, 八女市(旧矢部村), 福岡市, 前原市
種の概要	夏緑樹林の林床に生える多年草
特記事項	特になし

ガマ科

コガマ

絶滅危惧Ⅱ類

Typha orientalis C.Presl

2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: Ⅰ

選定理由	4カ所の標本産地(那珂川町, 宗像市, 旧玄海町, 旧黒木町)のうち, 現存が確認されたのは宗像市(旧玄海町)だけで, ほかの3カ所では現状不明である。このほか福岡市西区に生育地がある。本県ではもともと自生地も個体数も少数であったが, 湿地の開発や植生遷移のために減少している。[1]
危機要因	湿地開発, 遷移進行
分布情報	福岡市, 那珂川町, 宗像市, 八女市(旧黒木町)
種の概要	湿地, ため池, 休耕田などに生育する多年草
特記事項	特になし

カヤツリグサ科

イセウキヤガラ

絶滅危惧Ⅱ類

Bolboschoenus planiculmis (F.Schmidt) T.V.Egorova

2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: Ⅰ

選定理由	有明海に流入する筑後川の河口近くの塩生湿地(干潟)に生育地が限定されている。河川の改修工事等により, 大幅に減少あるいは消滅する可能性がある。本県は本種の分布の南限域である。[1]
危機要因	河川開発, 海岸開発
分布情報	大川市, 柳川市
種の概要	塩性湿地に生育する多年草
特記事項	特になし

カヤツリグサ科

ダイセンスゲ

絶滅危惧Ⅱ類

Carex daisenensis Nakai

2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: Ⅰ

選定理由	急激な減少は見られないが, 南限植物として貴重な種である。[1]
危機要因	産地局限
分布情報	北九州市の数カ所にのみ自生し, この地域が分布の南限となっている。
種の概要	山地の林内, 林縁に生える多年草
特記事項	特になし

カヤツリグサ科

ツクシナルコ

絶滅危惧Ⅱ類

Carex subcernua Ohwi

2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由	護岸工事, 池の水位調節の放棄などが, 減少の原因。保全のためには, 池の水位に留意し, 急に水深が深くなるような護岸工事を避けるなどの注意が必要である。[1]
危機要因	管理放棄
分布情報	福岡市, 宗像市, 北九州市八幡区, 若松区, 上毛町(旧新吉富村)。
種の概要	池の縁などの水湿地に大きな株をつかって生育するが, 水位が植物体の半分以上に増えても, 完全に干上がっても育ちにくい。
特記事項	特になし

カヤツリグサ科	ノグサ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Schoenus apogon</i> Roem. et Schult.		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 一
選定理由	現存産地は丘陵地の尾根上の陽地で、芝生のように群生し、小道沿いにも点在する。自生地は野外活動に利用され、踏みつけにもあっているが、丈の高い草や灌木は侵入しないように管理されている。[1]	
危機要因	踏みつけ	
分布情報	篠栗町、三郡山に4カ所の標本産地があるが、現存するのは篠栗町の1カ所	
種の概要	日当たりの良い所に生える一年草	
特記事項	特になし	

ラン科	マメツタラン	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Bulbophyllum drymoglossum</i> Maxim. ex Okubo		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	県内では山地の岩上または樹幹に稀に見られ、岩上50×50cm程度に群生している場所もある。森林伐採や園芸用の採取により、個体数が減少している場所もある。[1]	
危機要因	森林伐採、園芸採取、産地局限	
分布情報	英彦山地、八女市(旧星野村)	
種の概要	樹幹や岩上に着生する常緑の多年草	
特記事項	北九州、耶馬日田英彦山国定公園、筑豊県立自然公園指定植物	

ラン科	エビネ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Calanthe discolor</i> Lindl.		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	1970年代後半のエビネブームの頃に乱獲されて絶滅状態になっていたが、徐々に回復してきた。[1]	
危機要因	園芸採取、乱獲	
分布情報	県内各地の山地、丘陵	
種の概要	海岸林から夏緑樹林帯中部まで広く分布している多年草	
特記事項	玄海、北九州、耶馬日田英彦山国定公園、筑後川県立自然公園指定植物	

ラン科	ギンラン	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Cephalanthera erecta</i> (Thunb.) Blume		2001: 一, 環境省: 一
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)では「やや稀」、『福岡県植物誌』(1976)では「稀」とされ、現在でも稀な植物である。里山の草地や明るい林が減少したことに伴い、激減した。	
危機要因	遷移進行、産地局限	
分布情報	北九州市、福岡市	
種の概要	常緑広葉樹二次林の林床や、二次草原に生育する多年草	
特記事項	玄海、北九州、耶馬日田英彦山国定公園指定植物	

ラン科	キンラン	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Cephalanthera falcata</i> (Thunb.) Blume		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)では「やや普通」、『福岡県植物誌』(1975)では「やや稀」とされているが、現在では稀な植物となっている。里山の草地や明るい林が減少したことに伴い、激減した。	
危機要因	遷移進行、産地局限	
分布情報	北九州市小倉北区、南区、添田町、福智町(旧金田町)	
種の概要	常緑広葉樹二次林の林床や、二次草原に生育する多年草	
特記事項	玄海、北九州、耶馬日田英彦山国定公園指定植物	

ラン科	セッコク	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Dendrobium moniliforme</i> (L.) Sw.		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: ー
選定理由	古くから観賞用に栽培されてきた植物であるため採取されることが多く、減少している。[1]	
危機要因	園芸採取	
分布情報	豊前市, 太宰府市, 添田町, 那珂川町, みやこ町(旧犀川町), 東峰村(旧宝珠山村), 上毛町(旧大平村), 八女市(旧矢部村)	
種の概要	大規模な崖地でイワヒバの生えるような環境にあることが多い。また、樹上に着生することもある。	
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物	
ラン科	タシロラン	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Epipogium roseum</i> (D.Don) Lindl.		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	北九州地域はゴルフ場内の常緑広葉樹が優占する二次林下, 南筑後は小さな神社の境内の常緑広葉樹林下である。どちらも年によって10~200個体と個体数の変動が激しい。[1] 福岡市西区では、保全緑地内に自生しているが、個体数は50未満である。	
危機要因	気候変動	
分布情報	福岡市西区, 北九州地区, 南筑後地区	
種の概要	常緑林下に自生する腐生植物で全体が黄白色を呈する。	
特記事項	特になし	
ラン科	アケボノシュスラン	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Goodyera foliosa</i> (Lindl.) Benth. ex C.B.Clarke var. <i>laevis</i> Finet		2001: ー, 環境省: ー
選定理由	県内10地点で記録されているが、現存が確認されているのは2地点だけである。	
危機要因	園芸採取, 遷移進行, シカ増加	
分布情報	北九州市, 添田町	
種の概要	暖温帯林~冷温帯林の林床に生育する多年草。花序に柄がなく茎に接していることでシュスランなどの類似種と区別できる。	
特記事項	耶馬日田英彦山国定公園指定植物	
ラン科	ムカゴソウ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Herminium lanceum</i> (Thunb. ex Sw.) J.Vuijk		2001: ー, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)では「やや普通」, 『福岡県植物誌』(1975)では「やや稀」とされているが、草地・草原の減少とともにごく稀な植物となった。今回の調査では北九州市で確認したが、個体数は50個体未満である。	
危機要因	遷移進行, 草地開発, 園芸採取	
分布情報	北九州市	
種の概要	湿った草原に生育する多年草。淡緑色の花が穂状に密につく。葉の幅は1cm程度と細いため、外見の似たトンボソウなどと区別できる。	
特記事項	特になし	
ラン科	クモキリソウ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Liparis kumokiri</i> F.Maek.		2001: ー, 環境省: ー
選定理由	県内の落葉林内に点在する。どの自生地でも個体数は少ない。	
危機要因	園芸採取, 遷移進行	
分布情報	北九州市, 福智山, 犬ヶ岳, 釈迦岳, 糸島市	
種の概要	暖温帯林の林床に生育する多年草。通常2枚の葉をつける。唇弁が中央で反曲することで、類似種のジガバチソウと区別できる。	
特記事項	北九州, 耶馬日田英彦山国定公園, 矢部川県立自然公園指定植物	

ラン科	ポウラン	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Luisia teres</i> (Thunb.) Blume		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 準絶滅危惧
選定理由	海に近い地域の主にクスノキに着生するランであるが、クロマツに着生している例もある。内陸の添田町や嘉麻市(旧嘉穂町)でもクスノキへの着生がある。[1]	
危機要因	産地局限	
分布情報	宗像市(旧玄海町), 岡垣町, 添田町, 嘉麻市(旧嘉穂町)	
種の概要	葉は多肉質の棒状で夏に黄緑色の花をつける。紀伊半島や四国にも分布するが、本県は北限域である。	
特記事項	玄海, 耶馬日田英彦山国定公園指定植物	

ラン科	コケイラン	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Oreorchis patens</i> (Lindl.) Lindl.		2001: 一, 環境省: 一
選定理由	県内の落葉林内に点在する。どの自生地でも個体数は少ない。	
危機要因	園芸採取, 遷移進行	
分布情報	北九州市, 福智山, 添田町, 福岡市, 糸島市	
種の概要	温帯林のやや湿った林床に生育する多年草。先端の尖る細い葉を1~2枚つける。	
特記事項	北九州国定公園指定植物	

ヒノキ科	ヒノキ	準絶滅危惧
<i>Chamaecyparis obtusa</i> (Siebold et Zucc.) Endl.		2001: 情報不足, 環境省: 一
選定理由	広く植林されているが、自生のものは英彦山などに限られている。	
分布情報	添田町	

ヒノキ科	ネスミサシ	準絶滅危惧
<i>Juniperus rigida</i> Siebold et Zucc.		2001: 一, 環境省: 一
選定理由	日当たりの良い岩石地などに自生する針葉樹。篠栗町ほかで記録されている(福岡植物研究会, 1993)。2010年には田川市で確認した。	
分布情報	田川市, 篠栗町, 上毛町, 築上町, 東峰村, 八女市, うきは市, 太宰府市ほか	

ヤナギ科	ノヤナギ	準絶滅危惧
<i>Salix subopposita</i> Miq.		2001: 情報不足, 環境省: 一
選定理由	山地草原, 特に野焼き草地に分布。糸島市雷山や脊振山系では生育地が消滅した。	
分布情報	上毛町(旧大平村), 北九州市八幡東区, 小倉南区, 香春町, 福智町(旧方城町), 東峰村, 八女市(旧星野村), 飯塚市(旧筑穂町, 旧嘉穂町), 筑前町(旧夜須町), 糸島市(旧二丈町), 福岡市早良区,	

イラクサ科	クサコアカソ	準絶滅危惧
<i>Boehmeria gracilis</i> C.H. Wright		2001: 絶滅危惧ⅡB類, 環境省: 一
選定理由	脊振山地で記録されている。生育環境は山地の落葉林内, スギ林内, 溪流沿いなどで、本県ではもともと自生地も個体数も少数である。林道の開設による自生環境の破壊が懸念される。[1]	
分布情報	福岡市早良区, 糸島市(旧前原市)	

イラクサ科	アカソ	準絶滅危惧
<i>Boehmeria silvestrii</i> (Pamp.) W.T. Wang		2001: 絶滅危惧Ⅱ類, 環境省: 一
選定理由	山地の林道沿い, スギ林内林縁, 伐採跡地に自生する。生育地はやや日当たりの良い場所で、林道の新設や維持管理で消失することもある。本県ではもともと自生地も個体数も少数であり、分布の南限域である。[1]	
分布情報	福岡市早良区, 糸島市(旧前原市, 旧二丈町)	

タデ科		ヒメタデ	準絶滅危惧
		<i>Persicaria erectominor</i> (Makino) Nakai	2001:一, 環境省:絶滅危惧II類
選定理由	元来, 生育地および生育個体数の非常に少ない植物である(福岡植物研究会, 1993)。近年, 主要な生育地である平地の湿地が開発や管理不足で変質している場合があり, 個体数が減少傾向にあるものと推測される。		
分布情報	豊前市, 筑紫野市, 筑後市, 春日市, 福津市(旧福岡町)		
タデ科		ナガハノウナギツカミ	準絶滅危惧
		<i>Persicaria hastatosagittata</i> (Makino) Nakai	2001:一, 環境省:準絶滅危惧
選定理由	元来, 生育地の限られていた植物である(福岡植物研究会, 1993)。近年, 生育地の一つである平地の湿地が開発や管理不足で変質している場合があり, 個体数が減少傾向にあるものと推測される。		
分布情報	北九州市, 宇美町, 小郡市, 筑前町(旧三輪町), 広川町, 久留米市, 筑後市など		
タデ科		ウナギツカミ	準絶滅危惧
		<i>Persicaria sagittata</i> (L.) H.Gross var. <i>sibirica</i> (Meisn.) Miyabe f. <i>aestiva</i> (Ohki) H.Hara	2001:一, 環境省:一
選定理由	元来, 生育地に限られていた上, 生育個体数も少なかった(福岡植物研究会, 1993)。近年, 主要な生育地である平地の湿地が開発や管理不足で変質している場合があり, 個体数が減少傾向にあるものと推測される。		
分布情報	北九州市, 宗像市, 小郡市, 筑紫野市, 久留米市		
タデ科		シマヒメタデ	準絶滅危惧
		<i>Persicaria tenella</i> (Blume) H.Hara var. <i>kawagoeana</i> (Makino) H.Hara	2001:一, 環境省:一
選定理由	元来, 生育地および生育個体数の極めて少ない植物である(福岡植物研究会, 1993)。既知の生育地における近年の生育状況は不明であり, 新たな調査が望まれる。		
分布情報	上毛町(旧太平村), 福岡市東区, 大野城市, 筑後市など		
タデ科		ネバリタデ	準絶滅危惧
		<i>Persicaria viscofera</i> (Makino) H.Gross	2001:一, 環境省:一
選定理由	山地(稀に平地)の林縁などに自生する多年生植物であり, 既知の生育地は少ない(福岡植物研究会, 1993)。管理放棄などで生育地の微環境が変化する可能性が考えられるため, 今後の生育状況を注視すべきである。		
分布情報	北九州市, 添田町, 筑前町(旧夜須町), 那珂川町, 糸島市(旧前原市)		
タデ科		オオネバリタデ	準絶滅危惧
		<i>Persicaria viscofera</i> (Makino) H.Gross var. <i>robusta</i> (Makino) Hiyama	2001:一, 環境省:一
選定理由	山地(稀に平地)の林内や林縁に自生する多年生植物であり, 既知の生育地は多くない(福岡植物研究会, 1993)。遷移の進行などにより現存の生育地の微環境が変化する可能性が考えられる。		
分布情報	北九州市, 朝倉市(旧杷木町), 八女市(矢部村, 旧黒木町), 宗像市, 筑紫野市, 那珂川町, 糸島市(旧前原市, 二丈町)		
タデ科		マダイオウ	準絶滅危惧
		<i>Rumex madaio</i> Makino	2001:一, 環境省:一
選定理由	元来, 極めて稀な植物である(福岡植物研究会, 1993)。既知の生育地である山間部の溪流沿いの湿潤地が改変された可能性は少ないと思われるが, 新たな調査が望まれる。		
分布情報	八女市(旧矢部村), 筑紫野市		
ナデシコ科		オオヤマフスマ	準絶滅危惧
		<i>Moehringia lateriflora</i> (L.) Fenzl	2001:一, 環境省:一
選定理由	元来, 生育地および生育個体数の極めて少ない植物である(福岡植物研究会, 1993)。北九州市では, 工事に伴い国内他地域から移入した可能性があるが, 近年, 確認されていない。他の生育地の近年の状況は不明。		
分布情報	北九州市, うきは市(旧浮羽町)など		

クスノキ科		マルバニッケイ	準絶滅危惧
<i>Cinnamomum daphnoides</i> Siebold et Zucc.		2001:絶滅危惧Ⅱ類, 環境省:準絶滅危惧	
選定理由	県内の生育地は大島村だけであるが、現在も500株以上生育している。個体数の減少傾向は見られず、生育地の環境が急変する可能性も低い。		
分布情報	大島村		
キンポウゲ科		タンナトリカブト	準絶滅危惧
<i>Aconitum japonicum</i> Thunb. subsp. <i>napiforme</i> (H.Lév. et Vaniot) Kadota		2001:絶滅危惧Ⅱ類, 環境省:—	
選定理由	主な生育地である冷温帯落葉広葉樹林では、シカの食害で個体数が激減する植物が多いなか、アルカロイドを含む本種はほとんど食害を受けておらず、今後、個体数が増加する可能性もある。		
分布情報	豊前市, 築上町(旧築城町), 添田町, 糸島市(旧前原市)		
キンポウゲ科		リュウキンカ	準絶滅危惧
<i>Caltha palustris</i> L. var. <i>nipponica</i> H.Hara		2001:絶滅危惧Ⅱ類, 環境省:—	
選定理由	既知の自生地は少なかった[1]が、近年、新たな自生地が明らかとなった。現存する開花個体数は250を超えていると推定される。また、比較的安定して個体群が維持されている地点が多い。		
分布情報	東峰村, 福智山		
キンポウゲ科		シロバナハンショウヅル	準絶滅危惧
<i>Clematis williamsii</i> A.Gray		2001:準絶滅危惧, 環境省:—	
選定理由	本県での生育環境は石灰岩地に限られており、自生地も個体数も少数である。石灰岩の採掘により生育地が消滅する可能性もある。[1]		
分布情報	北九州市小倉南区, 香春町		
ウマノスズクサ科		フタバアオイ	準絶滅危惧
<i>Asarum caulescens</i> Maxim.		2001:絶滅危惧ⅢB類, 環境省:—	
選定理由	犬ヶ岳・英彦山などに分布するが、シカの食害を受けないため個体数は増加傾向にある。		
分布情報	豊前市, 築上町(旧築城町), 添田町, 宮若市(旧宮田町), 筑紫野市		
ウマノスズクサ科		ウンゼンカンアオイ	準絶滅危惧
<i>Asarum unzen</i> (F.Maek.) Kitam. et Murata		2001:—, 環境省:絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	全国的には稀少である。脊振山地では個体数の目立った増減は見られない。		
分布情報	嘉穂町, 宇美町, 筑紫野市, 飯塚市(旧筑穂町), 朝倉市, 福岡市(早良区), 那珂川町, 糸島市		
ツバキ科		サザンカ	準絶滅危惧
<i>Camellia sasanqua</i> Thunb.		2001:絶滅危惧Ⅱ類, 環境省:—	
選定理由	耳納山地の長岩山, 宗像市・岡垣町境の戸田山に分布。長岩山ではカンシンの低木層で優占し、多数の個体が高密度で生育する。[1]		
分布情報	宗像市, 岡垣町, 久留米市		
ツバキ科		ヒコサンヒメジャラ	準絶滅危惧
<i>Stewartia serrata</i> Maxim.		2001:準絶滅危惧, 環境省:—	
選定理由	湿気のある谷間を好み、英彦山地では上部のブナ林よりも下部のシオジ林内に多く見られる。英彦山を基準標本産地とする植物。高等植物ではヒコサンの名のつく唯一の植物である。[1]		
分布情報	英彦山地, 脊振山地, 釈迦岳山地		

ユキノシタ科		バイカウツギ	準絶滅危惧
<i>Phladelphus satsumi</i> Siebold ex Lindl. et Paxton		2001:絶滅危惧Ⅱ類, 環境省:ー	
選定理由	既知の生育地は石灰岩地に限られている[1]が, 多数の個体が安定して生育している自生地が多く, それら生育地の環境が急変する可能性も低い。		
分布情報	北九州市, 香春町, 福智町(旧方城町)		
バラ科		イブキシモツケ	準絶滅危惧
<i>Spiraea dasyantha</i> Bunge		2001:準絶滅危惧, 環境省:ー	
選定理由	かつてより生育地が限定されている植物で, 石灰岩地を中心に数カ所の生育地が知られているだけである。各生育地での現存個体数は比較的多く, 個体群は安定して維持されているようである。[1]		
分布情報	北九州市小倉南区, 香春町, 福智町(旧方城町)		
バラ科		シモツケ	準絶滅危惧
<i>Spiraea japonica</i> L.f.		2001:準絶滅危惧, 環境省:ー	
選定理由	日当たりの良い岩地・岩上に生える。英彦山では上仏来山を中心とした地域に多い。福智山の場合は樹木が茂り陰になって衰退している。[1]		
分布情報	福智山, 添田町		
ツツジ科		ゲンカイツツジ	準絶滅危惧
<i>Rhododendron mucronulatum</i> Turcz. var. <i>ciliatum</i> Nakai		2001:準絶滅危惧, 環境省:準絶滅危惧	
選定理由	凝灰岩や花崗岩などの岩地・岩上に生える落葉性のツツジで陽向の地を好む。分布が限られている。[1]		
分布情報	豊前市, 添田町, 福智町(旧赤池町), 上毛町(旧大平村), 東峰村(旧宝珠山村), 築上町		
モクセイ科		シマモクセイ	準絶滅危惧
<i>Osmanthus insularis</i> Koidz.		2001:準絶滅危惧, 環境省:ー	
選定理由	沿海地の照葉樹林に生える常緑高木。県内では福岡市(小呂島), 宗像市(沖ノ島, 旧玄海町鐘崎)に見られる。沖ノ島や小呂島では, 照葉樹林内に普通に見られ, 生育密度も高い。鐘崎では個体数は少ない。[1]		
分布情報	福岡市(小呂島), 宗像市(沖ノ島, 旧玄海町鐘崎)		
アカネ科		ルリミノキ	準絶滅危惧
<i>Lasianthus japonicus</i> Miq.		2001:準絶滅危惧, 環境省:ー	
選定理由	林内に生える常緑低木。県内ではやや内陸部の低山地に広く自生する。自生地の標高は約100~400mで, 照葉樹林内の林床に生育。森林伐採により個体数が減少している場所もある。[1]		
分布情報	福智山地, 清水山(みやま市旧瀬高町)		
ヒルガオ科		アオイゴケ	準絶滅危惧
<i>Dichondra micrantha</i> Urb.		2001:準絶滅危惧, 環境省:ー	
選定理由	道端や庭に生える小形の多年草。県内では沿海地に見られる。集落周辺の道端, 石垣の隅などにカーペット状に群生している。本土側沿岸での自生は稀で, 消滅した場所もある。[1]		
分布情報	玄界島, 小呂島。近縁種に外来種のカロリナアオイゴケがあるほか, 本種も近年国内移入が見られる。		
シソ科		ミソコウジュ	準絶滅危惧
<i>Salvia plebeia</i> R.Br.		2001:ー, 環境省:準絶滅危惧	
選定理由	1950年代は普通に見られた(中島, 1952)が, 1970年代には稀な種とされており(福岡県高等学校生物研究部会, 1975), 今後の生育状況を注視する必要がある。		
分布情報	平地のため池周辺の湿地など		

ゴマノハグサ科		カワチシャ	準絶滅危惧
<i>Veronica undulata</i> Wall.		2001:準絶滅危惧, 環境省:準絶滅危惧	
選定理由	ため池, 河川, 水路の土砂が堆積するような場所に生育する。ため池や水路の改修工事, 水質汚濁により減少。やや人里に近い環境に生育するために, 人間の影響を受けやすい。[1]		
分布情報	北九州市, 苅田町, 福岡市, うきは市(旧吉井町), 香春町。今後の調査で新たな生育地が確認される可能性あり。		
キク科		ダルマガク	準絶滅危惧
<i>Aster spathulifolius</i> Maxim.		2001:準絶滅危惧, 環境省:—	
選定理由	海岸の岩上に生える多年草で, 海岸断崖風衝地に生育する。玄界灘沿岸および島嶼に点々と見られ, 断崖に群生している場所もある。しかし, 海岸断崖という限られた場所に生育する植物であるため, 自生地は少ない。[1]		
分布情報	北九州市や福岡市, 糸島市など主に玄界灘沿岸		
キク科		ヤブレガサ	準絶滅危惧
<i>Syneilesis palmata</i> (Thunb.) Maxim.		2001:準絶滅危惧, 環境省:—	
選定理由	かつてより生育地の少ない植物である。近年, 生育地が更に減少しているが, 数百個体が現存する生育地もごく少数ながら存在する。[1]		
分布情報	北九州市小倉南区, 香春町		
トチカガミ科		ウミヒルモ	準絶滅危惧
<i>Halophila ovalis</i> (R.Br.) Hook.f.		2001:—, 環境省:準絶滅危惧	
選定理由	福岡県での生育地としては1カ所のみ確認されている。過去のデータがないため, この場所での生育量の変化に関しては不明である。		
分布情報	本州中部以南, 瀬戸内海, 九州, 南西諸島沿岸の砂地に生育。		
ヒルムシロ科		エビアマモ	準絶滅危惧
<i>Phyllospadix japonicus</i> Makino		2001:—, 環境省:準絶滅危惧	
選定理由	福岡県では波の比較的良好にあたる岩場に散在して生育するのが認められる。その生育量の増減に関するデータはない。		
分布情報	本州中部以南の太平洋沿岸, 日本海沿岸および九州沿岸。		
ヒルムシロ科		アマモ	準絶滅危惧
<i>Zostera marina</i> L.		2001:準絶滅危惧, 環境省:—	
選定理由	全国的に見てもアマモ場は減少していると考えられる。福岡県では, 博多湾内数カ所で大きなアマモ群落が確認されている。		
分布情報	福岡市(博多湾), 福津市		
ユリ科		ホソバナコバイモ	準絶滅危惧
<i>Fritillaria amabilis</i> Koidz.		2001:絶滅危惧Ⅱ類, 環境省:準絶滅危惧	
選定理由	脊振山地と英彦山地に分布する。春の短い期間にのみ地上部が活動する多年草。個体数は安定しているが, 園芸用採取により激減する危険がある。		
分布情報	福岡市早良区, 糸島市, 添田町		
サトイモ科		ミツバテンナンショウ	準絶滅危惧
<i>Arisaema ternatipartitum</i> Makino		2001:準絶滅危惧, 環境省:—	
選定理由	英彦山地や釈迦岳山地の夏緑樹林下部の林内に稀な植物で, スギ造林内にも生育している。多湿ぎみの土壌を好むようである。		
分布情報	豊前市, 添田町, 八女市(旧矢部村)		

カヤツリグサ科		キノクニスゲ	準絶滅危惧
<i>Carex matsumurae</i> Franch.		2001:準絶滅危惧, 環境省:準絶滅危惧	
選定理由	海岸斜面の岩礫地や、疎林内に生育する。現在のところ、急激な減少は見られない。		
分布情報	北九州市, 宗像市(旧玄海町, 旧大島村), 福岡市		
ラン科		シラン	準絶滅危惧
<i>Bletilla striata</i> (Thunb.) Rchb.f.		2001:準絶滅危惧, 環境省:準絶滅危惧	
選定理由	生育地が限られている。多数生育している場所もあるものの、園芸用の採取などによって個体数が減少している[1]。		
分布情報	北九州市, 田川市, 築上町(旧椎田町)		
イワデンタ科		ヒメノコギリシダ	情報不足
<i>Diplazium wichurae</i> (Mett.) Diels var. <i>amabile</i> Tagawa		2001:情報不足, 環境省:—	
選定理由	2001年版に情報不足種としてリストされている。福岡県の生育地に関する情報はその後得られていない。		
イワデンタ科		フクロシダ	情報不足
<i>Protowoodsia manchuriensis</i> (Hook.) Ching		2001:情報不足, 環境省:—	
選定理由	『福岡県植物誌』(1975)に犬ヶ岳, 英彦山の記録があるが、この報告を裏付ける標本資料も生育地も確認できない。		
ヒノキ科		ミヤマビャクシン	情報不足
<i>Juniperus chinensis</i> L. var. <i>sargentii</i> A.Henry		2001:情報不足, 環境省:—	
選定理由	1934年に竹内亮が英彦山(障子ヶ岳)から報告した。『福岡県植物目録』(1952)では障子ヶ岳に稀と記載されている。しかし、その後の確認記録がない。		
フサザクラ科		フサザクラ	情報不足
<i>Euptelea polyandra</i> Siebold et Zucc.		2001:情報不足, 環境省:—	
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)には2カ所の自生地が報告されており、『福岡県植物誌』(1975)にはこのうち釈迦岳が記録されている。しかし、その後生育地が確認されていない。		
キンボウゲ科		フジセンニンソウ	情報不足
<i>Clematis chinensis</i> Osbeck var. <i>fujisanensis</i> (Hisauti et H.Hara) W.T.Wang		2001:情報不足, 環境省:—	
選定理由	2001年版に情報不足種としてリストされている。福岡県の生育地に関する情報はその後得られていない。		
ツバキ科		ヒメジャラ	情報不足
<i>Stewartia monadelphica</i> Siebold et Zucc.		2001:情報不足, 環境省:—	
選定理由	『福岡県植物誌』(1975)には2カ所の自生地が報告されているが、その後生育地が確認されていない。		
ペンケイソウ科		アオノイワレンゲ	情報不足
<i>Orostachys malacophylla</i> (Pall.) Fisch. var. <i>aggregata</i> (Makino) H.Ohba		2001:情報不足, 環境省:—	
選定理由	『福岡県植物誌』(1975)には1カ所の自生地が記録されているが、その後生育地が確認されていない。		

イチヤクソウ科	シャクジョウソウ	情報不足
<i>Monotropia hypopithys</i> L.		2001:情報不足, 環境省:一
選定理由	2001年版に情報不足種としてリストされている。福岡県の生育地に関する情報はその後得られていない。	
ツツジ科	ヒメミツバツツジ	情報不足
<i>Rhododendron nudipes</i> Nakai var. <i>nagasakianum</i> (Nakai) T.Yamaz.		2001:情報不足, 環境省:一
選定理由	2001年版に情報不足種としてリストされている。福岡県の生育地に関する情報はその後得られていない。	
ムラサキ科	タイワンルリソウ	情報不足
<i>Cynoglossum lanceolatum</i> Forssk. var. <i>formosamum</i> (Nakai) H.Hara		2001:情報不足, 環境省:絶滅危惧 IA 類
選定理由	2001年版に情報不足種としてリストされている。福岡県の生育地に関する情報はその後得られていない。	
ゴマノハグサ科	ウンラン	情報不足
<i>Linaria japonica</i> Miq.		2001:情報不足, 環境省:一
選定理由	2001年版に情報不足種としてリストされている。福岡県の生育地に関する情報はその後得られていない。	
キク科	ヤマニガナ	情報不足
<i>Lactuca raddeana</i> Maxim. var. <i>elata</i> (Hemsl.) Kitam.		2001:情報不足, 環境省:一
選定理由	『福岡県植物誌』(1975)では福智山, 香春岳, 英彦山, 釈迦岳が記録されているが, その後の確認情報がない。	
ヒルムシロ科	コアマモ	情報不足
<i>Zostera japonica</i> Asch. et Graebn.		2001:情報不足, 環境省:一
選定理由	2001年版では情報不足とされている。その後も県内での生育に関する情報は得られていない。引き続き情報収集が必要な種と考えられる。	
イネ科	シラシマメダケ	情報不足
<i>Pleioblastus nabeshimanus</i> Koidz.		2001:情報不足, 環境省:一
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)では白島(タイプ標本産地), 志賀島, 姪浜, 叶岳が記録されているが, その後の確認情報がない。	
カヤツリグサ科	サワヒメスゲ	情報不足
<i>Carex mira</i> Kük.		2001:情報不足, 環境省:一
選定理由	2001年版に情報不足種としてリストされている。福岡県の生育地に関する情報はその後得られていない。	
カヤツリグサ科	エソハリイ	情報不足
<i>Eleocharis congesta</i> D.Don var. <i>thermalis</i> (Hultén) T.Koyama		2001:情報不足, 環境省:一
選定理由	2001年版に情報不足種としてリストされている。福岡県の生育地に関する情報はその後得られていない。	
カヤツリグサ科	カドハリイ	情報不足
<i>Eleocharis tetraquetra</i> Nees var. <i>tsurumachii</i> (Ohwi) Ohwi		2001:情報不足, 環境省:絶滅危惧 IA 類
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)で八女市(旧黒木町)に記録, 『福岡県植物誌』(1975)でも引用されている。根拠となる標本(1932年採集)はカドハリイと正確には一致せず更なる研究が必要。自生地は既に失われた可能性がある。	

カヤツリグサ科		オオイヌノハナヒゲ	情報不足
<i>Rhynchospora fauriei</i> Franch.		2001:情報不足, 環境省:—	
選定理由	2001 年版に情報不足種としてリストされている。福岡県の生育地に関する情報はその後得られていない。		
ラン科		ニラバラン	情報不足
<i>Microtis unifolia</i> (G.Forst.) Rehb.f.		2001:情報不足, 環境省:—	
選定理由	『福岡県植物目録』(1952)では福岡市(西戸崎, 油山)が記録されされているが, その後の確認情報がない。しかし, 屋久島以南では雑草的な種であり, 再発見の可能性はある。		
ラン科		オオヤマサギソウ	情報不足
<i>Platanthera sachalinensis</i> F.Schmidt		2001:情報不足, 環境省:—	
選定理由	2001 年版に情報不足種としてリストされている。福岡県の生育地に関する情報はその後得られていない。		
ラン科		キバナノショウキラン	情報不足
<i>Yuania amagiensis</i> Nakai et F.Maek.		2001:情報不足, 環境省:絶滅危惧 IB 類	
選定理由	2001 年版に情報不足種としてリストされている。福岡県の生育地に関する情報はその後得られていない。		

蘚苔類

福岡県の蘚苔類については、福岡県高等学校生物研究部会（編）「福岡県植物誌」（1975）に県産種目録を含む詳細な記録があるが、その後県内を網羅する調査はされてこなかった。一つの理由としては、県内在住の蘚苔類の専門家がほとんどいないことが挙げられる。2001年版では植物は維管束植物のみを対象とし、蘚苔類の調査は行われなかったが、今回の改訂にあたり、県外の専門家に協力を仰いで調査を実施し、レッドリストを作成した。本リストは、秋山弘之氏（兵庫県立人と自然の博物館）の文献調査と山口富美夫氏（広島大学）・山口研究室学生諸兄の古処山系・英彦山系現地調査に基づいて、山口氏にとりまとめていただいた。

イタチゴケ科

リスゴケ

絶滅危惧Ⅰ類

Dozya japonica Sande Lac.

環境省：一

選定理由 県内では稀で、沖ノ島と英彦山で記録されていた。今回の調査では英彦山で生育が確認されたが、個体数は少ない。

危機要因 森林伐採、自然災害

分布情報 添田町（英彦山）。宗像市（沖ノ島）からも報告があるが現状不明。

種の概要 山地の樹幹上、稀に岩上に生育する。乾くと葉が枝に密着し、やや光沢がある。イタチゴケ属の蘚類に類似するが葉に中肋がある。

特記事項 特になし

ツヤゴケ科

オオミツヤゴケ

絶滅危惧Ⅰ類

Entodon conchophyllus Cardot

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由 県内での生育地は限られており、これまで太宰府市、糸島市、添田町（英彦山）、脊振山から記録されていた。今回の調査では、新たに古処山で生育が確認された。

危機要因 森林伐採

分布情報 嘉麻市（古処山）。その他の産地については現状不明。

種の概要 山地の樹幹上に生育する。直立したほぼ球形の蒴をつけるのが特徴である。

特記事項 特になし

ミスゴケ科

コバノホソベリミスゴケ

絶滅危惧Ⅱ類

Sphagnum junghuhnianum Dozy & Molk. subsp. *pseudomolle* (Warnst.) H.Suzuki

環境省：情報不足

選定理由 県内では英彦山でのみ記録されていた。今回の調査でも英彦山の1カ所で再確認された。生育場所は限られ、群落も小さい。

危機要因 森林伐採、園芸採取、踏みつけ、産地局限

分布情報 添田町（英彦山）

種の概要 山地の水がしみ出ているような岸壁上に群落を形成する。

特記事項 特になし

キヌシツポゴケ科

和名なし

絶滅危惧Ⅱ類

Seligeria patula (Lindb.) Broth. var. *patula*

環境省: —

選定理由	県内では北九州市で記録されていた。今回の調査では古処山で生育が確認されたが、生育地は限られ個体数も少ない。
危機要因	森林伐採
分布情報	北九州市（平尾台）、嘉麻市（古処山）
種の概要	石灰岩の岸壁上にまばらな群落を形成する。非常に小形の種である。
特記事項	特になし

ハイヒモゴケ科

ヒロシノブイトゴケ

絶滅危惧Ⅱ類

Trachycladiella aurea (Mitt.) M.Menzel

環境省: 準絶滅危惧

選定理由	県内では英彦山で記録されていた。今回の調査では古処山で生育が確認されたが、個体数は少ない。
危機要因	森林伐採
分布情報	嘉麻市（古処山）。今回の調査では英彦山で確認できなかった。
種の概要	山地溪谷の林内の樹幹上や岩上から懸垂して生育する。茎は長くて30cmに達する。
特記事項	特になし

ヒラゴケ科

キブリハネゴケ

絶滅危惧Ⅱ類

Pinnatella makinoi (Broth.) Broth.

環境省: 準絶滅危惧

選定理由	県内では北九州市と糸島市で記録されていた。今回の調査では古処山で生育が確認されたが、個体数は少ない。
危機要因	森林伐採
分布情報	嘉麻市（古処山）。過去に報告のある北九州市（平尾台）と糸島市（旧前原市）の現状は不明である。
種の概要	石灰岩上に群落を形成する。二次茎は立ち上がり、枝は密に分枝する。
特記事項	特になし

ミスゴケ科

オオミスゴケ

準絶滅危惧

Sphagnum palustre L.

環境省: 準絶滅危惧

選定理由	湿原のほか人里近くの湿地にも生育するが、生育地は限られている。
分布情報	福岡市、行橋市、田川市から1950年代に採取された標本がある。最近では、豊前市、築上町、筑紫野市、那珂川町、東峰村、嘉麻市、赤村で確認されている。

イクビゴケ科

クマノゴケ

準絶滅危惧

Diphygium lorifolium (Cardot) Magombo

環境省: 準絶滅危惧

選定理由	山地の溪谷内で、水しぶきのかかるような岩上に小さな群落をつくって生育する。生育地は限られており、個体数も少ない。
分布情報	福岡市、添田町

ムジナゴケ科		マツムラゴケ	準絶滅危惧
		<i>Duthiella speciosissima</i> Broth. ex Cardot	環境省: ー
選定理由	山地林内の岩上や地上に生育し、特に石灰岩地に多いが、県内での生育地は限られており、個体数も少ない。		
分布情報	嘉麻市		
ヒラゴケ科		セイナンヒラゴケ	準絶滅危惧
		<i>Neckeropsis calcicola</i> Nog.	環境省: ー
選定理由	石灰岩上に生育する種であり、県内での生育地は限られている。		
分布情報	嘉麻市, 田川市		
クジャクゴケ科		コキシノオゴケ	準絶滅危惧
		<i>Cyathophorum hookerianum</i> (Griff.) Mitt.	環境省: 準絶滅危惧
選定理由	林内の樹幹上や岩上に生育するが、県内での生育地は限られており、個体数も少ない。		
分布情報	福岡市, 嘉麻市, 添田町		
クサリゴケ科		カビゴケ	準絶滅危惧
		<i>Leptolejeunea elliptica</i> (Lehm. & Lindenb.) Schiffn.	環境省: 準絶滅危惧
選定理由	空中湿度の高い林内の常緑広葉樹やシダの生葉上に着生する。県内での生育地は限られている。		
分布情報	福岡市, 久留米市, 大野城市, 東峰村		
ウキゴケ科		ウキゴケ	準絶滅危惧
		<i>Riccia fluitans</i> L.	環境省: 準絶滅危惧
選定理由	池, 水田, 水路などの水面に浮かんで生育する。湧水などの澄んだ水を好むため生育地は限られている。		
分布情報	柳川市		
センボンゴケ科		ダンダンゴケ	情報不足
		<i>Eucladium verticillatum</i> (Brid.) Bruch & Schimp.	環境省: 絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	石灰岩上に生育する種であり、1975年に北九州市平尾台から報告された。しかし、その後生育は確認されていない。		
分布情報	北九州市		
ハンボンゴケ科		ミスジャバネゴケ	情報不足
		<i>Clastobryum glabrescens</i> (Z.Iwats.) B.C.Tan & Z.Iwats.	環境省: 絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	熱帯に分布する種で、国内では屋久島に分布することが知られている。県内では英彦山から1975年に報告されているが、それ以外の記録はない。		
分布情報	北九州市		

藻類

福岡県の藻類（海藻類、淡水藻類）の生育種数に関してはこれまで断片的な情報しかなく、十分な解明はなされていないのが現状である。特に海藻類の場合、深所（ここでは水深 5m 以下を想定）に生育する種については全くといっていいほど情報がない。また、藻類は今回初めて本県のレッドデータブックに載せられるグループであり、2001 年度版からのデータの蓄積もない。従って、本資料では、環境省のレッドリストおよび近県の希少種に関する情報を参考にしつつ、2 年間の調査に基づいて種の選定を行った。成果としては未だ不十分と言わざるを得ないが、本資料の出版目的に多少なりとも貢献できれば幸いである。

1. 海藻類

海藻類は、「藻類」のうち海に生活しているものを指すが、実際には、肉眼的サイズで岩などに付着して我々の目に付くものに限って使うことが多い。日本全体で 1,500 種程度、一般に緑藻（アオサ藻）、紅藻、褐藻の 3 つの系統群に区分される。

海藻類は沿岸域の生態系の重要な要素であるとともに、その環境の現況や変化を知る上で重要である。しかし、海藻類の多くは生育期間（寿命）が短いものでは数ヶ月、長いものでも数年程度と言われており、種類によっては一年の間で肉眼的な大型の世代と、顕微鏡的な微小な世代が交代する生活史型（異形世代交代）を示す。そのため、生育する種が季節的に肉眼では認められなくなったり、生育場所の環境変化により短期間で消失することがある。しかしその一方、孢子などの生殖細胞の移動・拡散は比較的容易なため、その種の生育に好適な環境が整えば、比較的長期間観察されなかった種が再び出現することも起こりうる。そうした意味で、希少種選定やカテゴリー区分が難しいグループと言える。

2. 淡水藻類

淡水藻類は池沼、湖、河川、水田などに広く分布し、主に水中に浮遊してあるいは石礫などの基物に付着して生育する。湿った土や岩の上、石垣や木の幹の表面など比較的乾いた環境に生育する種類は気生藻とよばれるが、これらも淡水藻類に含める。また、藍藻類は、原核生物の藍色細菌（シアノバクテリア）としてバクテリアに含めるのが一般的であるが、ここでは便宜上藻類の一分類群として扱う。

淡水藻類の種類は極めて多く、しかもその多くは微小であるため、全ての分類群を網羅することは難しい。また、種の同定には相当専門的知識が必要な場合が多い。そのため、種の選定にあたっては、藻体が肉眼的サイズであり、その同定が比較的容易な種のみを対象とした。

※ 分類について

淡水藻類の分類については、海藻類と同様、DNA 解析に基づく分子系統分類の進展により、従来の分類体系が変更されつつある。しかし、本資料の目的に鑑み、以下の文献でこれまで用いられている学名および和名を採用した。

○廣瀬弘幸・山岸高旺 編（1997）「日本淡水藻図鑑」、内田老鶴圃。

○熊野 茂著（2000）「世界の淡水産紅藻類」、内田老鶴圃。

○熊野 茂・新井章吾・大谷修司・香村真徳・笠井文絵・佐藤裕司・洲澤 譲・田中次郎・千原光雄・中村 武・長谷井稔・比嘉 敦・吉崎 誠・吉田忠生・渡邊 信（2007）「環境省「絶滅のおそれのある種のリスト」（RL）2007 年度版（植物 II・藻類・淡水産紅藻）について」、藻類 55: 207-217。

カテゴリーと選定基準

カテゴリー区分は環境省のそれに準拠した。過去に生育していた証拠があって、今回の調査では生育が確認できなかったものの生育の可能性が高いものについては、「絶滅危惧 I 類」として取り扱った。また海藻類の種の中に打ち上げ材料としてのみ採集されたものがあり、厳密にはその生育地は不明ということになるが、得られた藻体の数およびその状態から、明らかに本県に生育していると考えられた種は本資料に含めた。

委員以外で意見をいただいた専門家（順不同、敬称略）

（海藻類）

吉田忠生、寺田竜太、畷田智

（淡水藻類）

吉田忠生、熊野 茂、寺田竜太、行平真也

藍藻類クロオコックス科

スイゼンジノリ

絶滅危惧Ⅰ類

Aphanothece sacrum (Suringar) Okada

環境省: 絶滅危惧Ⅰ類

選定理由	熊本市水前寺公園の材料に基づいて記載された本種は、以前は熊本県と福岡県の数カ所で生育していた。現在は、熊本市の上江津湖でわずかに保護管理されている。また、朝倉市(旧甘木市)では養殖されているが、環境の悪化によりその養殖は次第に難しくなっているのが現状である。
危機要因	水質汚濁
分布情報	上江津湖(熊本市), 朝倉市(旧甘木市)
種の概要	円形ないし円形に近い不定形の群体を形成し、寒天質の基質中に多数の細胞が散在する。各細胞の分裂により群体が大きくなると断裂して群体が増える。
特記事項	上江津湖はスイゼンジノリ発生地として国の天然記念物に指定

紅藻類チスジノリ科

オキチモズク

絶滅危惧Ⅰ類

Nemalionopsis tortuosa Yoneda et Yagi

環境省: 絶滅危惧Ⅰ類

選定理由	愛媛県川内町の材料で記載された本種は、川の上流か湧水起源の細流のような清澄な環境にのみ生育する。生育が確認されている場所は全国でも10カ所程度に過ぎない。
危機要因	河川開発, 水質汚濁
分布情報	福岡県, 熊本県, 長崎県, 沖縄県など。
種の概要	藻体はひも状で分枝し、太さ0.5mm前後、長さ40cmぐらいまでになる。生殖は、単胞子による無性生殖のみが知られる。
特記事項	特になし

紅藻類チスジノリ科

チスジノリ

絶滅危惧Ⅱ類

Thorea okadae Yamada

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由	本種は、大きな河川の中流域、あるいは比較的流れのある清澄な小河川に生育する。日本固有種。九州が主な産地であり、本州からの報告はごくわずかである。河川開発などで生育地、生育量が減少している。本県では、産地が極めて限定的で量的にも少ない。
危機要因	河川開発, 水質汚濁
分布情報	福岡県朝倉市, 熊本県, 長崎県, 沖縄県など。
種の概要	藻体は紐状で柔らかく、羽状に分枝する。太さ0.8~1.5mm、長さは通常10~45cm、長いものでは1mを越すものがある。大型の雌雄配偶体(チスジノリ本体)と微小な胞子体(チャントランシア期)とが世代交代する。後者の藻体の細胞が減数分裂し、そこから直接雌雄配偶体が形成される。分枝する暗紅色ないし暗紫色の藻体が血管を連想させるため、この名が付けられた。
特記事項	熊本県菊池川, 鹿児島県川内川の生育地は、国の天然記念物に指定されている。

緑藻類シャクモ科

シャクモ

絶滅危惧Ⅱ類

Chara braunii Gmelin

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由	全国的に生育地が減少している。福岡県ではこれまで本種の生育地やその増減に関する報告はないが、同様の状況であることが推定される。
危機要因	ため池改修, 水質汚濁
分布情報	ほぼ全国に分布
種の概要	藻体は線状で分枝し、太さ0.3~1mm、高さは20~30cmぐらいまでになる。藻体の各節から8~11本の輪生枝が出る。雌雄同株。
特記事項	特になし

緑藻類カワノリ科 **カワノリ** **絶滅危惧Ⅱ類**

Prasiola japonica Yatabe 環境省: 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由	福岡県では、過去に旧八女郡星野村近くの河川で採られた押し葉標本がある。今回の調査では過去の採集地付近での生育は確認できなかったが、同村周辺での聞き取り調査によれば、現在でも生育している可能性が高い。
危機要因	不明（河川環境の悪化によるものと考えられるが、詳細は不明）
分布情報	本州中部以南の河川に分布し、上流域の水の清澄な場所に生育する。九州では熊本県の菊池川、矢部川が主要な産地である。
種の概要	藻体は笹の葉状で、一層の細胞列からなる。高さ 20cm ぐらいまでになり、小さな付着基器で基物に固着する。胞子による無性生殖と雌雄配偶子による有性生殖が知られている。日本固有種である。
特記事項	八女市（旧星野村）天然記念物（唐迫の川のり）

紅藻類オオイシソウ科 **オオイシソウ** **絶滅危惧Ⅱ類**

Compsopogon coeruleus Montagne 環境省: 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由	淡水産紅藻類のうち、有性生殖が知られていないなど原始的な特徴を示す独特な群である。分類学的にも重要である。
危機要因	河川開発、水路改修、水質汚濁
分布情報	福島県以南の各県
種の概要	藻体はひも状で分枝する。高さ 30cm、太さ 1.5mm ぐらいまで。有性生殖は知られず、単胞子による無性生殖により増える。
特記事項	特になし

褐藻類ホンタワラ科 **スギモク** **絶滅危惧Ⅱ類**

Coccophora langsdorfii (Turner) Greville 環境省: なし

選定理由	本種は日本海特産種と考えられている。九州北部が本種の分布の南限と考えられ、これまでの調査では本県での生育量は極めてわずかである。
危機要因	産地局限
分布情報	文献によれば、大分県姫島が分布の南限と考えられる。
種の概要	卵形の生殖器床が枝の先端にできるのが特徴である。
特記事項	特になし

紅藻類カワモスク科 **チャイロカワモスク** **準絶滅危惧**

Batrachospermum arcuatum Kylin 環境省: 準絶滅危惧

選定理由	県内で生育が確認されているが、多くはない。カワモスク類は湧水を起源とする小川などに特異的に生育する淡水産の紅藻であり、全国的に多くの種が希少種と考えられている。本種も同様である。
分布情報	東北から沖縄まで広く分布

紅藻類カワモスク科 **アオカワモスク** **準絶滅危惧**

Batrachospermum helminthosum Bory 環境省: 準絶滅危惧

選定理由	県内では福岡市、甘木市など数カ所で生育が確認されている。チャイロカワモスク同様、その特異的な生育条件から生育量は多くはないと考えられる。
分布情報	日本全国に広く分布

紅藻類コノハノリ科

アヤギヌ

準絶滅危惧

Caloglossa continua (Okamura) King et Puttock

環境省準絶滅危惧

選定理由 汽水性の紅藻類で、本県では博多湾に注ぐ数本の河川の河口域で、ヨシの基部に相当数着生して生育していることを確認している。

分布情報 東北から南西諸島までの主として太平洋岸および瀬戸内海に分布する。

紅藻類ミリン科

トサカリ

情報不足

Meristotheca papulosa (Montagne) J. Agrdh

環境省準絶滅危惧

選定理由 本種は海藻サラダなどの食用として重要な採藻対象種となっている。福岡県では、福岡市周辺の浜で打ち上げにより時折採集される。藻体の状況から判断して深所に生育していると考えられるが、生育量やその変化に関するデータはない。

分布情報 本州太平洋中部以南、瀬戸内海、九州西岸。潮通しが良い場所に良く生育する。

地衣類

福岡県の地衣類については、大内 隼氏による福岡県高等学校生物研究部会（編）「福岡県植物誌」（1975）の県産種目録、大分県側を含む英彦山系の調査報告 Kashiwadani et al. (1998) Lichens of Mt. Hikosan and Its Adjacent Area, Kyushu, Japan がある。2001 年版では植物は維管束植物のみを対象とし地衣類の調査は行われなかったが、今回の改訂にあたり、県外の専門家に依頼して文献資料を精査しレッドリストを作成した。本リストは、英彦山系の調査報告の著者の一人である大村嘉人氏（国立科学博物館）の協力を得て、宮脇博巳氏（佐賀大学）にとりまとめていただいた。

ハナゴケ科		ツブミゴケ	絶滅
		環境省: 絶滅危惧Ⅰ類	
<i>Gymnoderma insulare</i> Sharp & Yoshim.			
選定理由	大内(1970)は、小石原の行者杉など福岡県内の杉林をくまなく探したが、当時でも英彦山でしか見られないと報告している。一方、Kashiwadani et al. (1998)によると、1991年の台風被害(自然災害)のため英彦山からは発見出来なかったとしている点から、県内で絶滅したと思われる。		
危機要因	自然災害、大気汚染		
分布情報	本州高野山、四国石鎚山、九州、台湾のスギ類の古木の樹皮に着生する。		
種の概要	扁平な地衣体でハナゴケ類の基本葉体に類似する。しかし、子器柄はハナゴケ類の様に長くはなく、ごく短い。子器は基本葉体の周辺に着く。		
特記事項	安定した古いスギ群落が存在しないと生育できないと思われる。		
ウメノキゴケ科		トゲナンブネゴケ	絶滅危惧Ⅰ類
		環境省: 絶滅危惧Ⅰ類	
<i>Relicina echinocarpa</i> (Kurok.) Hale			
選定理由	大内(1971)は、福岡県からは英彦山、脊振山、犬ヶ岳(豊前市)、深江海岸(糸島市)、みやこ町(旧犀川町)で報告しているが、その後本県より本種の報告はない。全国的にも稀産種であり、環境省カテゴリーでも絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)とされている。		
危機要因	土地造成、森林伐採		
分布情報	日本特産で四国、九州、沖縄に産する。		
種の概要	暖地の石の上や樹皮上に生育する中形葉状地衣類。地衣体は径2~5cmで、基物に密着する。表面は黄緑色。裂片は幅1~2mmで葉縁に基部が膨れたシリアをつけ、裂芽や粉芽はない。裏面は黒色で短い偽根を散生する。基準標本は福岡県英彦山のブナ上で発見された。宮崎、熊本両県の暖帯林でも発見されている。		
特記事項	日本固有種		
ウメノキゴケ科		ノダケウメノキゴケ	絶滅危惧Ⅰ類
		環境省: なし	
<i>Hypotrachyna nodakensis</i> (Asahina) Hale			
選定理由	我が国の5カ所のみから報告されるに過ぎない(Asahina, 1959)。Kashiwadani et al. (1998)は、英彦山の2点での生育を確認している。森林開発やその他環境変化による複合要因で減少傾向にある。		
危機要因	森林伐採、大気汚染		
分布情報	山地の樹皮や岩石上に着生。本州。国外では台湾に知られる。		
種の概要	山地の樹皮や岩石上に着生。地衣体は灰緑色~灰白色、葉状。裂片の表面には裂芽があり、裏面は黒色で又状分岐した偽根がある。		
特記事項	特になし		

ウメノキゴケ科

ヨコワサルオガセ

絶滅危惧Ⅰ類

Usnea diffracta Vain.

環境省: なし

選定理由	かつては最も普通のサルオガセ属の種であったが、急激に減少している。地球規模の大気汚染や自然林の荒廃や古木の伐採等の影響が考えられる。
危機要因	地球規模の大気汚染, 森林伐採
分布情報	日本全土, 台湾, 中国に産する。
種の概要	樹皮に着生する樹状地衣。地衣体は糸状に伸び、基物である樹皮から垂れ下がる。地衣体は、表面の皮層・白色の髓層・帯桃肌色の中軸からなる。同じ長さ・太さの二股分岐を繰り返す。「ヨコワ」の名前のおおりに、横に環状の割れ目があるのが特徴的である。
特記事項	特になし

イワタケ科

イワタケ

準絶滅危惧

Umbilicaria esculenta (Miyoshi) Minks

環境省: なし

選定理由	かつては一般種であったが、秋田、佐賀など全国的に激減している。国を超えた何らかの大気汚染物質の流入が原因であると思われる。
危機要因	地球規模の大気汚染
分布情報	日本など東アジアに産する。
種の概要	モミなどが分布する比較的低山に見られる。花崗岩のような石英質の岩石を基物として付く葉状地衣。背面は灰褐色で平滑、濡れると緑色が強くなる。粉霜は無い。腹面は暗黒色で、黒～黒褐色の偽根を付ける。偽根は良く分岐。中央の臍状体（せいじょうたい）で基物に付く。臍状体を中心として放射状に板状体が発達し、偽根は少ない。髓は白色、C+紅色。古くから食用に利用されてきた。
特記事項	特になし

ウメノキゴケ科

フクロセンゴケ

情報不足

Menegazzia asahinae (Yasuda ex Asahina) R.Sant.

環境省: なし

選定理由	大内(1965)は、福岡県からは英彦山で報告しているが、Kashiwadani et al. (1998)では、英彦山で発見出来なかった。急激な減少が懸念される。
危機要因	大気汚染, 森林伐採
分布情報	北海道から九州, 台湾
種の概要	平地～低山地帯でかつてはよく見られた。樹皮上や岩上に着生する葉状地衣。地衣体背面は灰白色から灰緑色で先端部は褐色を帯びる。裂片に穴（穿孔）が見られるのが特徴的である。葉体の一部が盛り上がり、その先端に粉芽を付ける。腹面には偽根も穿孔も無い。髓層 K+黄色, P+赤色。
特記事項	特になし

ウメノキゴケ科

ヨシノミヤマクグラ

情報不足

Oropogon orientalis (Gyeln.) Essl.

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由	英彦山と釈迦岳で報告があった(大内, 1970)が、Kashiwadani et al. (1998)では英彦山で確認出来なかった。釈迦岳が本種の国内南限でもあり、選定した。釈迦岳などの調査が終わっていない。
危機要因	大気汚染, 森林伐採
分布情報	日本特産で本州, 九州に産する。
種の概要	ミヤマクグラに類似するが、地衣成分で区別される。本州（奈良県小普賢岳）と福岡県に分布する。
特記事項	日本固有種

菌 類

福岡県の菌類については、県内を網羅する調査がほとんどない。2001年版では植物は維管束植物のみを対象とし、菌類の調査は行われなかったが、今回の改訂にあたり、県外の専門家に協力を仰いで資料調査・聞き取り調査を実施し、レッドリストを作成した。本リストは、村上康明氏（大分県農林水産研究指導センターきのこグループ）にとりまとめた。とりまとめにあたり、以下の各氏から情報を提供いただいた。新谷正信、金子周平、遠藤正喜、波多野英治、砂田洋一、山添寛治（敬称略）。

本リストでは、環境省のレッドリスト（2007）に掲載されているもののうち、福岡県に産することが確実なものを掲載した。リストの作成にあたって聞き取り調査を行う中で、以下の種が要検討としてリスト掲載候補に挙げられた。今回はカテゴリー選定に十分な情報がないため、要検討種として種名を挙げるにとどめるが、次回改訂時には、現地調査を含む情報収集を行い、再評価を行う必要がある。

表 菌類-1 要検討種

キシメジ科	ホンシメジ	ジャガイモタケ科	ジャガイモタケ	シロソウメンタケ科	アリノタイマツ
キシメジ科	フチドリツエタケ	アカカゴタケ科	カゴタケ	カンゾウタケ科	カンゾウタケ
ベニタケ科	アカモミタケ	アカカゴタケ科	アンドンタケ	ビョウタケ科	クチキトサカタケ
イグチ科	ミダレアミイグチ	アカイカタケ科	アカイカタケ	ニクザキン科	カエシタケ
イグチ科	ヒメウグイスイグチ	ケシボウズタケ科	ナガエノホコリタケ	クロサイワイタケ科	ホソツクシタケ
イグチ科	タマノイグチ	ケシボウズタケ科	ウネミケシボウズタケ	セイヨウショウロタケ科	イボセイヨウショウロ

なお、分布情報は九州内の近隣3県（大分、熊本、佐賀）にしぼって表示しているが、その他の県に分布しないというわけではない。きのこの場合は分布調査の困難性から正確な分布域を判断するのは非常に困難である。食用きのこや稀菌に属するものは比較的わかっているが、そういうきのこに関しても、きのこ研究者がいなかったり、県内にきのこの会が存在しない県では分布状況がわかっていない。

担子菌門ハラタケ目キシメジ科		マツタケ	準絶滅危惧
<i>Tricholoma matsutake</i> (S. Ito & S. Imai) Singer			環境省:準絶滅危惧
選定理由	本種は通常山地のアカマツ林を中心に分布しているが、福岡県においては、海岸クロマツ林に発生する。このような例は鹿児島県吹上浜においても知られているが、稀な例といえる。松枯れ、宅地化、開発などによって海岸クロマツ林の環境が悪化しており、絶滅が危惧される。		
分布情報	岡垣町、福津市津屋崎、熊本県、大分県、佐賀県		
担子菌門ハラタケ目キシメジ科		シモコン	情報不足
<i>Tricholoma auratum</i> (Paulet) Gillet			環境省:情報不足
選定理由	海岸クロマツ林に発生する。松枯れ、宅地化、開発などによって海岸クロマツ林の環境が悪化しており、絶滅が危惧される。		
分布情報	福津市津屋崎、岡垣町三里松原、熊本県、大分県、佐賀県		
担子菌門ヒダナシタケ目イボタケ科		マツバハリタケ	情報不足
<i>Bankera fulgineoalba</i> (J.C. Schmidt) Coker & Beers ex Pouzar			環境省:情報不足
選定理由	海岸クロマツ林に発生する。松枯れ、宅地化、開発などによって海岸クロマツ林の環境が悪化しており、絶滅が危惧される。		
分布情報	岡垣町三里松原、熊本県、大分県、佐賀県		

担子菌門ヒダナシタケ目イボタケ科

クロカフ

情報不足

Boletopsis leucomelaena (Pers.) Fayod

環境省:情報不足

選定理由 福岡県では海岸クロマツ林に発生する。松枯れ、宅地化、開発などによって海岸クロマツ林の環境が悪化しており、絶滅が危惧される。

分布情報 岡垣町三里松原, 熊本県, 大分県

担子菌門スッポントケ目スッポントケ科

ウスキキヌガサタケ

情報不足

Dictyophora indusiata f. *lutea* (Liou & L. Hwang) Kobayasi

環境省:情報不足

選定理由 常緑広葉樹林に発生するが、宅地化や開発によって県内では常緑広葉樹林が減少している。

分布情報 北九州市, 直方市, 宗像市, 添田町, 熊本県, 大分県, 佐賀県

担子菌門ヒメノガステル目ショウロ科

ショウロ

情報不足

Rhizopogon rubescens (Tul.) Tul.

環境省:情報不足

選定理由 海岸クロマツ林に発生する。松枯れ、宅地化、開発などによって海岸クロマツ林の環境が悪化しており、絶滅が危惧される。

分布情報 岡垣町三里松原, 熊本県, 大分県, 佐賀県